

原遺跡 18 次

-福岡県太宰府市大字太宰府・三条1丁目所在原遺跡18次調査報告書-
福岡県文化財調査報告書第219集

2008

福岡県教育委員会

卷頭図版 1



1号建物跡（南から）

卷頭図版 2



1. 調査区遠景（南から）



2. 2号建物跡（南から）



1. 2号建物跡北西隅（北東から）



2. 板碑発掘前（南から）



3. 板碑発掘状況（南東から）

卷頭図版 4



SS251 西端ビット出土黄褐釉陶器壺

序

本書は福岡県土木部那珂土木事務所による原川筋砂防ダム建設に伴い発掘調査を実施した、福岡県太宰府市三条1丁目・大字太宰府に所在する、原遺跡18次の発掘調査報告書です。

原遺跡は中世に栄え、この地域の歴史に名を残す原山無量寺跡と推定される遺跡です。本調査では、原山無量寺の創建時期に遡る11世紀の建物跡を検出し、正平23（1368）年銘梵字板碑を調査するなど、地域の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。

平成15年7月豪雨の二次災害を防ぐための砂防ダム建設という事業の緊急性のため、調査期間等の制約があり、満足な発掘調査であったとは言えませんが、本報告書が、「太宰府学」の充実や、学校教育・生涯学習の一資料として活用されれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただき関係者の皆様及び関係諸機関の皆様に深く感謝します。

平成20年3月31日

福岡県教育委員会
教育長 森山 良一

例　言

1. 本書は平成18・19年度に福岡県教育委員会が原川砂防ダム4号堰堤建設事業に先立って発掘調査を実施した福岡県太宰府市大字太宰府、三条1丁目に所在する原遺跡第18次発掘調査の報告書である。なお、調査次数は太宰府市教育委員会の調査と連番としている。
2. 本書に掲載した遺構写真は調査担当者が撮影し、空中写真は有限会社空中写真企画に委託した。遺物写真は北岡伸一が撮影した。
3. 掲載した遺構図は調査担当者の他に、古賀千都子、古賀滝子、井上ヤス子、堤田貴利枝の協力を得た。遺物は平田春美、棚町陽子、久富美智子、田中典子、坂田順子、橋之口雅子、堀江圭子、若松三枝子、寺岡和子、中川陽子、中川洋子、栗林明美と重藤輝行が実測した。
4. 製図は豊福弥生・原カヨ子・江上佳子・重藤が行い、土山真弓美・安永啓子・山田智子・辻清子がこれを補助した。
5. 使用した方位は座標北である。
6. 本書の執筆・編集は重藤が担当した。
7. 出土遺物及び調査の記録類は九州歴史資料館及び福岡県教育庁文化財保護課で管理している。

目 次

卷頭図版

序

例言

目次

図版目次

挿図目次

表目次

本文中写真目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の経過.....	2
第3節 調査・整理報告書作成の経緯.....	3
第2章 遺跡の位置と環境.....	6
第3章 調査の内容.....	9
第1節 遺跡と調査の概要.....	9
第2節 1区の調査.....	9
(1) 石垣	9
(2) 土坑	18
(3) 溝	26
(4) 包含層等	29
(5) 墓	36
(6) その他の遺構出土土器・陶磁器	37
第3節 2区の調査.....	41
(1) 西部建物付近	42
(2) 東部第1面	52
(3) 東部第2面	55
(4) 東部第3面	58
(5) 2区南拡張区	58
(6) 2区その他の遺構出土土器・陶磁器	59
(7) 板碑	60
第4節 鉄器・石器・縄文土器.....	62
第4章 おわりに.....	64

図版

報告書抄録

図版目次

- 卷頭図版 1 1号建物跡（南から）
卷頭図版 2 1. 調査区遠景（南から） 2. 2号建物跡（南から）
卷頭図版 3 1. 2号建物跡北西隅（北東から） 2. 板碑発掘前（南から）
3. 板碑発掘状況（南東から）
卷頭図版 4 SS251 西端ピット出土黄褐釉陶器壺
図版 1 1. 原遺跡 18次調査区全景（南上空から） 2. 原遺跡 18次調査区全景（南上空から）
3. 1区北半全景（南上空から）
図版 2 1. 1区北半全景（北上空から） 2. 1区北東部平坦面完掘状況（北上空から）
3. 1区北東部平坦面完掘状況（上空から）
図版 3 1. 1区北半全景（上空から） 2. 1区南半全景（上空から）
図版 4 1. 1区南東部平坦面完掘状況（上空から） 2. 1区南西部平坦面完掘状況（上空から）
3. SW14 石垣（東から）
図版 5 1. SW14 全景（南西から） 2. SW14 東半部（南西から）
3. SW14（東から） 4. SW63（西から）
図版 6 1. SW63（南から） 2. SW14 断面（南東から） 3. SW122 断面（南東から）
図版 7 1. SW122（東から） 2. SW208（南西から） 3. SW122 背後の整地層（西から）
図版 8 1. SK3（南から） 2. SK29（北から） 3. SK47（南から） 4. SK60（南から）
図版 9 1. SK77（南から） 2. SK77 北西部上面遺物出土状況（北西から）
3. SK126（北から） 4. SK194（北東から）
図版 10 1. SX66（南東から） 2. SX76 南部（東から）
3. SX108（北西から） 4. SX121（北西から）
図版 11 1. ST97（北から） 2. ST97 北側遺物出土状況（南から）
3. 2区第1面完掘（東から） 4. 2区第1面完掘（北東から）
図版 12 1. 2区第1面完掘状況（上空から） 2. 2区第1面完掘（東から）
図版 13 1. 2区第2面完掘状況（東から） 2. 2区第2面完掘状況（東北から）
3. 1・2号建物跡検出状況（上空から） 4. 2区南西壁土層
図版 14 1. 2号建物跡（北から） 2. 2号建物跡（西から）
図版 15 1. 2号建物跡基壇南石列（南西から） 2. 2号建物跡北西隅上層（北から）
3. 2号建物跡北西隅（北東から）
図版 16 1. 2号建物跡北西隅（西から） 2. 2号建物跡基壇列石北西隅（北東から）
3. 2号建物跡基壇南前面埋土堆積状況（北西から）
図版 17 1. 1号建物跡基壇北外土層（東から） 2. 1号建物跡基壇西外土層（南から）
3. 1号建物跡（北から） 4. 1号建物跡（北から）
図版 18 1. 1号建物跡（北東から） 2. 1号建物跡（西から）
図版 19 1. SS251 西端ピット土層（東から） 2. SS251 西端ピット壺出土状況（東から）
3. SP406 土器出土状況（西から） 4. SU418 土器出土状況（北から）
図版 20 1. SW323（南西から） 2. SX269 土層北半（南西から）
3. SX269 土層南半（南西から）
図版 21 1. 2区板碑（南から） 2. 2区板碑（南東から）
3. 2区板碑掘下げ（南東から） 4. SX424（西から）
図版 22 出土土器・陶磁器（1）
図版 23 出土土器・陶磁器（2）
図版 24 1. 出土土器・陶磁器（3） 2. 鉄器 3. 繩文土器 4. 石器

挿図目次

- 第1図 原遺跡の位置と周辺の遺跡等（1／50,000） 5

第2図	原遺跡調査区位置図 (1/2,500)	7
第3図	調査区周辺地形図 (1/1,000)	8
第4図	1区全体平面図 (1/200)	8-9
第5図	SW14・SW63 実測図 (1/80)	8-9
第6図	SW14・SW63 出土土器実測図 (1/3)	10
第7図	SW14 出土瓦・石鍋実測図 (1/3)	11
第8図	SW122・SW208 実測図 (1/80)	14
第9図	SW122・SW208 出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	15
第10図	SW208 出土陶器・石鍋実測図 (1/3)	17
第11図	SK3・SK29・SK47・SK60 実測図 (1/40)	18
第12図	SK69・SK77 実測図 (SK69は1/40、SK77は1/60)	19
第13図	SK47・SK69・SK77・SK126 出土土器・陶磁器実測図 (29は1/4、他は1/3)	20
第14図	SK126・SK186・SK194・SK199 実測図 (SK126・SK194は1/60、他は1/40)	22
第15図	SK194・SK199 出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	23
第16図	SK194 出土土師器火鉢実測図 (1/3)	25
第17図	SD27・SD53 実測図 (SD27は1/60、SD53は1/40)	26
第18図	SD27・SD95 出土土器実測図 (1/3)	26
第19図	SD107・SD168・SD169・SD170・SD224 実測図 (SD107は1/60、他は1/40)	27
第20図	SX9・SX66・SD95・SD96 実測図 (1/80)	28
第21図	SX9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦実測図 (1/3)	30
第22図	SX76・SX108・SX121 実測図 (SX76は1/60、他は1/80)	32
第23図	SX66・SX76・SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦実測図 (1/3)	33
第24図	SX119・SX121 出土土器・磁器・石鍋実測図 (1/3)	35
第25図	ST97 実測図 (1/30)	36
第26図	ST97 出土土器・磁器実測図 (1/3)	37
第27図	1区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	38
第28図	2区第1面平面図 (1/200)	40
第29図	2区西部第2面・第3面平面図 (1/200)	41
第30図	2区西部西壁・南北トレンチ土層実測図 (1/80)	42
第31図	2号建物跡・SS421 石列実測図 (建2は1/80、SS421は1/40)	42-43
第32図	1号建物跡及び基壇石列実測図 (建1は1/80、石列は1/40)	42-43
第33図	1号建物基壇周辺土層実測図 (1/40)	44
第34図	SU418・SP406・SS251 北西ピット実測図 (1/20)	46
第35図	SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器実測図 (1/3)	47
第36図	SU418 出土土器・石鍋実測図 (1/3)	47
第37図	1号・2号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋実測図 (1/3)	49
第38図	1号・2号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器実測図 (1/3)	49
第39図	SK414 実測図 (1/40)	51
第40図	SK414 出土土器実測図 (1/3)	52
第41図	SW323 実測図 (1/80)	52
第42図	SW323 出土土器・磁器実測図 (1/3)	53
第43図	SK293・SK301・SK325・SK379 実測図 (SK379は1/30、他は1/40)	53
第44図	SK301 出土土器実測図 (1/3)	54
第45図	SX269 土層実測図 (1/60)	55
第46図	SX269 出土土器・磁器実測図 (1/3)	57
第47図	SX269 出土石鍋実測図 (1/3)	58
第48図	2区東部第2面・第3面平面図 (1/200)	59
第49図	SK424 実測図 (1/60)	59
第50図	2区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	60

第 51 図 「正平廿三年」銘梵字板碑実測図 (設置状況 1 / 30、板碑 1 / 20、拓本 1 / 8)	61
第 52 図 鉄器実測図 (1 / 2)	63
第 53 図 繩文土器・石器実測図 (7 は 1 / 2、8・9 は 1 / 3)	63

表 目 次

第 1 表 SW14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表 (1)	12
第 2 表 SW14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表 (2)	13
第 3 表 SW122・SW208 出土土器・陶磁器・石鍋観察表 (1)	16
第 4 表 SW122・SW208 出土土器・陶磁器・石鍋観察表 (2)	17
第 5 表 SK47・SK69・SK77・SK126 出土土器・陶磁器観察表	21
第 6 表 SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表 (1)	24
第 7 表 SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表 (2)	25
第 8 表 SD27・SD95 出土土器観察表	26
第 9 表 SX 9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦観察表	31
第 10 表 SX66・SX76・SX108 出土土器・陶磁器・石鍋・瓦観察表	34
第 11 表 SX119・SX121 出土土器・磁器・石鍋観察表	36
第 12 表 ST97 出土土器・磁器観察表	37
第 13 表 1 区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表	39
第 14 表 SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器観察表	48
第 15 表 SU418 出土土器・石鍋観察表	48
第 16 表 1 号・2 号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋観察表	50
第 17 表 1 号・2 号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器観察表	51
第 18 表 SK414 出土土器観察表	52
第 19 表 SW323 出土土器・磁器観察表	54
第 20 表 SK301 出土土器観察表	54
第 21 表 SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表 (1)	56
第 22 表 SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表 (2)	58
第 23 表 2 区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表	62
第 24 表 1 区遺構一覧表 (1)	66
第 25 表 1 区遺構一覧表 (2)	67
第 26 表 1 区遺構一覧表 (3)	68
第 27 表 1 区遺構一覧表 (4)	69
第 28 表 2 区遺構一覧表 (1)	70
第 29 表 2 区遺構一覧表 (2)	71
第 30 表 2 区遺構一覧表 (3)	72

本文中写真目次

発掘調査風景	4
板碑探拓状況 (1)	65
板碑探拓状況 (2)	69

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

原川は二級河川御笠川上流、太宰府市東部を流れる小河川である。御笠川は太宰府市宝満山に源流を発し、太宰府市連歌屋で原川と合流して、福岡平野の東部を北流し、福岡市博多区で博多湾に注ぐ全長24km程の河川である。

平成15年7月19日未明、太宰府市～飯塚市にかけての福岡県北部地域で梅雨末期の集中豪雨が発生し、太宰府市内では時間当たり100mmを超える記録的な降雨量を観測した。その結果、太宰府市と宇美町・大野城市にまたがる四王寺山山麓の隨所で土石流が発生し、住宅地に土砂が及ぶ被害が発生した。本書で報告する原川筋の土石流はその中でも最大のものであり、住宅を押し流し1名の方が亡くなるなど痛ましい災害を引き起こした。また、短時間の集中豪雨による御笠川の増水のため、大野城市・福岡市博多区等は住宅が浸水し、あふれた水は福岡市中心部にもおよび、博多駅地下街にも流入するなど都市部での被害も発生した。

この平成15年の豪雨災害を受けて、福岡県では御笠川流域の河川改修・砂防事業を、激甚災害特別事業として実施することとなり、原川筋においても砂防事業が計画された。既存の1号堰堤を浚渫・嵩上げとともに、新規に4号堰堤等を建設し、四王寺山山麓の谷筋に所在し、二次災害が懸念される不安定土石塊の下流への流出を防ぐことを計画し、福岡県土木部那珂土木事務所で実施することとなった。本砂防事業に伴う潰れ地を例挙すると、太宰府市大字太宰府字原1491-7、1491-18、1492-2、1495-1、1497、1498、1482-2、1488-4、1496、太宰府市三条1丁目1481-1、1499-1、1538-1、1540-1、1537-1、1537-2、1539-1、1539-2、1481-2、1482-3、1483-1、1495-2、1495-3、1499-2、1499-3、1537-3、1538-2、1539-3、1539-4、1540-2、1540-3、1540-4となる。

ところで四王寺山の頂部は、日本書紀に登場する大野城跡に相当し、周辺の景観も含めほぼ標高100m以上の地域が特別史跡に指定されている。大野城跡史跡指定地は南側で史跡觀世音寺境内および子院跡と接し、南西側で大野城跡と同時期に築造されたと記録される特別史跡水城跡と接している。太宰府市内においては特別史跡大宰府跡、史跡大宰府学校院跡とあわせて、古代からの景観をとどめた情緒豊かな史跡地を形成している。平成15年度の豪雨災害は、これら大宰府関係史跡の遭構及び史跡地内の環境にも大きな被害を及ぼし、特に大野城跡では土壠・石垣が土石流・法面崩壊等により毀損するなど被害が甚大であった。

原川筋4号砂防堰堤は四王寺山の東南側山麓に位置し、鎌倉時代を中心として栄えた原山無量寺跡（原八坊跡、太宰府市登録名は原遺跡）の範囲内に推定されるとともに、予定地の西半には特別史跡大野城跡の史跡地縁辺部が含まれていた。

そこで、4号砂防堰堤の計画策定に伴い、那珂土木事務所、特別史跡大野城跡の管理団体である太宰府市の教育委員会文化財課、大宰府関係史跡を初めとする福岡県内の重要大規模遺跡の保存・活用とともに、平成15年7月豪雨に伴う特別史跡大野城跡の災害復旧事業を関連市町教育委員会と連携して実施する福岡県教育庁文化財課大規模遺跡対策・災害復旧班と、史跡地及び周知の埋蔵文化財包蔵地内の取り扱いについて協議を重ねた。

協議の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地については記録保存のための調査を実施するとともに、史跡地内は確認調査を実施して、大野城跡を構成する本質的な遭構が検出された場合は、可能な限り

工法を変更して保存すべく検討するという方針を立てた。そこで、平成 17 年 11 月 24 付で史跡の現状変更許可申請書が那珂土木事務所から文化庁長官あてに提出され、平成 18 年 5 月 19 日付で文化財保護法第 94 条による周知の埋蔵文化財包蔵地の発掘の通知が福岡県教育委員会教育長あてに提出された。

当時、太宰府市教育委員会では、大野城跡及び水城跡等の災害復旧事業等で事業量が増大しており、上記の計画に対する文化財側の対応が困難な状況にあった。そこで、県土木事務所の実施する事業であることから、福岡県文化財保護課で確認調査、やむを得ず工事により破壊される範囲の記録保存の発掘調査を実施することとした。

第 2 節 調査の経過

調査は川の東岸、周知の包蔵地部分を 1 区、川の西岸、史跡地部分を 2 区として地区分けして行った。平成 18 年 8 月 3 日に器材、重機を搬入し、8 月 4 日には作業員の雇用を開始して、周知の包蔵地部分、1 区から調査に着手した。ただ、調査地点への道路が狭隘なため、小型の重機しか搬入できず、表土除去は時間を要した。また、この年は残暑が厳しく、調査当初は作業員数も少なかつたため、SW14 石垣部分の竹を除却するのに手間取った。10 月には作業員数を増やし、11 月 24 日には 1 区北半分、北東部平坦面、北西部平坦面の調査を完了した。その後、1 区南部の表土除去を開始し、平成 19 年 12 月末には 1 区南部、南東部平坦面、南西部平坦面の掘下げをほぼ、完了した。

平成 19 年 1 月 15 日には、2 区の用地交渉がまとまり、2 区の調査に着手できるようになった。遺構面が予想以上に深く、当初は、かねてより地表に露出していた「正平廿三年（1368）」銘板碑以外に遺構は存在しないかとも思われた。しかし、表土から 1m 余り掘下げて、中世の土器及び建物跡の礎石根石等が現れた。そこで、礎石根石や中世土器の出土するレベルを追いかけながら、調査区を広げ、遺構を確認することとした。

遺構確認を進めていくと、2 区の西半分は原山無量寺を構成する建物、1 号・2 号建物跡が基壇を伴って残存していることがわかった。特別史跡大野城跡を構成するものではないが、史跡地内の重要な遺構であるため、平成 18 年度の 2 区の調査は建物跡の分布しない東半分の記録保存を完了させ、2 区西半分の建物跡及び板碑について、那珂土木事務所と保存の協議を経た上で、その取り扱いを判断することとした。したがって、取り扱いが決定されるまでの間、建物跡・板碑については検出状態のまま保存することとして、平成 19 年 3 月 23 日に平成 18 年度の調査を終了した。

平成 19 年度 4 ～ 5 月には太宰府市教育委員会もまじえ、那珂土木事務所側に建物跡、板碑の現地保存を要望し、協議を重ねることとなった。那珂土木事務所では、これらの遺構を保存するため砂防堰堤を 1) 上流側にすらす、2) 下流側にすらす、3) 堤を途中で屈曲させるという、3 案での設計変更を検討した。

ところが、上流側にすらす案、堰堤を途中で屈曲させる案では、必要な堆砂量が確保できないという難点があった。また、下流側へとすらす方法をとっても、建物跡は大部分が砂防堰堤の砂等に埋もれ活用の見込みがない上に、新たな史跡地の現状変更の生じる恐れがあった。そのため、いずれの案も成立せず、これらの遺構を保存する方法はなかった。なお、板碑については砂防用地の残地等、調査区近辺の適当な場所に移設することで、那珂土木事務所との協議が整った。

そこで、平成 19 年 6 月 19 日に 2 区建物跡及び板碑の記録保存のための調査を再開し、平成 19 年 8 月 23 日には調査を完了させた。

調査範囲は1区約1,300 m²、2区約1,000 m²、洗浄前の出土遺物は整理箱で48箱である。

砂防ダムという極めて防災上の緊急性の高い事業とは言え、史跡地内の遺構を保存できなかつたことについては、文化財側・事業実施側の双方の担当者とも大きな責任を感じている。土木事務所側の計画立案前に史跡の内容に関する十分な情報があれば、砂防ダムの位置等の計画と文化財の保存の間で、多少とは言え、調整ができたかも知れない。近年の地球環境の大きな変化の中では、今後も、平成15年7月の豪雨のような、自然災害の発生は予想される。文化財側においては確認調査を含め史跡地の遺構等の情報収集を進めることで、日頃の備えとしておく必要性が痛感される。

第3節 調査・整理報告書作成の経緯

平成18・19年度の調査及び整理報告書作成に係る関係者は下記のとおりである。

	平成18年度	平成19年度
総括		
教育長	森山 良一	森山 良一
教育次長	清水 圭輔	植崎 洋二郎
総務部長	大島 和寛	大島 和寛
文化財保護課長	磯村 幸男 (本副理事)	磯村 幸男 (本副理事)
副課長	佐々木 隆彦	佐々木 隆彦
参事	新原 正典	新原 正典 伊崎 俊秋
課長補佐	安川 正郷 (本参事)	中園 宏 (本参事)
課長技術補佐	池辺 元明 (本参事) 小池 史哲 (本参事)	池辺 元明 (本参事) 小池 史哲 (本参事)
庶務		
管理係長	井手 優二	井手 優二
管理係	野中 顕 淵上 大輔 柏村 正央 小宮 辰之	淵上 大輔 柏村 正央 小宮 辰之 野田 雅
調査・報告書作成		
調査第二係長	飛野 博文 (参事補佐)	飛野 博文 (参事補佐)
調査第二係	濱田 信也 (参事補佐・整理担当)	濱田 信也 (参事補佐・整理担当)
大規模遺跡対策災害復旧班	重藤 輝行 (調査担当)	重藤 輝行 (調査・報告書作成担当)

調査に際しては、太宰府市教育委員会文化財課の皆様には、調査の方法、遺構の評価はもちろん、遺構の保存の協議にも加わっていただきなど、様々なお世話をいただいた。特に、太宰府市文化財課山村信菜氏には、現地において、板碑の拓本を採取していただくなどの御協力をいただいた。

文化庁記念物課史跡部門の皆様には、現状変更の提出、史跡の保存について、御心配いただいた。

調査期間中には、櫛山範一氏（飯塚市教育委員会）、平ノ内幸治氏・松尾尚哉氏（宇美町教育委員会）、徳本洋一氏（大野城市教育委員会）、江上智恵氏・八丁由香氏（久山町教育委員会）、坂靖氏（奈良県立橿原考古学研究所）、韓ナラ氏（韓国、文化財研究所）の来訪を賜り、貴重な御教示をいただいた。

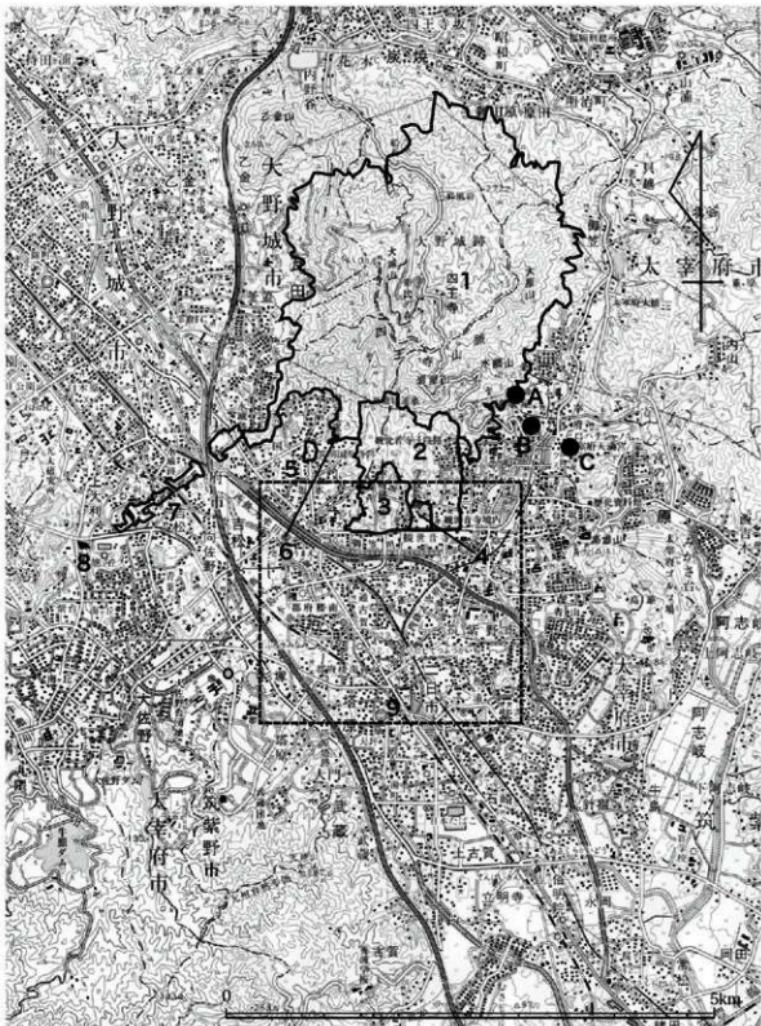
また、SS251 西端ピットより出土した黄褐釉陶器壺については、九州国立博物館伊藤嘉章企画課長、交流課遠藤啓介氏に御教示をいただいた。

調査に参加された作業員の皆様は、斜面地という危険な現場環境にもかかわらず、安全に注意しながら熱心に作業に従事され、担当者の力量不足を補っていただいた。

記して感謝いたします。



発掘調査風景



A. 原遺跡 18次調査区 B. 浦ノ城跡 C. 太宰府天満宮

1. 特別史跡大野城跡
2. 史跡觀世音寺境内および子院跡
3. 特別史跡太宰府跡
4. 史跡太宰府学校院跡
5. 史跡筑前国分寺跡
6. 史跡國分瓦窯跡
7. 特別史跡水城跡 (大堤)
8. 特別史跡水城跡 (上大利小水城)
9. 太宰府条坊復元範囲

第1図 原遺跡の位置と周辺の遺跡等 (1 / 50,000)

第2章 遺跡の位置と環境

ここで報告する原遺跡は太宰府市大字大宰府字原、三条1丁目、連歌屋2丁目等に分布し、中世の原山無量寺跡にほぼ相当する。西鉄太宰府駅北方の丘陵にあたり、四王寺山山麓の標高50～100m程の斜面地にあたる。御笠川を挟んで、東には太宰府天満宮が展開する。遺跡の北側、四王寺山から派生する山陵のひとつには、雨乞い祈祷の対象となった水瓶山がある。

四王寺山は、標高300m程の独立した山塊で、花崗岩を基盤としている。今回の、調査区においても基盤土に多量の風化残痕礫・岩が含まれており、山の成り立ちを知ることができる。四王寺山には周知のように、天智4年（665）に築城された、日本を代表する古代山城、大野城跡が位置している。

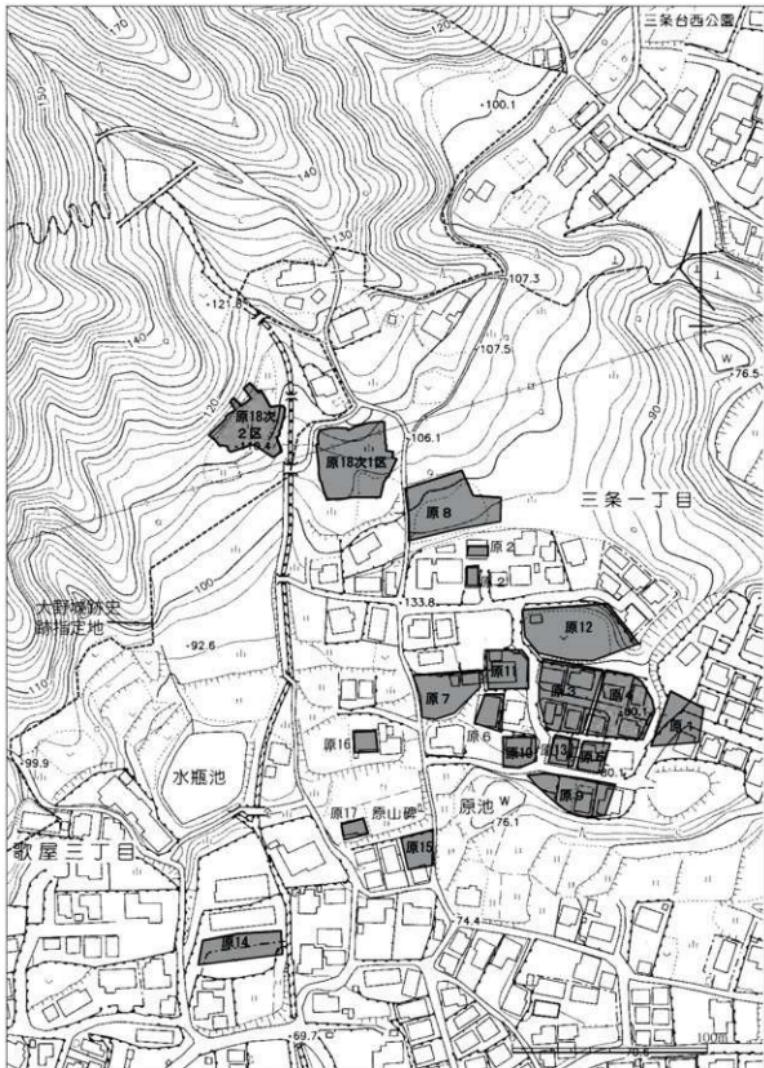
原山無量寺は、天安2年（858）、入唐の際に大宰府に立ち寄った円珍の門人、華台坊らが開創した寺院と伝えられる。寺院に8つの僧坊（華台坊、六度寺、安祥寺、十境坊、真寂坊、宝寿坊、寂門坊、明星坊）があったことから、原八坊とも呼ばれている。水瓶山を対象とした雨乞い祈祷は華台坊を中心として行われたらしく、祈祷そのものも天台宗如法経供養の色彩を強く残し、本来、経塚造営行事であったものが、雨乞いの祈祷に転化したものと推測されている〔太宰府市史編集委員会編2004〕。原遺跡の北方、水瓶山や原遺跡内では経塚が出土しており、これらの歴史を物語る貴重な考古資料となっている。

南北朝の時代には、元弘3年（正慶2、1333）、博多の鎮西探題陥落後に後醍醐天皇の第一皇子尊良親王が、建武3年（1336）、足利方の九州下向に際しては足利尊氏が、建武4年（1337）には九州統括のための鎮西管領として活動した一色道猷が原山に滞在したとされる。さらに、康安元年（正平16、1361）には懐良親王が太宰府に入った後、応安5年（文中元年、1371）に九州探題、今川了俊により、太宰府が制圧されるまでの間は、南朝方の支配下におかれた。後に報告するような、原遺跡18次調査地の板碑が、「正平廿三年」と南朝年号を記すのもこの動向を反映したものであろう。また、原遺跡の南方には浦ノ城跡があり、南北朝の頃の筑前守護、少弐氏の持城で、戦乱の舞台となつた。

原遺跡に対しては、昭和55年度の宅地造成に伴う発掘調査から始まり、本報告書の18次調査の後、平成18年度には19次調査が太宰府市教育委員会によって実施されている。18次調査区は原遺跡の中でも、原川の形成する谷地形の最奥部に位置している。これまでの19次の調査の中でも最高所を占める調査地点である。

18次調査区の川の西岸、2区の北側の尾根線には水瓶山が位置する。本調査地点は原遺跡の中でも、最も水瓶山に近い地点にあると言える。現在、水瓶山への登山道は、川の東岸の道路を登り、18次調査区の上流、かねてよりある原川砂防1号堰堤の背後で川を横切る。しかし、川の西岸の尾根線にも古道があり、古くから、水瓶山への参道としても利用されていた可能性が高い。

原山無量寺については、江戸時代に作成された伽藍配置の復元絵図が現在に伝えられている。太宰府市教育委員会山村信栄氏の想定では、本調査地点はその絵図にみえる太師堂、鐘楼の北方、上方にあたり、絵図には建物が描かれていない地点であった。しかしながら、後述するように原山無量寺の初期の遺構等を検出することができた。



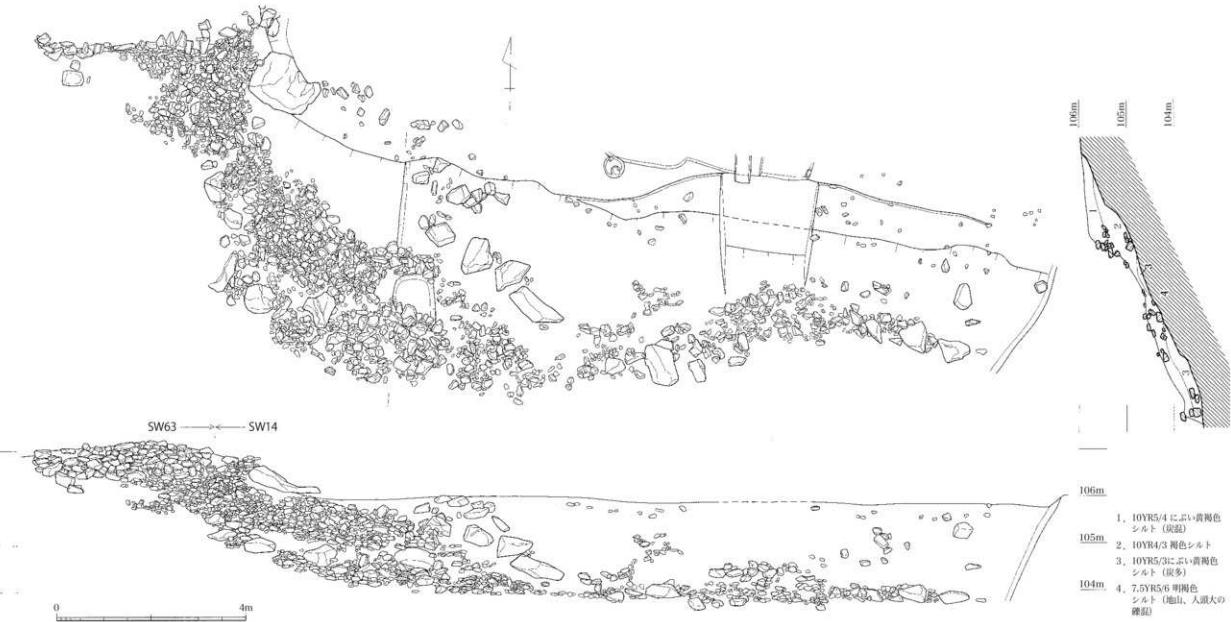
第2図 原遺跡調査区位置図（1／2,500）



第3図 調査区周辺地形図 (1 / 1,000)



第4図 1区全体平面図 (1/200)



第5図 SW14・SW63 実測図 (1/80)

第3章 調査の内容

第1節 遺跡と調査の概要

1区は石垣等で区画され、大きく北東部、北西部、南東部、南西部の4個所の平坦面に分かれる。北東部平坦面と南東部平坦面の間には石垣 SW14 があり、北西部平坦面、南東部平坦面の間には若干の平坦面を挟んで、上段に SW14 と連続する石垣 SW63、下段に石垣 SW208 がある。また、南東部平坦面、南西部平坦面の間は石垣 SW122 で区画される。

この他、土坑、溝、ピット等が検出された。それぞれの平坦面は、中世寺院に伴う建物を建築した造成面と考えられるが、明確な建物跡は抽出できなかつた。調査前は畠等として利用されており、遺構面まで浅いため、建物跡礎石等が失われ、建物の抽出を困難にしたものと考えられる。

なお、遺構の一覧を第24～30表として掲載している。

第2節 1区の調査

ここでは主な遺構について、遺構の種類別に報告することにしたい。

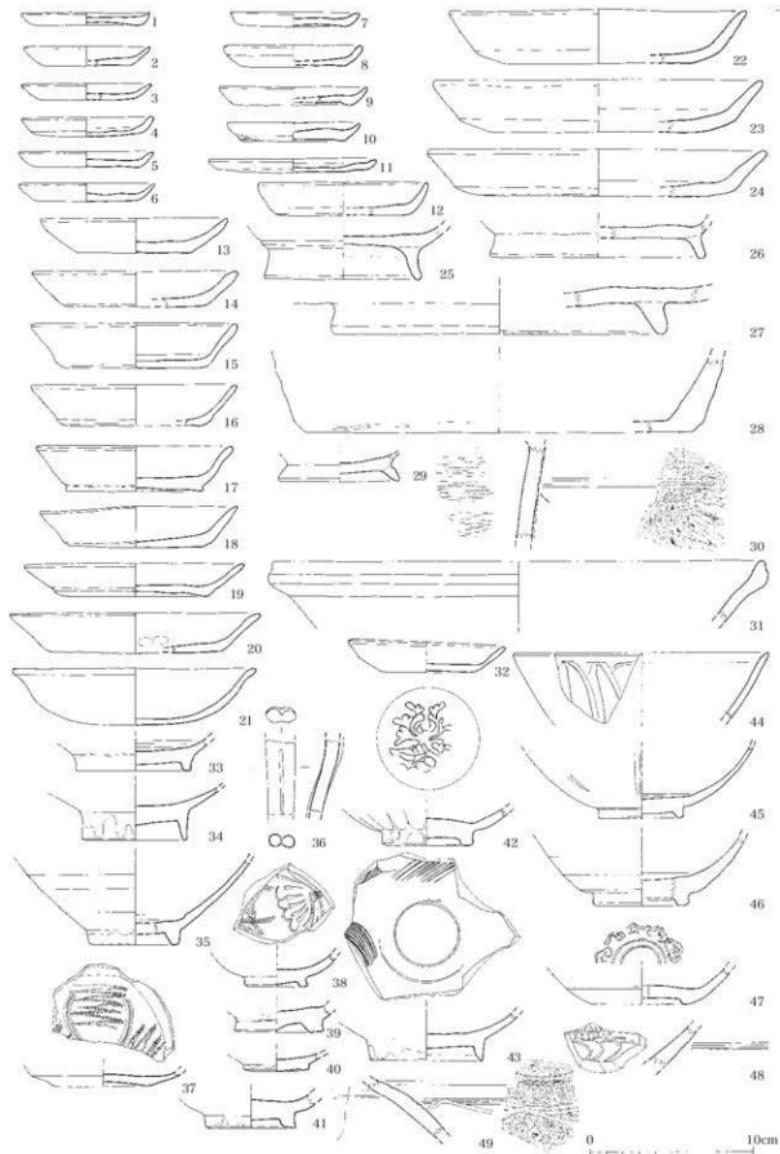
(1) 石垣

SW14・SW63（図版4～6、第5図）

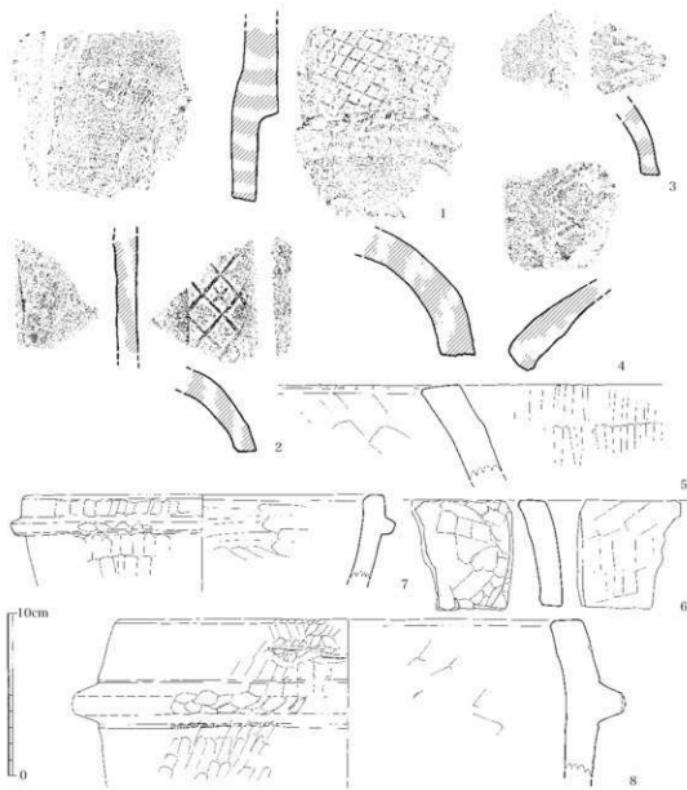
1区北東部平坦面と1区南東部平坦面の間を区画する石垣をSW14、1区北西部平坦面の南東部に位置する垂直な石垣をSW63とした。中央部へ東部にかけては、調査前は竹林となっており、竹の根を除去しながら検出することとなつた。東になるにつれて石の分布が散漫となっており、石垣というよりは石垣背面の裏込めの一部が残っている状況である。竹の根が石を抱え込んでいる場合もあったが、人力による掘下げでは、できる限り原位置に石をとどめるようにして、検出及び図化を行つた。そのため、垂直の石垣であったとしても、後世の地形の改変によって、移動したものと考えられる。垂直の石垣であったとすれば、下面からの高さは2mを超えることになる。

調査区東端から西に12mのところまではほぼ東西方向を向くが、SW14の西部は屈曲し、斜面を上がるようにしてSW63に接続する。西部は斜面にあたかも古墳の葺石状に石が残存している。SW63との構造上の関係は不明であるが、SW63の下部の前面に葺石状のSW14西端が接していることは確認できた。この部分ではSW63構築後に、SW14を施工したという関係である。

SW63は東西方向に伸び、現状では5m程遺存し、良好な部分で高さは0.8m程である。1辺20cm程の角張った石を積んで構築する。西側にさらに伸びていた可能性があるが、後世の地形改変等によって遺存しない。ただ、北西部平坦面の南斜面には1m近い基盤土中の岩も露出しており、これらの石を取り込みながら石垣としていたのであろう。後述するように南に接するSX108がSW63の裏込めを兼ねていたと考えられ、SW63の断面図はSX108とともに第22図に示した。SW14出土土器・陶磁器・石鍋・瓦（第6・7図、第1・2表） 第6図1～11は土師器小皿、13～24は土師器杯である。底部外面に糸切り痕を残すものが多い。23・24は口径が大きく、皿に近い器形をなす。第6図25は土師器碗で、第6図26・27は高台を付けるが、径が大きいため鉢のような器形になると考えられる。第6図29は瓦器碗と考えたが、比較的高い高台をもつ。第6図30は土師質鉢の胸部と考えられ、胸部外面に直線文及び粘土の剥離した痕跡が残る。第6図31は須恵質の捏鉢で口縁を肥厚させる。



第6図 SW14・SW63出土土器実測図 (1/3)



第7図 SW14出土瓦・石鎹実測図（1／3）

第6図32は白磁皿で、口縁部を釉剥ぎする。第6図33～35・40は白挽椀、36は白磁の水注の把手と考えられる。第6図37は青磁皿、第6図38・39・41～46は青挽椀破片である。第6図47・48は高麗象眼青磁で、49は褐釉陶器肩部。

第7図1～4は丸瓦である。いずれも外面に斜格子タタキを施すが、格子の大きさにはばらつきがある。2はタタキ格子目に直交する×字状隆起が特徴的なタタキ板を使用し、内面の布目圧痕を丁寧にナデ消している。

第7図5～8は石鎹である。5はやや傾きは不安であるが、口縁部が内傾するものと考えられる。6は石鎹の破片を整形した転用品である。7・8は口縁下に太い突帯を作り出す。

SW122（図版6・7、第8図）

1区南東部平坦面、南西部平坦面の間を区画する石垣である。ほぼ南北方向を向き、南北11m

第1表 SW14・SW63出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表(1)

調査番号	出土地名	断面等	基盤	法縫 (mm)	断土	焼成	色調	断面形状の特徴	残存率	備考	目録番号
6-1	SW14南端	土師器底	口徑76、底高9	細砂粒、葉は、赤褐色少し含む	良好	白黄褐色一白色	底部外側面直角形。				30
6-2	SW14西端 石垣表面	土師器底	口徑26、底高12	野菜が、葉含む	良好	黄褐色	底部外側面切り底様。				62
6-3	SW14中央 前面	土師器底	口徑28、底高10	1~2mm大網砂、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	内側面直角形。				63
6-4	22 SW14中央 後面	土師器底	口徑60、底高12	2~5mm大網砂、赤褐色少し含む	良好	灰黃褐色	内側面直角形。				28
6-5	SW14中央 後面	土師器底	口徑62、底高10	1~2mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	内側面直角形。				31
6-6	SW14中央 右側面	土師器底	口徑62、底高11	1~2mm大網砂粒少しある	良好	明黃褐色	底部外側面切り底様。				61
6-7	22 SW14中央 後面	土師器底	口徑76、底高9	野菜が、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	底部外側面切り底様。				29
6-8	SW14中央 後面	土師器底	口徑60、底高13	1~4mm大網砂、葉含む少しある	良好	灰褐色	底部外側面切り底様。				18
6-9	SW14東端 右側面	土師器底	口徑60、底高11	粗砂粒、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	底部外側面直角形。				102
6-10	22 SW14中央 後面	土師器底	口徑60、底高10	粗砂粒、葉含む少しある	良好	褐色	底部外側面直角形。				11
6-11	SW14東端 右側面	土師器底	口徑100、底高8	1~3mm大網砂、赤褐色少しある	良好	黃褐色	底部外側面切り底様。				46
6-12	SW14中央 前面	土師器底	口徑102、底高20	野菜が、葉含む少しある	良好	黃褐色一褐色	内側面直角形。				41
6-13	SW14中央 前面	土師器底	口徑114、底高21	1~3mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	白褐色	底部外側面切り底様。				40
6-14	SW14中央 前面	土師器底	口徑112、底高22	野菜が、葉含む少しある	良好	白黄褐色一白色	底部外側面直角形。				44
6-15	22 SW14中央 後面	土師器底	口徑124、底高27	2~5mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	底部外側面切り底様。				19
6-16	SW14西端 前面	土師器底	口徑124、底高26	2~3mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	白黃褐色	底部外側面直角形。				72
6-17	SW14中央 前面	土師器底	口徑16、底高28、残存44	野菜が、葉含む少しある	良好	褐色	底部外側面直角形。				30
6-18	SW14中央 前面	土師器底	口徑124、底高44	1~3mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	内側面直角形。				18
6-19	SW14東端	土師器底	口徑132、底高10	1~3mm大網砂粒少しある	良好	白黃褐色一白黃褐色	底部外側面切り底様。				76
6-20	SW14中央 前面	土師器底	口徑150、底高24、残存46	2~3mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	褐褐色一黃褐色	内側面直角形。				19
6-21	SW14中央 前面	土師器底	口徑114、底高26	2~3mm大網砂粒少しある	良好	白黃褐色一白黃褐色	底部外側面ケタツリ後。	ナメ仕上			21
6-22	SW14中央 前面	土師器底	口徑180、底高32	野菜が、葉含む少しある	良好	白黃褐色一櫻褐色	解説者であるが、底部外側面はハラカツリである。				39
6-23	SW14東端 右側面	土師器底	口徑190、底高33	1mm大網砂粒少しある	良好	淡黃褐色	底部外側面ケタツリ後。				81
6-24	SW14東端 前面	土師器底	口徑204、底高28	1~2mm大網砂粒少しある	良好	黃褐色一白黃褐色	底部外側面切り底様。				80
6-25	SW14中央 前面	土師器底	高台102、底高13、残存40	2~3mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	褐色	内側ナメ仕上げ。				48
6-26	SW14中央 前面	土師器底	高台120、底高14、残存45	1~2mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	灰褐色一櫻褐色	高台面、底部外側面压痕を残す。				32
6-27	SW14中央 前面	土師器底	高台120、底高19、残存45	1~2mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	黃褐色	ナメ仕上げであるが、底部外側面はハラカツリである。				14
6-28	SW14前面	土師器底	高台226、底高47	2~3mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	灰黃褐色	内側カツリ仕上げ。				88
6-29	SW14中央 前面	瓦	高台172、底高16、残存40	野菜が、葉含む少しある	良好	白黃褐色	内側面直角形。				23
6-30	SW14中央 前面	瓦	高台60、底高60	1~2mm大網砂粒、葉含む少しある	良好	褐色	内側ナメ仕上げ。				39
6-31	SW14東端 右側面	瓦	口徑28、底高38	1~2mm大網砂粒や少しある	良好	白色	内側ナメ仕上げ。				77
6-32	22 SW14中央 前面	瓦	口徑45、底高58、残存21	野菜が、葉含む少しある	良好	白色	内側ナメ仕上げ。				56
6-33	SW14中央 前面	瓦	高台70、底高10、残存25	野菜が、葉含む少しある	良好	生地灰褐色、桃紅褐色	内側ナメ仕上げ。				30
6-34	SW14中央 前面	瓦	高台64、底高9、残存33	野菜が、葉含む少しある	良好	生地灰褐色、桃紅褐色	内側ナメ仕上げ。				49
6-35	SW14西端 右側面	瓦	高台51、底高9、残存33	野菜が、葉含む少しある	良好	白褐色	内側ナメ仕上げ。				109
6-36	SW14前面	瓦	高台44	野菜が、葉含む少しある	良好	生地白色、桃紅褐色	内側ナメ仕上げ。				26
6-37	SW14中央 前面	瓦	高台38、底高7	野菜が、葉含む少しある	良好	生地白色、桃紅褐色	内側ナメ仕上げ。				33
6-38	SW14西端 右側面	瓦	高台38、底高7	野菜が、葉含む少しある	良好	生地白色、桃紅褐色	内側ナメ仕上げ。				60

を調査し、現状で高さ 0.6m 程遺存している。南端は調査区外へとつづくが、北端は南東部平坦面の北斜面に接続させて収束させる。遺存状況の良好な、北から 5 m 程の範囲は、幅 40cm 程の石を横長に配置して積み上げている様子がうかがえる。一方、中央～南部は石垣の表面が失われて、裏込めのみが遺存する状態であった。低い石垣のためか、裏込めの掘り方は幅 1.5m 程と狭い。

SW122 出土土器（第 9 図、第 3 表） 1 は白磁碗である。外面に片刃彫りによる線刻、内面に櫛描文を施す。2 は土師器鉢。

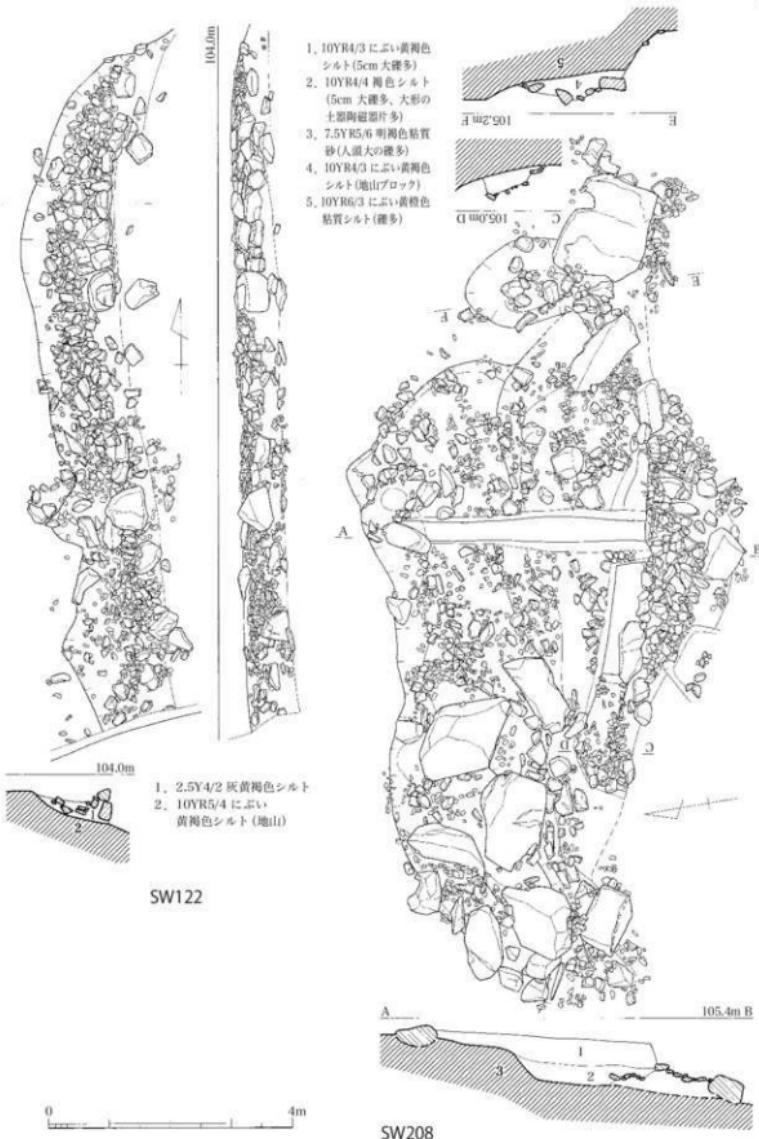
SW208（図版 7、第 8 図）

1 区南西部平坦面の北縁を画する石垣で、SW63 石垣の下段に位置する。北西から南東に自然地形にあわせて屈曲しながら伸び、直線的な SW14、SW63、SW122 とは異なる。現状では A-B 断面図を示した付近の遺存状況が良好であるが、それでも垂直ではなく、ほとんどが裏込めのみしか遺存していないと言える。石垣の前面ラインにも 1 m を超える巨石が露出しており、整った石垣を構築していたとしても中間に巨石の露頭を取り込んでいたものと考えられる。

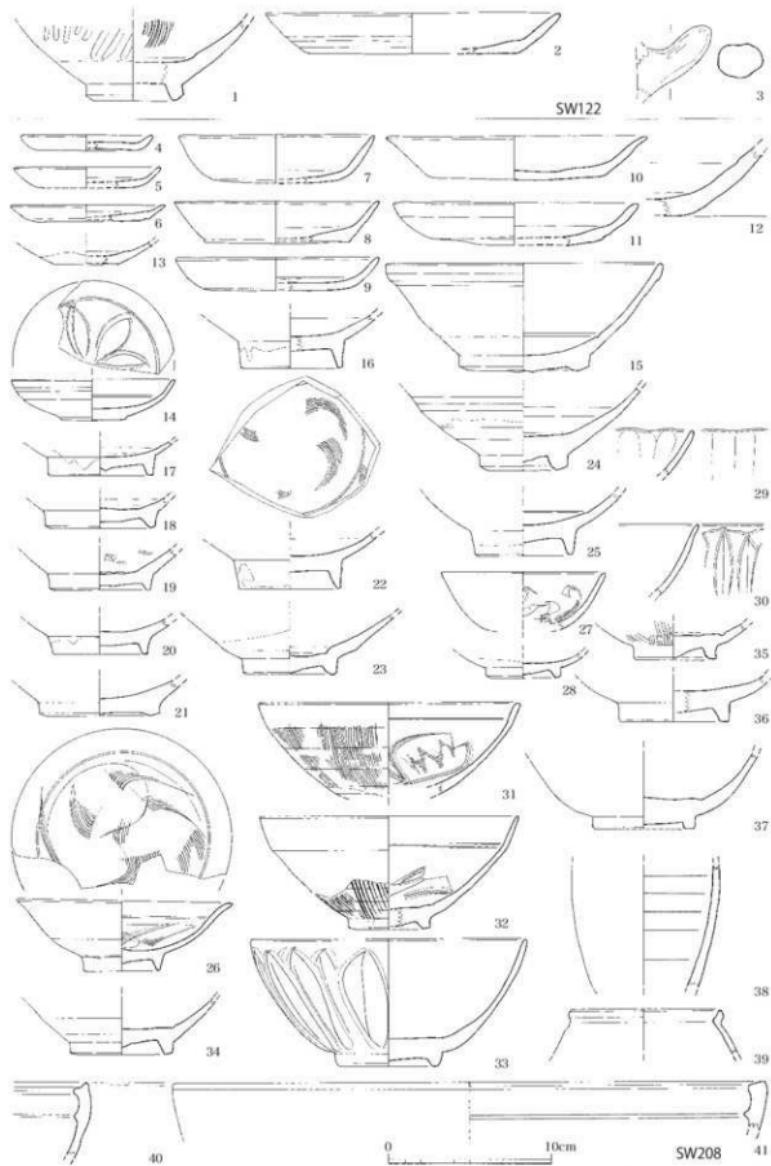
なお、石垣裏の整地層の出土遺構も「S208 裏込め」等の注記で取り上げた。この整地層は広いところで石垣の背後幅 5 m 程に達し、深さ 0.7m になる。整地層は石垣の裏込めと一緒に施工され、

第 2 表 SW14・SW63 出土土器・陶磁器・瓦・石鍋観察表（2）

回復 番号	回復 番号	出土地 名	組織	法身 (ml)	船上	礁底	色調	器形や特徴	保存率	備考	登録 番号
6-38	SW14の南 部裏	青磁碗	高台40、礁高 17、高台40、 礁高12	輕良	良好	生地灰黃褐色 17、礁底灰褐色 12	無	休眠期は被覆した範囲がほぼ遮 蔽、無呼吸透 明。	3／4	68	
6-40	SW14東部 裏	白磁碗	高台40、礁高 12、高台40、 礁高12	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。 底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。 底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 底足は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 99		
6-41	SW14東部 裏	青磁碗	高台40、礁高 12、礁高12	輕良	良好	9.5cm白色 礁底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。 底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 底足は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 70		
6-42	SW14中央 裏	青磁碗	高台40、礁高 12、礁高12	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	内側裏文、追込式内文裏文の複数重 複、外蓋休目式長穴外、底面無、高 台側面無、内側裏文無。	洋洋企開 底足は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 54		
6-43	SW14東部 裏	青磁碗	高台40、礁高 30、礁高12	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。 底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 底足は丸い盤子底へ高台内蔵點。	洋洋企開 71		
6-44	SW14東部 リッパー	青磁碗	底厚14、礁高 40	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	内側裏文追込式内文裏文、内蓋休 目式、内側裏文無。	小片	12	
6-45	SW14東部 下段	青磁碗	高台40、礁高 44、高台40、 礁高12	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	内側裏文追込式内文裏文、内蓋休 目式、内側裏文無。	金固	31	
6-46	SW14東部 下段上部	青磁碗	高台40、礁高 40、高台40、 礁高12	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	内側裏文追込式内文裏文、内蓋休 目式、内側裏文無。	金固	31	
6-47	SW14中央 裏	象足器青 磁碗	高台40、礁高 12	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	底面は丸い盤子底へ高台内蔵點。	内側裏文追込式内文裏文、内蓋休 目式、内側裏文無。	小片	27	
6-48	SW14中央 裏	象足器青 磁碗	礁高17	輕良	良好	9.5cm白色、礁 底灰色	内側裏文追込式内文裏文、内蓋休 目式、内側裏文無。	内側裏文追込式内文裏文、内蓋休 目式、内側裏文無。	小片	37	
6-49	SW14東部 下段	陶製陶器 盤子類?	礁高37	輕良	良好	生地黄褐色、 礁底黄色	内側裏文追込式内文裏文、内 蓋休目式長穴外、底面無。	内側裏文追込式内文裏文、内 蓋休目式長穴外、底面無。	小片	65	
7-1	SW14東部 裏	瓦	長さ106、厚さ20	良好	良好	洪灰黑色	瓦端破損、やや小さな鉢子手テ キを残す。	瓦端破損、やや小さな鉢子手テ キを残す。	小片	98	
7-2	SW14東部 平面上部	瓦	厚さ13	輕良	良好	1~2mm大 の網砂を少し含む	瓦端破損、タキモテテキを残す。	瓦端破損、タキモテテキを残す。	小片	53	
7-3	SW14東部 地上部	瓦	厚さ11	1~2mm大の網砂を含 む	良好	灰褐色	瓦端に網のK3網砂モテテキを残 す。	瓦端に網のK3網砂モテテキを残 す。	小片	39	
7-4	SW14東部 陶製陶器	瓦	厚さ13	2~5mm大の網砂を含む 多く含む	良好	白黄褐色~白 褐色	大きな鉢子手テキを残す。	大きな鉢子手テキを残す。	小片	73	
7-5	SW14東部 下段	陶製陶器	礁高58				は縦にやや内傾するか?、内外のケ メリが有る。	は縦にやや内傾するか?、内外のケ メリが有る。	小片	34	
7-6	SW14東部 下段	陶製陶器	口径20、礁高2				内輪有り、下端丁寧にミガキ、 内輪有り。	内輪有り、下端丁寧にミガキ、 内輪有り。	小片	43	
7-7	SW14東部 裏	礁石	礁石				表面に凹凸があり、表面ケメリ有 り、内輪有りの様なケメリ。	表面に凹凸があり、表面ケメリ有 り、内輪有りの様なケメリ。	小片	62	
7-8	SW14東部 裏	礁石	口径28、礁高9				表面を研磨し、表面ケメリ有 り、内輪有りのケメリ。	表面を研磨し、表面ケメリ有 り、内輪有りのケメリ。	小片	67	



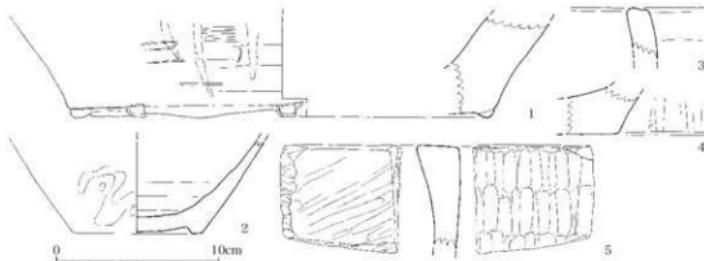
第8図 SW122・SW208実測図 (1/80)



第9図 SW122・SW208出土土器・陶磁器実測図 (1/3)

第3表 SW122・SW208出土器・陶磁器・石鍋観察表(1)

調査番号	国別 番号	出土 道場番	器種	法量 (ml)	形状	構成	色調	器の個体の特徴	残存率	備考	登録 番号
9-1	SW122上蓋	白磁鉢	高台径60、高さ10 鉢脚片	鉢脚部を若干含む	良好	生地の黄褐色、釉薬黄褐色	内面灰褐色、外表面は底よりやや上に少しある内面にて濃黒。	1/4	外表面灰褐色、内面褐色の斑文あり。	252	
9-2	SW122上蓋	土師鉢	口径158、高さ25、底径130	鉢脚部を少し含む	良好	内面黄褐色	底部に墨色の捺痕有り。	底面1/6	底面灰褐色	259	
9-3	SW208蓋	土師鉢等 等把斗リ	直径43	鉢脚部	良好	底部陶褐色一赤褐色	底面ナデ仕上げ。	小片		321	
9-4	SW208蓋	土師鉢	口径78、高さ10	鉢脚部	良好	底部陶褐色	底面墨色濃黒。	1/2		328	
9-5	SW208蓋	土師鉢	口径80、高さ10	鉢脚部	良好	底部陶褐色	内面墨色濃黒。	1/4		325	
9-6	SW208蓋	土師鉢	口径80、高さ10	鉢脚部を少し含む	良好	底部陶褐色	内面ナデ仕上げ。	1/6		367	
9-7	SW208西脇	土師鉢	口径118、高さ25 等	鉢脚部	良好	底部陶褐色少しおじ	底面白。	1/4		333	
9-8	SW208東脇 下部	土師鉢	口径124、高さ20	鉢脚部	良好	底部陶褐色少しおじ	底面白。	底面外表面直角に残す	1/32	360	
9-9	SW208東脇	土師鉢	口径122、高さ20	鉢脚部、赤褐色陶色、茎 身を少し含む	良好	底部陶褐色	外表面灰褐色一火炎色。 内面陶褐色		内面の墨色濃黒。	361	
9-10	22	SW208西脇 上部	土師鉢	口径154、高さ 25、底径44	赤褐色陶色、茎 身を少し含む	良好	底部陶褐色	底面外表面切欠き有り。		322	
9-11	SW208西脇	土師鉢	口径148、高さ25 等	赤褐色陶色足口へ、細 縫、茎身を含む。	良好	底部陶褐色	底面墨色あり底を残す。	2/3		324	
9-12	SW208西脇	土師鉢	高さ44	板状を若干含む。	良好	深灰色	側面外ナメ。		底面外ナメ調整。	350	
9-13	SW208西脇	土師鉢	口径20、高さ14	鉢脚	良好	生地陶白色	内面陶白色。	1/4	底面外表面直角に残す。	341	
9-14	SW208西脇 下部	土師鉢	口径80、高さ 25、底径40	鉢脚部を少し含む	良好	生地陶褐色、 和葉焼褐色	内面陶褐色、 和葉焼褐色	1/4	内面墨色濃黒。	365	
9-15	SW208西脇	白磁鉢	口径140、高さ 25、底径9	高身	良好	生地陶褐色、 釉薬黄褐色	内面墨色濃黒から底部底面墨色の壁 中止して灰褐色、内面墨色。	1/4	墨 色1/4。墨 色1/4程	339	
9-16	SW208西脇	白磁鉢	口径82、高さ 33、底径20	高身だけ、鉢脚全くお じに含む	良好	黄色色	内面墨色下部一高身にて濃黒。内面 底部灰褐色。		底面灰褐色	330	
9-17	SW208東脇	白磁鉢	高台径64、高さ 21	高身	良好	生地陶褐色	内面墨色下部一高身にて濃黒。内足 部墨色化に墨色なり。		墨色化に墨色なり。	353	
9-18	SW208西脇	白磁鉢	高台径60、高さ 19	高身	良好	生地陶褐色	内面墨色化りやや上部の高身なし。 にかけて濃黒。内足込み輪区に稍強 き色。	1/3		355	
9-19	SW208西脇	白磁鉢	高台径62、高さ 23、高さ10	鉢身が鉢脚をせざり て、高身に貯む	良好	生地陶褐色	内面墨色化りやや足口に墨色。 内足込み輪区で強めとする者これらが、剥離す る。足込み輪区。			329	
9-20	SW208西脇	白磁鉢	高台径58、高さ 23、高さ10	高身	良好	生地陶褐色、 釉薬黄褐色	内面墨色から高身に濃黒。内足込 み輪区。	2/3		340	
9-21	SW208西脇	白磁鉢	高台径22、高さ 25、底径21	高身	良好	生地陶褐色	内面灰褐色直面、内足込み輪区で 濃黒。			334	
9-22	SW208東脇	白磁鉢	高台径22、高さ 20、高さ16	高身	良好	生地陶褐色	高台墨色下部一高身内濃黒。高台墨色は 底区に墨色化ある。内足込み輪区が濃黒 なし。墨色區を除く。			354	
9-23	SW208西脇	白磁鉢	高台径6、高さ 25、高身等	高身	良好	生地陶褐色 色、釉薬黄褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて濃 黒。内足込み輪区なし。	1/4残		332	
9-24	SW208西脇	白磁鉢	高台径44、高身 24、底径24	高身	良好	生地陶褐色 色、釉薬黄褐色	高台墨色下部一高身内濃黒。内足 込み輪区で濃黒。			331	
9-25	SW208西脇	白磁鉢	口径60、高身 25、底径25	高身	良好	生地陶褐色 色、釉薬黄褐色	高台墨色下部一高身内濃黒。内足 込み輪区で濃黒。	1/3		335	
9-26	22	SW208西脇	白磁鉢	口径52、高さ 25、底径25	高身	良好	生地陶褐色 色、釉薬黄褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて濃 黒。内足込み輪区。	1/2残、高身 全周。		352
9-27	SW208西脇	青磁鉢	口径46、高さ26	高身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	小形の横木、内面墨色よりやや上 部の高身にて濃黒。	1/4		344	
9-28	SW208西脇	青磁鉢	高台径44、高身 7	鉢脚部を若干含む	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	小形の横木。高身よりやや上 部の高身にて濃黒。	1/2		341	
9-29	SW208西脇	青磁鉢	高台径44	高身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて 濃黒。	小片		345	
9-30	SW208西脇	青磁鉢	高身44	高身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて 濃黒。	小片		346	
9-31	SW208西脇	青磁鉢	口径56、高身 56、底径7	鉢身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて 濃黒。内足込み輪区文。	1/4		337	
9-32	SW208西脇	青磁鉢	口径56、高身 56、底径7	鉢身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて 濃黒。内足込み輪区文。	高台1/2	内足込み輪区の緑化し ない部分全周上に復元	338	
9-33	22	SW208西脇	青磁鉢	口径52、高身 54、底径7	高身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて 濃黒。内足込み輪区文。	1/3残、		336
9-34	SW208西脇	青磁鉢	高台径42、高身 8、底径44	高身	良好	生地陶褐色 色、釉灰褐色	内面墨色よりやや上部の高身にて 濃黒。内足込み輪区に墨色化あり。			333	



第10図 SW208 出土陶器・石鍋実測図 (1/3)

北西部平坦面と南西部平坦面の間の細い平坦面として造成されていたと考えられる。図示した遺物はこの整地層に伴うものが多いが、下層には土師器、陶磁器の大形破片が多く含まれていた。

SW208 出土土器・陶磁器・石鍋 (第9図4~40・第10図、第3・4表) 第9図4~6は土師器皿、7~11は土師器杯である。12は須恵器鉢底部片。14は白磁皿、15~25は白磁碗である。26は柳描文を施す白磁皿。27・28は小形の青磁碗底部片。29は強い凹凸により輪花状をなす青磁碗口縁部片、30は鍋運び文を施す青磁碗口縁部片である。31~37は青磁碗で、31・32・35は同安窯系、33は龍泉窯系と考えられる。38は精製の青磁小形壺胴部片か。39は青磁に比較的近い釉調の褐釉陶器口縁部片。40・41は無釉の大形甕口縁部片である。

第10図1は大形の陶器鉢で器壁が極めて厚い。2は褐釉陶器壺の底部破片と考えられる。3は滑石製石鍋口縁部片、4は同底部片であり、5は石鍋の底部付近の破片を加工した転用品である。

第4表 SW122・SW208出土土器・陶磁器・石鍋観察表 (2)

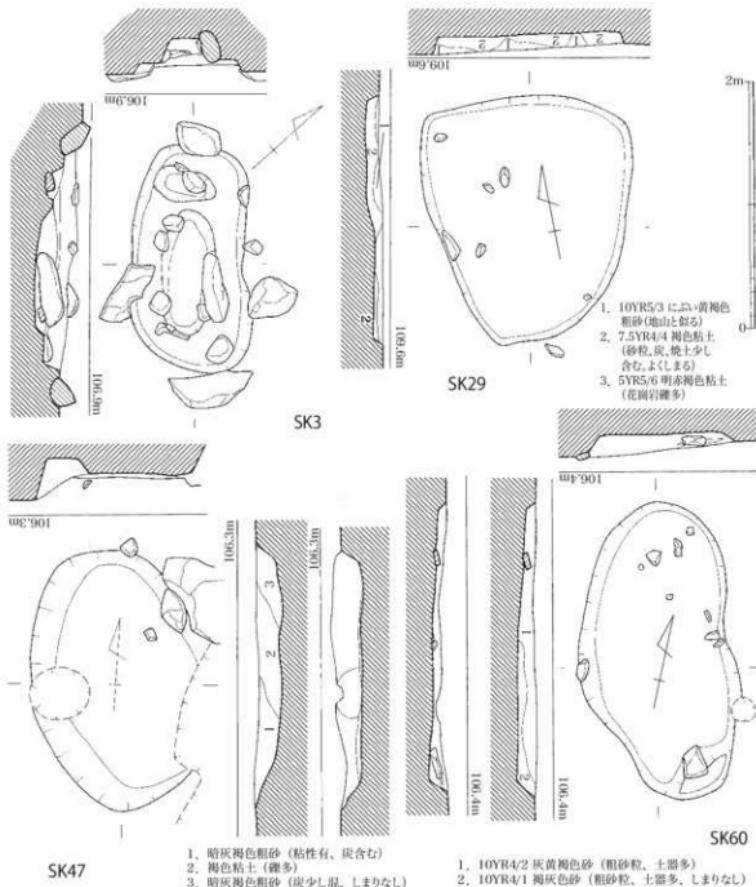
網目番号	国別 番号	出土 遺跡等	断面	底径 (mm)	胎土	焼成	色調	断面小柱法の特徴	現存率	参考	目録 番号
9-35	SK208	青磁碗	高円錐50、高凸 高台高身	粗良	良好	生灰或黄白色、 抛光黄绿色	外側外壁傾斜直線又短弧、 高台外壁 一高内壁綠	2/3	軽薄	356	
9-36	SK208	青磁碗	高円錐68、高凸 高台高身	粗良	良好	生地黄白色、 粗良黄绿色	外表面材のみ鋸歯、 高台内壁綠、内 表面鋸歯のみ付被研磨する	1/2		364	
9-37	SK208A外壁	青磁碗	高円錐47、高凸 47、高台高身	粗良	良好	生地黄白色、 粗良黄绿色	丸太内中央のみ鋸歯、 高台内一晝付 外表面鋸歯、 内表面鋸歯	1/8		366	
9-38	SK208A外壁	青磁碗?	断面90	粗良	良好	生地黄白色、 粗良黄绿色	外表面鋸歯、 内表面鋸歯く粗製品 なし	1/4		357	
9-39	SK208東北	褐釉壺? 口縁部	口径80、残高26	粗良	良好	生地黄褐色、 褐火黄褐色	内表面鋸歯、 口縫延長で鋸歯立て 内反させ、 青磁に比較的近い褐 釉	1/4		358	
9-40	SK208東北	無釉陶器 壺		断縫かなり多く含む	粗良	茶褐色	内各ナギ仕上げ	1/8		359	
9-41	SK208東北	無釉陶器 壺	高46	断縫かなり多く含む	粗質	黄褐色	内各ナギ仕上げ	小片		360	
10-1 22	SK208西南	陶器大鉢		断縫かなり多く含む	粗質	暗褐色	内面ケリ張ナギ、 器壁極めて厚い	小片		347	
10-2	SK208西南	黄褐陶 器底	口径80、高30	断縫和少し含む	良好	生地黄褐色、 粗良黄褐色	器底内面研磨するが、 底に物のな い所とあらわし、 2面底に削り 出上蓋部	1/4		328	
10-3	SK208西南	陶器片	高31				外表面等々ナギ仕上げ	小片		349	
10-4	SK208東北	滑石製石 鍋底片	高28				外表面ケリ張仕上げ	小片		362	
10-5	SK208東北	滑石製石 鍋加工品	長274、幅66、 厚さ27				外表面削り、 滑石製石鍋底片若様 片を削り加工したと考えられる	小片		361	

(2) 土坑

SK 3 (図版8、第11図)

1区北東部平坦面の中央部付近に位置する。長楕円形を基調としているが、石の露頭のためにやや歪になる。北西-南東方向に軸を向け、長軸1.8m、短軸0.9mを測るが、中央部が長さ1.0m、幅0.45mの範囲で深くなる。図示できる遺物はないが、中世土師器小片等が出土しており、中世のものと考えられる。

埋土は灰褐色粗砂であった。



第11図 SK 3・SK29・SK47・SK60 実測図 (1 / 40)

SK29 (図版8、第11図)

1区北東部平坦面の北側、1区の最高所に位置する。黄褐色粗砂、炭を含んだ褐色粘土が含まれ、周辺の地山と土質が異なるために掘下げた。ほぼ南北方向に軸を向け、長軸2.0m、短軸1.75mを測り、浅く、床面はほぼ平坦である。出土遺物はない。

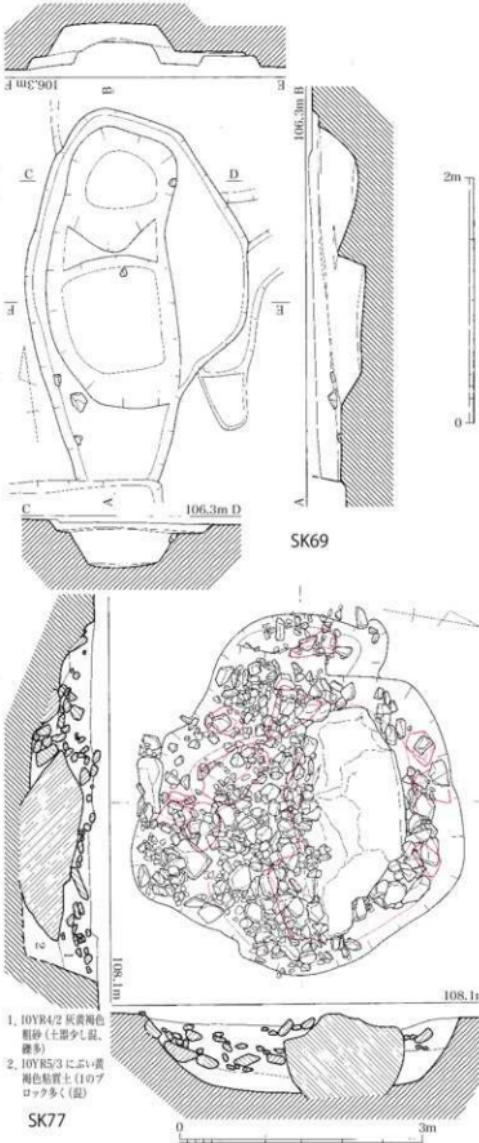
SK47 (図版8、第11図)

1区北東部平坦面の東部に位置する。長軸を南北方向に向けた、略楕円形を呈する土坑である。西壁を搅乱のピット、東壁を搅乱に壊されるが、平面形は極めて明瞭に検出することができた。長軸をほぼ南北に向け、長軸2.15mを測り、短軸方向に1.5m程残存する。深さ15cm程と浅く、出土遺物は少ないが、土師器皿、土師器杯等の小片がある。

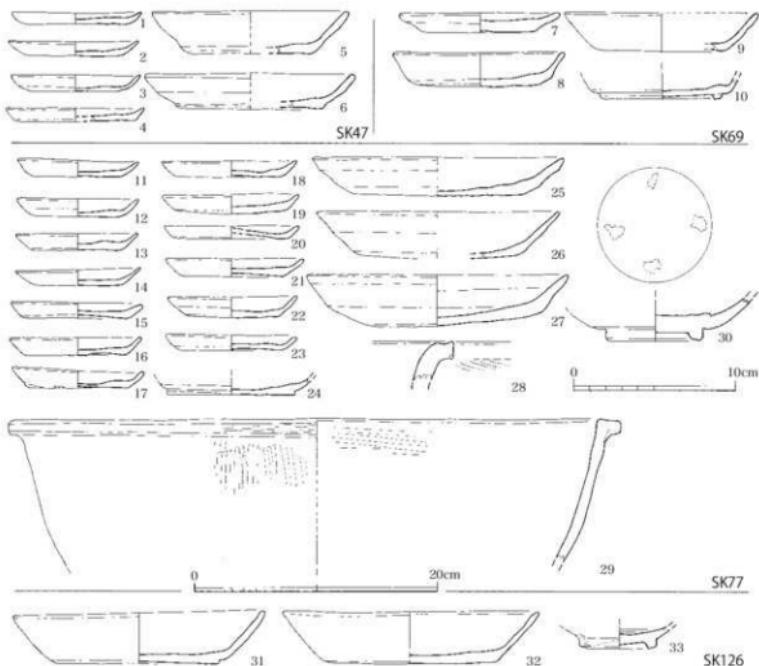
SK47出土土器（第13図1～6、第5表）1～4は土師器皿、5・6は土師器杯で、6は糸切り痕を底部外面に残す。

SK60 (図版8、第11図)

1区北東部平坦面の東部に位置し、上述した、SK47と隣接する。長軸をほぼ南北に向けた、楕円形を呈し、長軸2.45m、短軸1.2mを測る。深さは15cm程と浅く、図示できる出土遺物はないが、中世土師器が出土した。埋土、形態、規模等もSK47と類似しており、関連する土坑と考えられ、時期も大きな差はないものと考えられる。



第12図 SK69・SK77 実測図 (SK69は1/40、SK77は1/60)



第13図 SK47・SK69・SK77・SK126出土土器・陶磁器実測図 (29は1/4、他は1/3)

SK69 (第12図)

1区北東部平坦面の中央やや南寄りに位置する。平面形では長さ3.0m、幅1.8mを測る長楕円形を呈するが、本来は北側の長さ1.0m、幅0.9mの方形の土坑と、南側の長さ1.3m、幅1.0mの方形の土坑が接していたものと理解すべきであろう。いずれも遺構面からの深さは0.4m程度である。SK69出土土器 (第13図7~10、第5表) 7は土師器皿、8・9は土師器杯。10は8世紀代の高台付須恵器杯で、混入品か。

SK77 (図版9、第12図)

1区北西部平坦面のほぼ中央に位置する。南北4.0m、東西3.7mの円形に近い平面形であるが、東と南の輪郭が乱れている。中央やや北寄りに長さ2.8m、幅1.5m、高さ1.0m以上の巨岩があり、この巨岩を埋めて平坦面を造成するために掘削された土坑と考えられる。南側にも20cm大の礫、岩が多量に含まれていた。石が余りにも大きいため、底面まで完掘はできなかった。また、北西部の遺構検出面には土師器皿が一括で投棄されていた。

SK77出土土器・磁器 (第13図11~30、第5表) 11~24は土師器皿で、このうち19以外は北西部上面に一括で投棄されていたものである。11・12・15・16・17・18・20・21・23は底部外面に糸切り痕を残す。

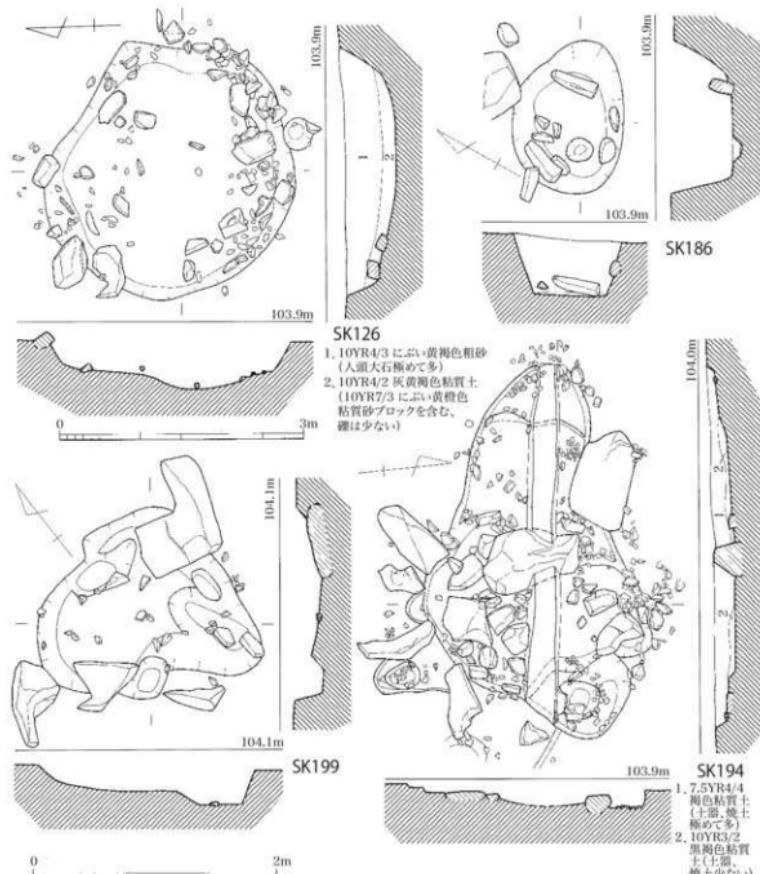
24～27は土師器杯で、24は底部外面に糸切り痕が観察できる。

28は土師器鍋の口縁部か。端部上面を強いナデにより凹ませ、外端は垂直な面をなす。29は口径50cm近い粗製の土師器鍋で、口縁端部を断面方形に突出させる。

30は青磁碗底部で、見込みに4個所の目砂跡が残っている。

第5表 SK47・SK69・SK77・SK126出土土器・陶磁觀察表

件名 番号	同様 番号	出上 遺跡名	器種	底量 (ml)	鉢上	底成	色調	器の底正の特徴	施万年	備考	分類 番号
13-1	SK47	上田原遺	口徑78、底高7 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色少し 含む	良好	白黄褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/4		99	
13-2	22	SK47	上田原遺	口徑78、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色少し 含む	良好	灰黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	口縁3/4		94
13-3		SK47	上田原遺	口徑78、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色少し 含む	良好	白黃褐色	内外部鐵器系。	1/4		93
13-4		SK47	上田原遺	口徑44、底高8 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色少し 含む	良好	淡褐色	内外部鐵器系。	1/3		97
13-5		SK47	上田原遺	口徑18、底高7 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色紅色D- ザリ含む	良好	淡褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/8		96
13-6		SK47	上田原遺	口徑26、底高 22、底高9	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/7		95
13-7		SK49	上田原遺	口徑44、底高12 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡黃褐色	内外部鐵器系。	1/8		158
13-8		SK49	上田原遺	口徑100、底高11 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡黃褐色	内外部鐵器系。			151
13-9		SK49	上田原遺	口徑110、底高20 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	内外部鐵器系。			150
13-10		SK49	第1志賀 台付	高台16、底高4 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡褐色	内外部鐵器系。	1/4		160
13-11	22	SK47北西 上田原遺	口徑72、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/11(完)		178	
13-12		SK47北西 上田原遺	口徑72、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	2/3		168	
13-13		SK47北西 上田原遺	口徑72、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			169	
13-14		SK47北西 上田原遺	口徑74、底高11 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			177	
13-15		SK47北西 上田原遺	口徑78、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			186	
13-16		SK47北西 上田原遺	口徑78、底高11 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/11(完)		163	
13-17		SK47北西 上田原遺	口徑78、底高11 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/11T/8、底 部		184	
13-18		SK47北西 上田原遺	口徑80、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	181			
13-19		SK47北西 上田原遺	口徑80、底高12 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/11(完)		173	
13-20		SK47北西 上田原遺	口徑80、底高9 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/2		187	
13-21		SK47北西 上田原遺	口徑80、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/11S/4、底 部		182	
13-22		SK47北西 上田原遺	口徑78、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。	1/11S/4、底 部		176	
13-23		SK47北西 上田原遺	口徑78、底高10 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			185	
13-24		SK47北西 上田原遺	口徑80、底高11 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			175	
13-25		SK47	上田原遺 25	口徑102、底高 118	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			168
13-26		SK47	上田原遺	口徑116、底高29 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	内外部鐵器系。			172
13-27		SK47	上田原遺	口徑116、底高31 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			169
13-28		SK47北西 上田原遺	口徑24 鉢身少し含む	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	黑色	口縁外表面ハメナを残す。			178	
13-29		SK47下層	上田原遺	口徑104、底高 118	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	白黃褐色	口縁外表面ハメナを残す。			174
13-30		SK47北西 青磁碗	高台40、底高 35、底高17	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	淡褐色	底部外表面に糸切痕を残す。高台 側付一一向内側。			180	
13-31	22	SK426	上田原遺	口徑132、底高 33、底高10	2-3mm大鉢根、露 出。非褐色やや多く 含む	中やけい	白黃褐色	内外部鐵器系。			253
13-32		SK426	上田原遺	口徑144、底高 32、底高14	1-2mm大鉢根、露 出。非褐色やや多く 含む	良好	白黃褐色	底部外表面に糸切痕を残す。			254
13-33		SK426	白磁碗	高台16cm、底高 13、底高17	鉢形鉢。非褐色 少し含む	良好	生地灰褐色。 糊灰褐色	高台骨打一一向内側。見込みに糊 付し骨打する。			255



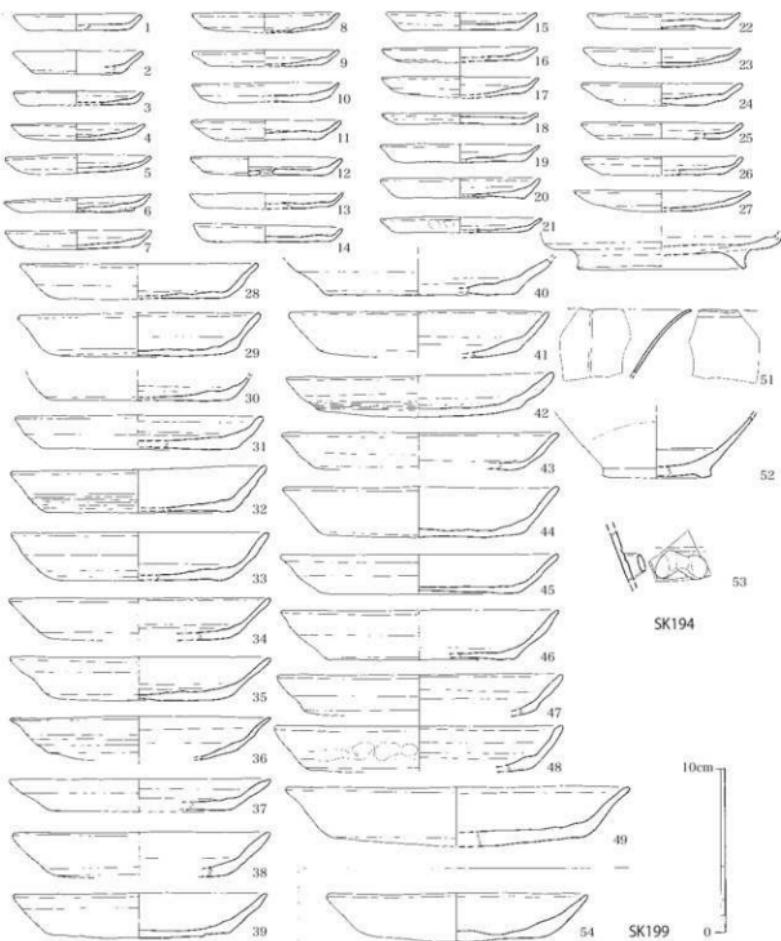
第14図 SK126・SK186・SK194・SK199実測図 (SK126・SK194は1/60、他は1/40)

SK126 (図版9、第14図)

1区南西部平坦面の中央やや東よりに位置する。南北3.0m、東西3.1m、深さ0.6mを測るほぼ円形土坑で、土坑内埋土には20cm大の石が多量に含まれていた。埋土は2層に分かれるが、上層は厚く、人為的に埋め戻されており、整地に伴い不要な石を片づけるための土坑と考えられる。SK126出土土器・磁器（第13図31～33、第5表）第31・32は土師器杯であり、33は白磁楕底部片である。

SK186 (第14図)

1区南西部平坦面の中央やや西寄りに位置する。主軸を北東-南西に向けた小形の土坑である。



第15図 SK194・SK199出土土器・陶磁器実測図(1/3)

長さ1.3m、幅0.9mを測り、深さは0.5m程である。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粗砂で、図示できる遺物はないが、中世の土師器が含まれていた。

SK194(図版9、第14図)

1区南西部平坦面の北西寄りに位置する。東西に長い不整形な落ち込み状の遺構であるが、埋土には多量の焼土と土器が含まれていた。1m近い岩の露頭もあって、平面形は不整形であるが、東西4.65m、南北2.65mの範囲に及び、深さは0.2m余りである。

第6表 SK194・SK199出土土器・陶磁器観察表（1）

調査番号	国宝番号	出土遺物番号	器種	法量 (ml)	肚上	腹底	色調	器形の特徴	残存率	備考	登録番号
15-1	SK194	上部器皿	口徑78、高さ10	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	内外部無施釉。	1/6		311	
15-2	SK194	上部器皿	口徑79、高さ14	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	内外部無施釉。	1/12		316	
15-3	SK194	上部器皿	口徑78、高さ18	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	内外部無施釉。			372	
15-4	SK194	上部器皿	口徑82、高さ10	1~5mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	内外部無施釉。	1/4		285	
15-5	SK194	上部器皿	口徑80、高さ11	1~4mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	2/9		284	
15-6	SK194	上部器皿	口徑80、高さ12	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/3		280	
15-7	SK194	上部器皿	口徑80、高さ13	1~3mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	内外部無施釉。	2/5		276	
15-8	SK194	上部器皿	口徑80、高さ13	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	内外部無施釉。			279	
15-9	SK194	上部器皿	口徑80、高さ13	1mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/4		283	
15-10	SK194	上部器皿	口徑80、高さ13	1~3mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	内外部無施釉。	1/5		275	
15-11	SK194	上部器皿	口徑80、高さ11	2mmの大網渺、赤陶 色艶なし。合歎	良好	黄褐色	底部外部無江底を残す。			274	
15-12	SK194	上部器皿	口徑80、高さ13	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部開孔?の可能性がある。内外部 無施釉。			288	
15-13	SK194	上部器皿	口徑82、高さ13	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	黄褐色	底部外部無江底を残す。	1/5		310	
15-14	SK194	上部器皿	口徑82、高さ11	砂輪渺少し含む	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。			308	
15-15	SK194	上部器皿	口徑82、高さ11	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。			279	
15-16	SK194	上部器皿	口徑82、高さ13	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/6		312	
15-17	SK194	上部器皿	口徑84、高さ10	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/2		273	
15-18	SK194	上部器皿	口徑84、高さ7	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/4		309	
15-19	SK194	上部器皿	口徑86、高さ11	1mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/2		271	
15-20	SK194	上部器皿	口徑86、高さ12	1mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。			281	
15-21	SK194	上部器皿	口徑86、高さ9	1~3mmの大網渺少し 当り	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/4		278	
15-22	SK194	上部器皿	口徑86、高さ10	砂輪渺少し含む	やや少々	白青褐色	底部外部無江底を残す。			307	
15-23	SK194	上部器皿	口徑86、高さ11	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	黄褐色	底部外部無江底を残す。	1/2		268	
15-24	SK194	上部器皿	口徑86、高さ11	1mmの大網渺少し 当り	良好	黄褐色	底部外部無江底を残す。			287	
15-25	SK194	上部器皿	口徑86、高さ10	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰褐色	内外付ナギ上げ。	1/4		286	
15-26	SK194	上部器皿	口徑86、高さ11	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰褐色	底部外部無江底を残す。	1/4		277	
15-27	SK194	上部器皿	口徑106、高さ13	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰褐色	内外部無施釉。	1/8		282	
15-28	SK194	上部器皿	口徑144、高さ22	1~5mmの大網渺や 少し含む	良好	灰褐色	内外部無施釉。	1/4		293	
15-29	SK194	上部器皿	口徑16、高さ27	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰褐色	底部外部無江底を残す。	1/9		290	
15-30	SK194	上部器皿	高さ15	1mmの大網渺少し 当り	良好	灰褐色	内外部無施釉。	2/5		288	
15-31	22	SK194	上部器皿	口徑180、高さ29	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰褐色	底部外部無江底を残す。			300
15-32	SK194	上部器皿	口徑182、高さ27	砂輪渺少し含む	良好	灰褐色	底部外部無江底を残す。以降下部外 部施ナギにより凹凸状の凹凸が落 る。内面黒。	2/3		287	
15-33	SK194	上部器皿	口徑154、高さ29	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。			292	
15-34	SK194	上部器皿	口徑158、高さ28	1~3mmの大網渺少し 当り	良好	灰褐色	内外部無施釉。	1/5		302	
15-35	SK194	上部器皿	口徑158、高さ27	1mmの大網渺、葉渺少 し含む	良好	灰青褐色	底部外部無江底を残す。	1/8		299	
15-36	SK194	上部器皿	口徑158、高さ28	1mmの大網渺少し 当り	良好	灰褐色	底部外部無江底を残す。	1/8		294	
15-37	SK194	上部器皿	口徑158、高さ26	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰褐色、内 側一面黒。	底部外部無江底を残す。			314	
15-38	SK194	上部器皿	口徑156、高さ25	縁目、砂輪はとんご食 ない	良好	灰青褐色	内外部無施釉。			315	
15-39	22	SK194	上部器皿	口徑154、高さ27	砂輪渺少し含む	良好	灰褐色	底部外部ナギにより後後江底を残す。		右肩より完形度元	284
15-40	SK194	上部器皿	直径112、高さ22	縁目が、赤陶色少 し含む	良好	灰青褐色	内外部無施釉。	1/4		313	

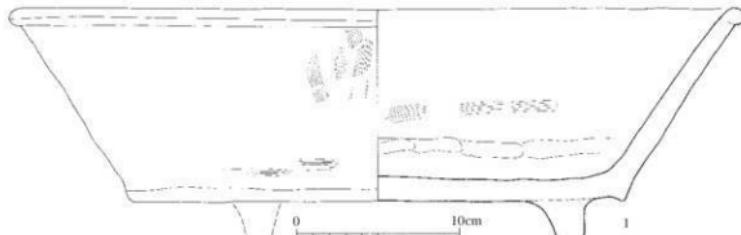
SK194 出土土器・陶磁器（第 15 図 1～53・第 16 図、第 6・7 表） 1～27 は土師器皿で、11・13・14・16～19・22・26 は底部外面に糸切り痕を残す。28～49 は土師器杯である。33・36・37 は底部外面に糸切り痕を残し、32・42 は胴下部外面の強いナデによる沈線状の凹みが特徴的である。50 は土師器楕で、大きい高台径が特徴的である。51 は白磁口縁部で口縁部内面に縱方向の沈線が施される。52 は白磁碗底部片、53 は白磁四耳壺耳部破片。

第 16 図 1 は土師質の火鉢で、脚が貼付される。

SK199（第 14 図）

1 区南東部平坦面のやや西よりに位置する。岩の露頭もあって不整形であるが、現状では隅丸の三角形を呈する。図示した方向に即して述べれば、底辺 1.8m、高さ 1.35m 程で、最深部で深さ 0.3m 程を測る。埋土は 10YR 6/2 灰黄褐色粗砂を主体とし、斑状に 10YR 4/2 灰黄褐色粘土を含む。

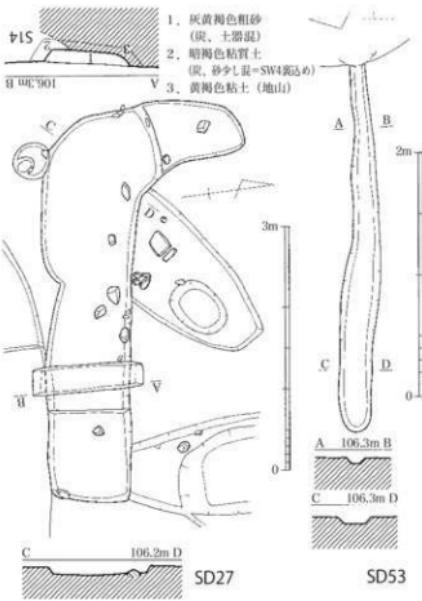
SK199 出土土器（第 16 図 54、第 7 表） 土師器杯で、底部外面には板圧痕が残る。



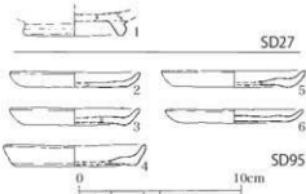
第 16 図 SK194 出土土器火鉢実測図（1/3）

第 7 表 SK194・SK199 出土土器・陶磁器観察表（2）

標識番号	国際番号	出土位置	断面	法量 (ml)	断上	底成	色調	断形・内模法の特徴	残存率	備考	登録番号
13-41	SK194	土師器皿	口径15cm、底高27cm	1.5L	火鉢多・火鉢少	良好	灰褐色	内燃燒跡無	1/6		286
13-42	SK194	土師器皿	口径16cm、底高26cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰黃褐色	底部外側有压痕 内燃燒跡無	1/4		287
13-43	SK194	土師器皿	口径16cm、底高22cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	内燃燒跡無	1/6		297
13-44	SK194	土師器皿	口径16cm、底高20cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰黃色	底部外側有压痕	1/3		288
13-45	SK194	土師器皿	口径16cm、底高20cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	底部外側有压痕	1/2		299
13-46	SK194	土師器皿	口径16cm、底高20cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	底部外側有压痕	1/4		290
13-47	SK194	土師器皿	口径17cm、底高21cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	内燃燒跡無	1/5		291
13-48	SK194	土師器皿	口径17cm、底高20cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	内燃燒跡無	1/4		292
13-49	SK194	土師器皿	口径17cm、底高20cm	1.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	底高内側有压痕	2/3		293
13-50	SK194	土師器皿	口径20cm、底高26cm	2.5L	火鉢少・火鉢少	良好	灰褐色	内燃燒跡無	1/2		300
13-51	SK194	白磁碗	底高29cm	0.5L	良	灰褐色	白磁碗底	白磁碗底	小方		304
13-52	SK194	白磁碗底	底径6cm、底高29cm	0.5L	良	灰褐色	白磁碗底	白磁碗底	1/2		306
13-53	SK194	白磁碗底	良	0.5L	良	灰褐色	白磁碗底	白磁碗底	小片	青磁か白磁小切削に似	305
13-54	SK199	土師器皿	口径15cm、底高29cm	1.5L	火鉢多・火鉢少	良好	白黃褐色	底部外側有压痕			319
16-1	SK194	土師器皿 付大鉢	口径40cm、底高12cm	2.5L	火鉢少・火鉢多	良好	1/2	内燃燒跡少	内燃燒跡少	1/2	317



第17図 SD27・SD53実測図
(SD27は1/60、SD53は1/40)



第18図 SD27・SD95出土土器実測図(1/3)

(3) 溝

SD27 (第17図)

I区北東部平坦面の中央やや南寄りに位置する。東西に長く延び、西端で北に屈折する幅0.6m程の溝である。深さ0.1m余りと浅く、床面はほぼ平坦である。

SD27出土土器(第18図1、第8表) 高台付の土師器碗である。

SD53 (第17図)

I区北東部平坦面の東寄りに位置する。ほぼ東西に走る細い溝で、東端はSK47に切られる。幅0.3m、深さ0.1mに満たない溝で、図示できる出土遺物もないが、東西方向を意識しており、区画を目的とした可能性も考えておきたい。埋土は7.5YR 4/3褐色粘質土。

SD95 (第20図)

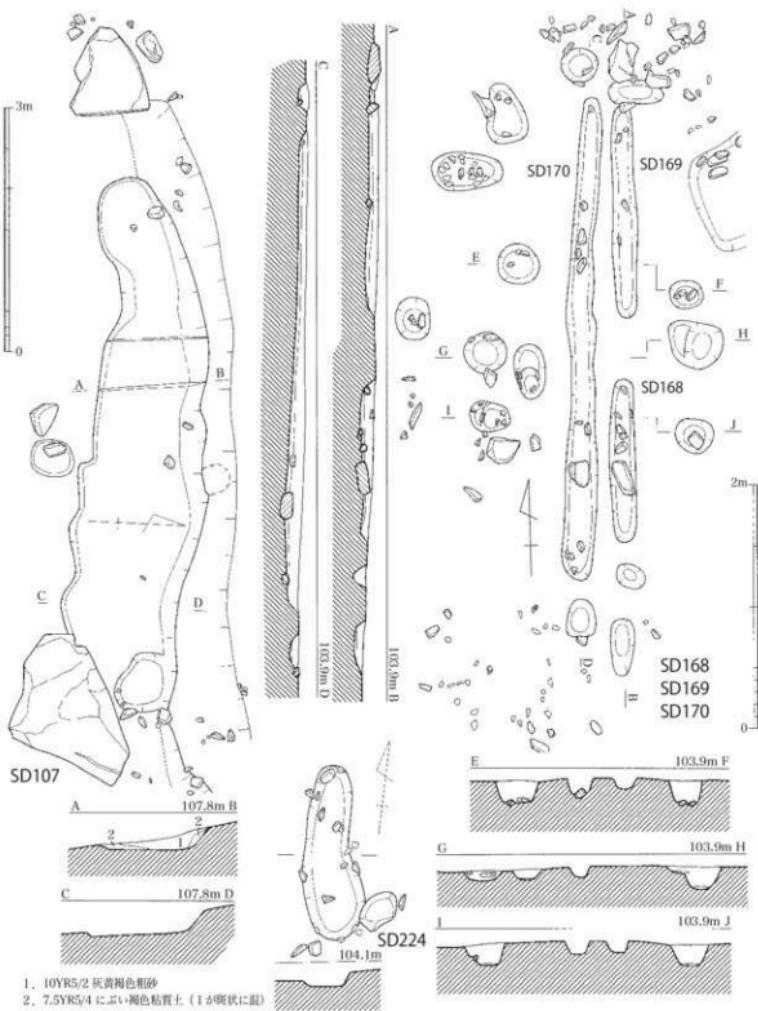
SX66とともに、図示した。ほぼ南北方向を向き、長さ4.6m、幅1.5mを測る。西側が最も深く、造構面から0.4m程の深さである。上層は2.5Y 5/1 黄灰色砂、下層は炭を多く含んだ10YR 4/1褐灰色粗砂が堆積していた。

斜面に堆積した包含層SX66の東に位置しており、斜面と平坦面の境界を意識して掘削されたものであろう。

SD95出土土器(第18図2~6、第8表) いずれも土師器小皿である。口径78~88mmを測り、3は底部外面に糸切り痕を残す。

第8表 SD27・SD95出土土器観察表

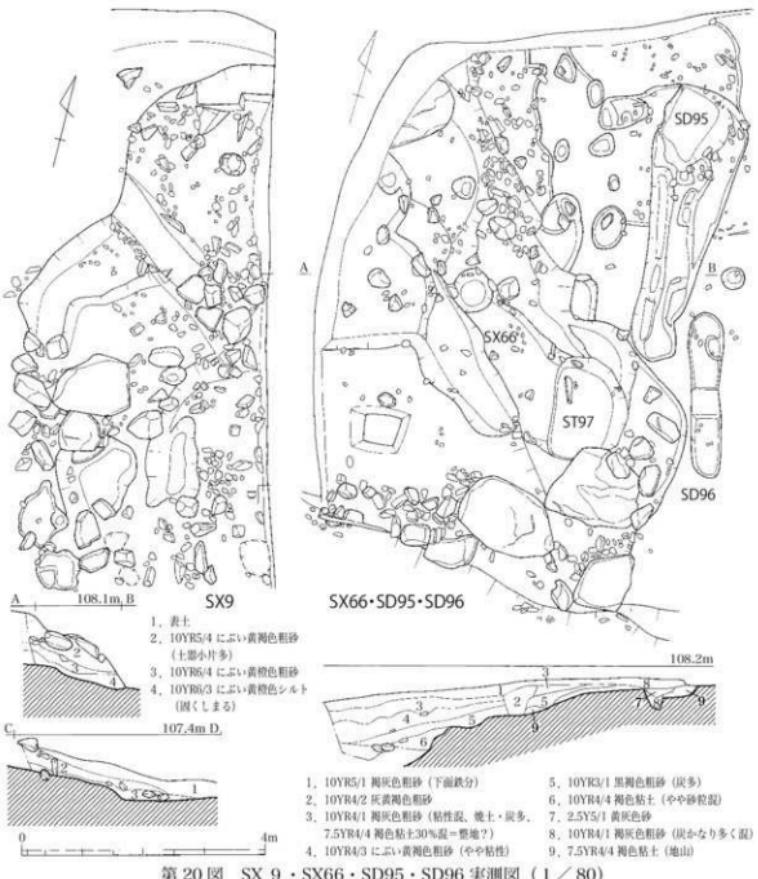
番号	国名	出土 遺物号	形態	深度 (m)	地土	焼成	色調	剖面や内壁の内観	保存率	備考	登録 番号
18-1	SD27	上部器皿	高台付42、西高 14、高台付9	鉢底	良好	白黄色	内外壁無剥離。		89		
18-2	SD95	上部器皿	口径78、底径9	破砂粒、赤褐色紅、素 地を少しむき	良好	高輪紅色	内外壁無剥離。	1/4	105		
18-3	SD95	上部器皿	口径80、底径10	破砂粒、赤褐色紅、素 地を少しむき	良好	灰黃磨色	底部外壁に切り目を残す。	1/3	106		
18-4	SD95南半	上部器皿	口径84、底径13	破砂粒、赤褐色紅、素 地を少しむき	良好	柳葉色	内外壁無剥離。	1/2	104		
18-5	SD95	上部器皿	口径88、底径10	破砂粒、赤褐色紅、素 地を少しむき	良好	柳葉色	底部外壁に切り目を残す。	1/2	107		
18-6	SD95	上部器皿	口径84、底径8	破砂粒、赤褐色紅、素 地を少しむき	良好	白黃磨色	内外壁無剥離。	1/4	108		



第19図 SD107・SD168・SD169・SD170・SD224 実測図 (SD107は1/60、他は1/40)

SD96 (第20図)

SX66とともに図示した。SD95の南に位置し、ほぼ南北を向くが、北側でわずかに西に軸を振っている。長さ2.7m、最大幅0.6mを測る。深さは0.1m内外と極めて浅いが、輪郭は比較的明瞭であった。位置から、SD95と関連をもつ遺構と考えられ、同様に斜面地と平坦面の境界を意識したものであろう。埋土は10YR 5/2 灰黄褐色粗砂。



第 20 図 SX 9・SX66・SD95・SD96 実測図 (1 / 80)

SD107 (第 19 図)

1 区北西部平坦面は南側で高さ 0.3m 程の段差が形成されていた。本溝はその段差の下を区画する凹み状の造構である。ほぼ東西を向き、長さ 6.5m、幅 1.3m 程で、東端は巨石の露頭のために取束部が不明瞭となっている。図示できる遺物はない。

SD168・SD169・SD170 (第 19 図)

1 区南西部平坦面の南西部で検出された。基本的には正南北方向に 2 条の溝が平行して伸びているものと理解されるが、西側を SD170 とし、東側の溝の北半を SD169、南半を SD168 とした。南に位置するピットも連続する溝の一部と考えられ、それを含めると南北 5.5m 程になる。いずれ

の溝も幅 0.2m 程で、溝の東西間隔 0.15 ~ 0.2m 程、深さは 0.1m 程である。正南北を向くこと、この溝の西側では遺構密度が若干希薄になる傾向が指摘できることから、区画の機能を果たしたものと考えられる。10YR 4 / 1 褐灰色砂 ~ 10YR 5 / 1 褐灰色砂を埋土とする。図示できるような遺物はない。

SD224 (第 19 図)

1 区南西部平坦面の西部で検出された短い溝である。最大幅 0.5m、長さ 1.4m 程を測り、深さは 0.1m に満たない。埋土は 10YR 4 / 1 褐灰色粗砂であり、小片のため図示していないが、瓦器皿等が出土している。

(4) 包含層等

SX 9 (第 20 図)

1 区北東部平坦面の北東斜面地に堆積した包含層で、SX76 の北に位置する。石・礫を多量に含んだ包含層である。下層には土器細片を比較的多く含んでいる。恐らく斜面地に自然堆積した包含層ではないかと考えられる。

SX 9 出土土器・磁器 (第 21 図 1 ~ 8、第 9 表) 1 ~ 3 は土師器皿、4 は土師器杯である。5 は口径が大きく、間隔の広い掘目を施した土師器鉢である。内外の調整は雑なハケ、ナデ仕上げである。6 は白磁椀口縁部、7・8 は青磁椀口縁部。

SX64・SX65

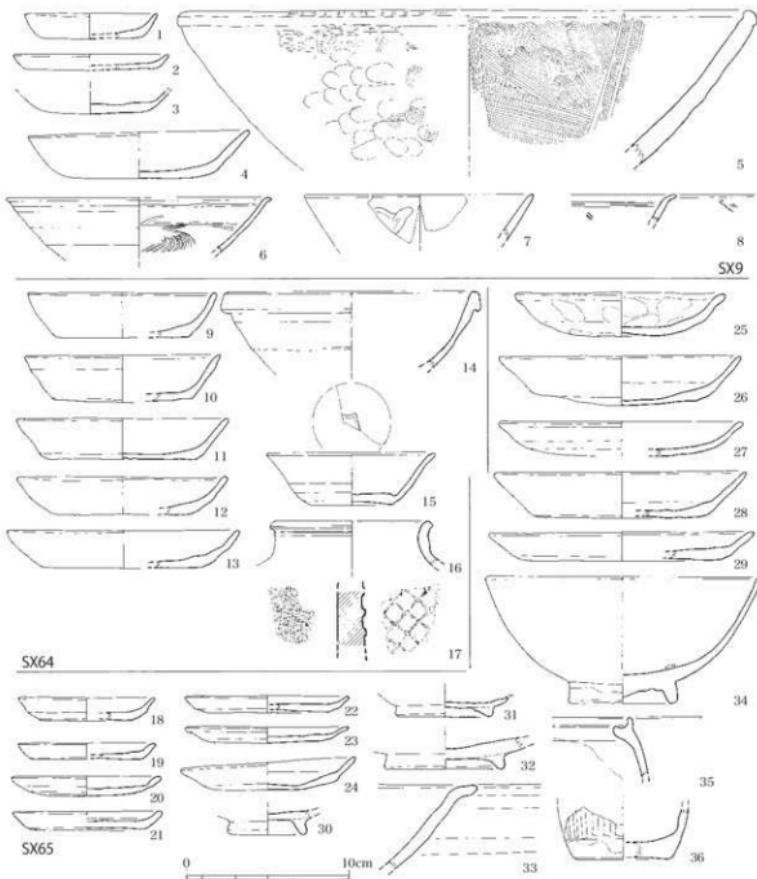
1 区北西部平坦面、後述する SX108 の北側から、SX66 の東側にかけて遺構面に堆積していた包含層であり、SK77 の上面に位置する。西部を SX64、東部を SX65 に分けて取り上げた。比較的均質な 10YR 5 / 3 ~ 10YR 4 / 3 にぶい黄褐色粗砂であり、整地層と考えられる。その出土遺物は包含層下面で検出された各遺構に本来伴うものが含まれるのであろう。

SX64 出土土器・磁器・瓦 (第 21 図 9 ~ 17、第 9 表) 9 ~ 13 は土師器杯で、9・11・12 は底部外面に糸切り痕を残す。14 ~ 16 は白磁で、14 は椀、15 は体部が直線的に伸びる杯、16 は壺等の口縁部となるか。17 は格子タタキの瓦小片である。

SX65 出土土器・陶磁器 (第 21 図 18 ~ 36、第 9 表) 18 ~ 24 は土師皿、25 ~ 29 は土師器杯である。ただ、29 は口径に比べ器高が小さいため、皿との分類に悩む器種である。30 ~ 32 は土師器椀の高台付近破片であり、いずれも、高台は低い。33 は土師器鉢の口縁部か。34 は青磁椀で、内見込みに目砂痕跡が残る。35 は器形不明の陶器であるが、外面は露胎で内面に施釉される。36 は褐釉陶器の底部付近の破片。

SX66 (図版 10、第 20 図)

1 区北西部平坦面の西端に位置する。東から西に向って深くなり、遺構面から 1.2m 程の深さまで掘下げたが、西側に位置する里道の安全上の問題を考慮して、最下面までは完掘していない。上部では 1・3 ~ 5 層が斜面の傾斜に沿って堆積しており、自然堆積によるものと考えられる。上述のように東に位置する溝 SD95・SD96 は包含層の堆積する斜面地と平坦面の区画を意識したものであろう。土器等の小片を比較的、多く含む。



第21図 SX 9・SX64・SX65 出土土器・陶磁器・瓦実測図 (1/3)

なお、下面で検出した中世墓 ST97は、本包含層の掘下げ作業中に存在に気がつかなかつたが、包含層がある程度、堆積した後に掘り込まれたものと推測される。

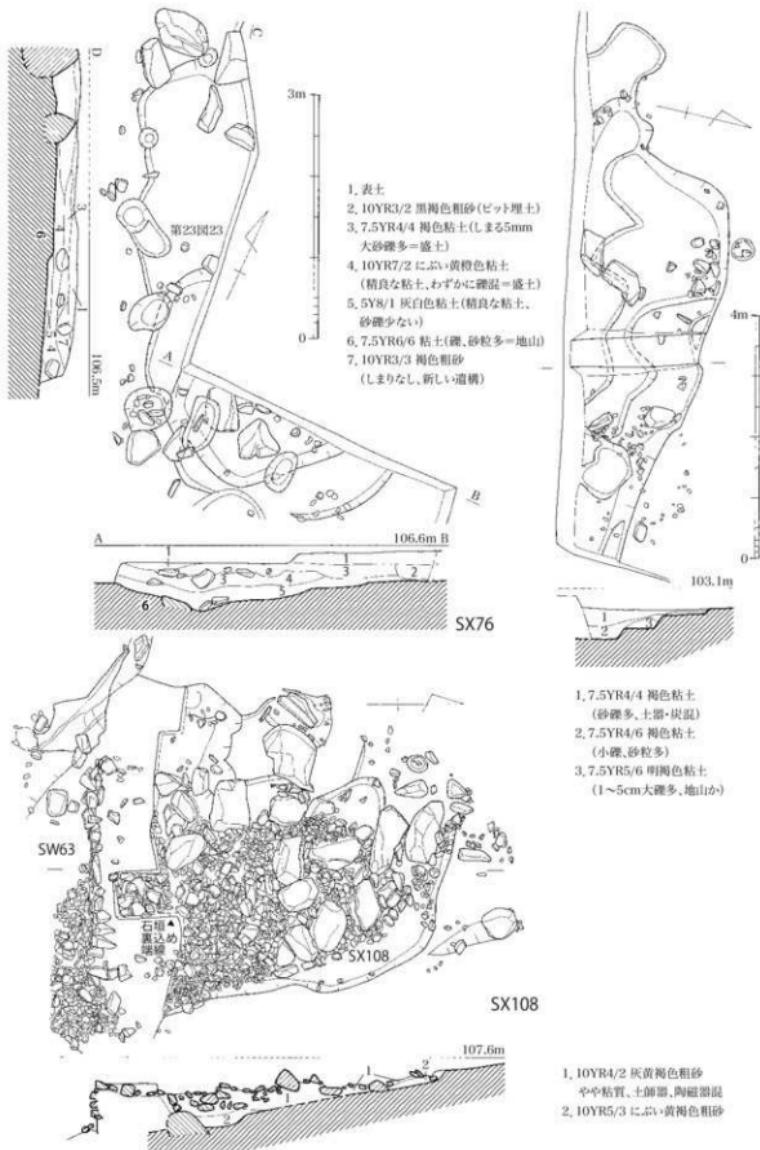
SX66 出土土器・磁器 (第23図1~20) 1~8は土師器皿であり、8は外面に底部外面に糸切り痕を残す。9~11は土師器杯で、9は丸みを帯びた器形をなし、11は直線的に口縁部が外傾する。12は高い高台か特徴的な土師器碗底部である。

13は瓦質に近い焼成の杯。15は小形の瓦器碗で、14も同様の器形をなすかと推測される。17は須恵質無文の小形壺胴上半部。

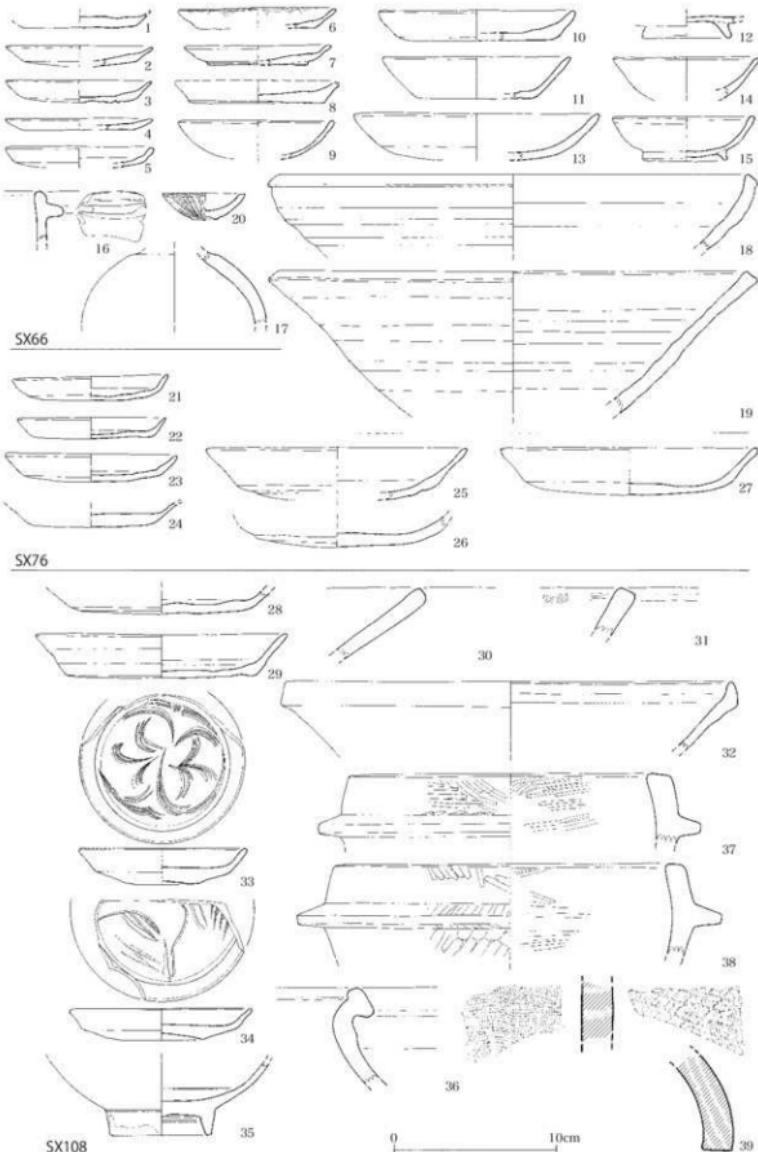
18・19は須恵質の捏鉢であり、18は口縁部が丸みを帯びて直立するのに対して、19は直線的に外傾する。20は白磁の小皿。

第9表 SX 9・SX64・SX65出土土器・陶磁器・瓦観察表

辨別 番号	国別 番号	出土 遺跡等	形種	法長 (mm)	胎土	焼成	色調	器形や性状の特徴	保存率	備考	登録 番号	
21-1	33.9北原	上部断面	口徑80、高さ10 網紋粒少し含む	良好	黄褐色	内外褐底。					6	
21-2	33.9	上部断面	口徑94、高さ10 粒	良好	白褐色	直縁。	直縁内表面直底を残す。				7	
21-3	33.9	上部断面	口徑94、高さ11 網紋粒	良好	黄褐色	直縁。	直縁外周縁へ少く切り落とし直底を残す。				2	
21-4	33.9第下 盤	上部断面	口徑94、高さ20 褐色色含む	良好	褐色	直縁。	直縁外周縁へ少く切り落とし直底を残す。	直縁完全、口縁 4~5mm			4	
21-5	33.9花押	上部断面 井	口径44、高さ16 網紋粒含む	良好	黄褐色	直縁。	内部へ施墨跡がなく、焼け目有り直底を残す。内面ハケ有りナマ。	直縁完全、口縁 4~5mm			5	
21-6	33.9	右端部	口径14、椎孔有 井	良好	生地灰白色。 燒成灰白色	直縁。	内面墨書きを残す。	1/6			3	
21-7	33.9	右端部	口径13、高さ29 井	良好	生地灰白色。 燒成灰白色	直縁。	内面片方面による施文。	1/8			9	
21-8	33.9	背面板	高さ17 井	良好	生地灰白色。 燒成灰白色	直縁。	内外施文わずかに残る。	小片			10	
21-9	33.84	上部断面	口径112、高さ10 21、直壁2	良好	白黃褐色	直縁。	直縁内表面切欠を残す。	1/4			106	
21-10	33.84	上部断面	口径118、高さ10 直壁2	良好	黄褐色	直縁。	内外ナマ仕上げ。	1/3			101	
21-11	33.84	上部断面	口径126、高さ20 直壁2	良好	網紋粒、赤褐色少し 含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。	1/4			97	
21-12	33.84	上部断面	口径126、高さ20 直壁2	良好	網紋粒、赤褐色少し 含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。内外の擦 痕。	1/4			110	
21-13	33.84	上部断面	口径140、高さ20 直壁2	良好	直縁。	直縁内表面直底を残す。	1/8			104		
21-14	33.84	右端部	口径148、高さ17 直壁	良好	生地灰白色。 燒成灰白色	直縁。	斜下部墨書き。口縁の下縁は大き い。	1/8			106	
21-15	33.84	右端部	口径150、直壁 高さ20	良好	生地灰白色。 燒成灰白色	直縁。	小穴有り。直縁。見込みに施文する。 内面内表面暗緑色あり、直縁内側は 少しおじや。	直縁1/3強			107	
21-16	33.84	右端部 下端	口径92、高さ28 直壁2	良好	生地灰白色。 燒成灰白色	直縁。	内面施文。斜下部内表面にかすか に裏書きの跡が残る。	1/4			108	
21-17	33.84	平瓦小片	厚さ16	網紋粒少し含む	良好	直縁。	内面墨書きナマ。西面在直底。	小片			109	
21-18	33.86山根 下端	上部断面	口径92、高さ11 直壁2	良好	網紋粒、葉目、赤褐色 少し含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。	1/6			122	
21-19	33.86山根 下端	上部断面	口径92、高さ10 直壁2	良好	網紋粒、葉目、赤褐色 少し含む	直縁。	内面施文直底。	1/4			114	
21-20	33.86山根 下端	上部断面	口径90、高さ12 直壁2	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。	1/12			113	
21-21	23	33.86山根 下端	上部断面	口径90、高さ10 直壁2	良好	網紋粒、葉目、赤褐色 少し含む	直縁。	直縁内表面切欠後直底を残す。	1/3			112
21-22	33.86山根 下端	上部断面	口径88、高さ10 直壁2	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。	1/10			120	
21-23	33.86山根 下端	上部断面	口径88、高さ10 直壁2	良好	網紋粒、葉目、赤褐色 少し含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。				111	
21-24	23	33.86山根 下端	上部断面	口径106、高さ20 直壁2	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	直縁内表面直底を残す。				133
21-25	33.86山根 下端	上部断面	口径126、高さ20 直壁2	良好	網紋粒少し含む	直縁。	内面所用直底を残す。	1/2			134	
21-26	23	33.86山根 下端	上部断面	口径140、高さ30 直壁2	良好	葉目少し含む	直縁。	内面墨書き。				117
21-27	33.86山根 下端	上部断面	口径146、高さ10 直壁2	良好	網紋粒少し含む	直縁。	内面墨書き。				121	
21-28	33.86山根 下端	上部断面	口径153、高さ29 直壁2	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	内面墨書きであるが、直縁内面は ハラリ付。	1/3			118	
21-29	33.86山根 下端	上部断面	口径162、高さ10 直壁2	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	内面墨書き。				119	
21-30	33.86山根 下端	上部断面	口径164、高さ10 直壁2	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	内面墨書き。	1/2			125	
21-31	33.86山根 下端	上部断面	口径164、高さ6 直壁2	良好	網紋粒少し含む	直縁。	内面墨書き。				110	
21-32	33.86山根 下端	上部断面	高さ70、直 高さ69	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	内面墨書きであるが、直縁内面は ハラリ付。				132	
21-33	33.86山根 下端	上部断面 口縁部	高さ69、直 高さ62	良好	網紋粒、葉目少し含む	直縁。	直縁内側に施文けの墨出がある が、直縁内ナマ仕上げ。	小片			124	
21-34	23	33.86山根 下端	青磁瓶	口径64、高さ 26、直高さ66、 高さ62	良好	網紋粒	直縁内側に施文けの墨出がある が、直縁内ナマ仕上げ。	直縁完存			119	
21-35	33.86山根 下端	青磁物部 口縁部	高さ38	良好	網紋粒	直縁。	内面墨書き。	小片			126	
21-36	33.86	青磁物部 直底	透壁62、高さ22 直底	良好	網紋粒	直縁。	内面墨書き。	直縁内墨書き。	1/2		115	



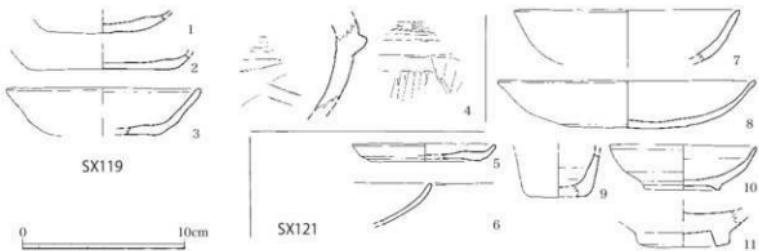
第22図 SX76・SX108・SX121 実測図 (SX76は1/60、他は1/80)



第23図 SX66・SX76・SX108出土土器・陶磁器・石鍋・瓦実測図(1/3)

第10表 SX66・SX76・SX108出土土器・陶磁器・石鍋・瓦観察表

調査番号	国宝番号	出土場所	断面	法量 (ml)	胎土	構成	色調	断面の役目(特徴)	保存率	備考	登録番号
23-1	SX66南半上層	上部断面	直高9		細砂粒、雲母少々含む	良好	明褐色	内外部底部底面。	遺失周		136
23-2	SX66最下層	上部断面	口径80、高さ12		粗砂粒、赤褐色含む	良好	白黄褐色	内外部底部底面。	1/6		132
23-3	SX66南半上層	上部断面	口径86、高さ13		粗砂粒少し含む	良好	淡黃褐色	外底部へ切り底を残す。			138
23-4	SX66最下層	上部断面	口径88、高さ7		粗砂粒少し含む	良好	米黄色	内外部底部底面。			148
23-5	SX66最下層	上部断面	口径86、高さ6		粗砂粒少し含む	良好	白灰褐色	内外部底部底面。			151
23-6	SX66南半上層	上部断面	口径86、高さ10		粗砂粒少し含む	良好	白灰褐色	底部に薄テラコッタ。口縁部分内外に埋付	1/6		137
23-7	SX66最下層	上部断面	口径86、高さ13		粗砂粒少し含む	良好	米黄色	内外部底部底面。			139
23-8	SX66～75	上部断面	口径86、高さ13		粗砂粒、赤褐色少し含む	良好	褐褐色	外底部へ切り底を残す。			140
23-9	SX66～75	上部断面	口径84、高さ12		粗砂粒少し含む	良好	白黄褐色	内外部底部底面。			144
23-10	SX66北半上層	上部断面	口径10、高さ18		細砂粒、雲母、赤褐色	良好	外底部桿付。内底部暗褐色。	底部に薄テラコッタを残す。			156
23-11	SX66東部	上部断面	口径10、高さ20		細砂粒少し含む	良好	淡黃褐色	底部外底部直底を残す。			146
23-12	SX66南半上層	上部断面	高さ16.4、西高		粗砂粒少し含む	良好	白黄褐色	高い直行を呈する。内外の底部底面。			155
23-13	SX66南半上層	其部	口径16、高さ28		粗砂粒少い含む	良好	白灰色～黒色	内外の厚底部底面。	1/4		139
23-14	SX66～75	其部	口径16、高さ25		粗砂粒	良好	灰色	口径の小さい直脚部分。			141
23-15	SX66南半上層	其部	口径16、高さ27、高台2.7		粗砂粒少し含む	良好	内底部灰白色。外底部灰黑色	口径5/6、高台1周			138
23-16	SX66最下層	上部断面	直高20		細砂、雲母、赤褐色少く含む	良好	褐褐色	口縁直下に高い突起を呈付する。	小片	断面不安定で、高台部分の可塑性あり。	154
23-17	SX66～75	粗砂粒子	口径11.4、高さ10		粗砂粒少し含む	良好堅透	内底部灰白色。内底部ナリ付上げ。底部ナリぼまる。				142
23-18	SX66～75	粗砂	口径28、高さ40		粗砂ほとんど含まず特徴	良好	灰色～灰黑色	内底部ナリ	1/6		142
23-19	SX66～75	粗砂部	口径28、高さ40		粗砂粒少し含む	良好	灰色。口縁外底部黒色	内底部ナリ	1/10		146
23-20	SX66東部	白磁小皿	口径10、底径15		粗砂粒	良好	釉白色	内底部方向斜面に施す。内底部～外底部直底を呈す。	1/6		147
23-21	SX76	上部断面	口径10、高さ16	2~5mm砂粒、雲母、赤褐色少く含む	良好	褐色	外底部直底を呈す。				162
23-22	SX76	上部断面	口径10、高さ13	2~5mm砂粒、雲母、赤褐色少く含む	良好	淡黃褐色	外底部直底を呈す。	2/3			163
23-23	SX76 No.2	上部断面	口径10、高さ16	粗砂粒少し含む	良好	淡灰黃褐色	内外部底部底面。				171
23-24	SX76	上部断面	高さ15		粗砂粒、赤褐色少し含む	良好	褐色	底部外底部直底を残す。			168
23-25	SX76	上部断面	口径10、高さ22		粗砂粒少し含む	良好	淡黃褐色	内外の厚底部底面。	1/4		164
23-26	SX76	上部断面	高さ19		粗砂粒、雲母、赤褐色少く含む	良好	褐色	内外の厚底部底面。			166
23-27	SX76	上部断面	口径15.4、高さ29		粗砂粒少し含む	良好	白黄褐色	内外の厚底部底面。	1/2倒残		167
23-28	SX108下層	上部断面	高さ14		粗砂粒少し含む	良好	内底部、内底部黃色	内底部ナリ付上げ。	1/2		212
23-29	SX108	上部断面	口径10.2、高さ27		粗砂粒、雲母少し含む	良好	白黄褐色	底部外底部直底を呈す。			208
23-30	SX108	上部断面	高さ15		粗砂粒、雲母、赤褐色少く含む	良好	白褐褐色	内外部底部底面。	小片		210
23-31	SX108	上部断面	高さ20		粗砂粒少し含む	良好	白黄褐色	内底部ナリ			209
23-32	SX108下層	上部断面	口径28.4、高さ14		粗砂粒、雲母少し含む	良好	内底部白黄褐色。	内底部ナリ			212
23-33	SX108青磁	口径11、高さ22、底径14			粗砂粒、雲母	良好	釉褐色	足込込みに施す花文を施す。底部直底。	1/2倒残		218
23-34	SX108下層	青磁	口径10.8、高さ19、底径10		粗砂粒	良好	釉褐色	足込込みに施す花文を施す。底部直底。	1/2倒残		215
23-35	SX108下層	青磁	高台16.2、高台底、底径14		粗砂粒	良好	釉褐色	高台部底下部～内部内底部砂粒、地。地は施す。足込込みに施す花文を施す。	1/2		214
23-36	SX108下層	青磁	口径16.6		粗砂粒少し含む	良好	内底部白黄褐色。内底部灰褐色		小片		211
23-37	SX108青磁	口径15.5、高さ12			粗砂粒少し含む	良好	内底部白黄褐色。	口縁上に肥厚。内底部灰褐色。灰化したような器表の削けた跡。			219
23-38	SX108青磁	口径14.8、高さ17			粗砂粒	良好	内底部白黄褐色。	口縁上に高い突起を呈す。内外丁寧なナリ付上げ。	1/6		218
23-39	SX108下層	丸瓦	厚さ19		粗砂粒少し含む	良好	外底部白黄褐色。	外底部白黄褐色。内底部灰褐色。	小片		217



第24図 SX119・SX121出土土器・磁器・石鍋実測図（1／3）

SX76（図版10、第22図）

1区北東部平坦面の東部で検出された。調査区外に広がるため全形を知ることができないが、南北5.5mの落ち込み状の遺物包含層であり、南側がやや深くなる。床は南側が深くなり、基盤土の礫・岩等が露出するが、下部には土層図の4・5層、精良な黄橙色粘土、灰白色粘土が堆積していた。人為的に埋め戻されたと考えられ、恐らく建物等の掘り込み事業の一部にあたるのでないかと推測される。深さは最深部で0.6m程である。

SX76出土土器（第23図21～27、第10表）21～24は土師器小皿、25～27は土師器杯で、21・22・24・27は底部外面に板压痕が確認されるが、糸切り痕を残すものは含まれない。

SX108（図版10、第22図）

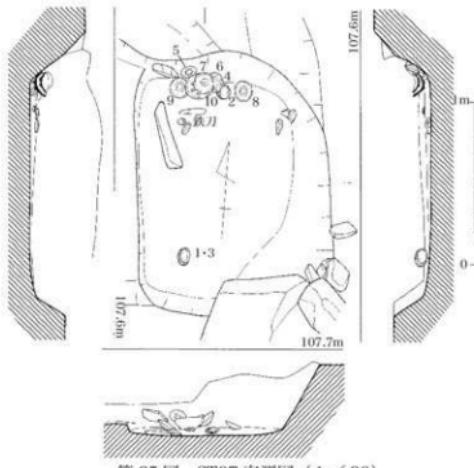
1区北西部平坦面の東寄りに位置する。南北6.0m、東西5.0mの範囲にわたる。略南北に主軸を置き、南に大きく広がった平面形を呈し、石を投棄した遺構と判断される。1m弱の大形の石が投棄されていたため、下面まで十分に発掘調査できなかったが、深さ0.8m程である。南端は、北西部平坦面の南に位置する石垣SW63と一緒にしており、SW63の構築と同時に行われた整地に伴うものと考えられ、SW63の裏込めを兼ねていたのであろう。したがって、その出土遺物は、石垣SW63の築造時期を示すものとして扱うことができる。

SX108出土土器・陶磁器・石鍋・瓦（第23図28～39、第10表）28・29は土師器杯で、29の底部外面には糸切り痕が残る。30～32は土師質鉢であり、32は口縁部を上方に拡張する。33・34は見込みに施した青磁皿、35は高台の高い青磁碗である。36は上下に端部を拡張した陶器甕口縁部片。37・38は鉗状の突帯を巡らす滑石製石鍋口縁部片で、いずれも内外を丁寧にケズリ仕上げする。39は外面斜格子タタキで須恵質の丸瓦小片である。

SX119

個別の画面は掲載していないが、1区北西部平坦面の南側、SX108の西側の斜面地の包含層であり、砂粒を多く含んだ10YR4/2灰黄褐色粗砂で埋め戻されていた。恐らく平坦面の造成にもなる遺構であろう。

SX119出土土器・石鍋（第24図1～4、第11表）1は土師器皿、2は土師器杯である。3は口縁部が直線的に外反する須恵器杯で、底部はヘラ切り痕を残す。4は石鍋の胴部片と考えられるが、低く稜線の目立たない突帯が巡っている。



第 25 図 ST97 実測図 (1 / 30)

おびた器形で、口縁端部はわずかに肥厚する。9 は径が小さく、深い器形をなす。

10 は小形の瓦器椀、11 は白磁底部片である。

(5) 墓

ST97 (図版 11、第 25 図)

SX66 の底面近くで輪郭を検出したが、SX66 を掘り込んでいた可能性が高いと考えられる。磁器・土師皿・鉄器が一括して出土したことから墓と考えられる。出土遺物は北側から土師器皿 2 点と、白磁皿 5 点、青磁椀 1 点、鉄小刀 1 点が一括で出土した。また、南側からは土師器皿が 2 点出土している。出土状況図に図示はしていないが、付近から鉄釘小片が散漫ながら、やまとまって出

第 11 表 SX119・SX121 出土土器・磁器・石錐観察表

調査 番号	図版 番号	出土 遺跡	面積	法面 (m)	地土	構成	色調	断面や技法の特徴	推定半 径	備考	登録 番号
24-1	SX119②合 蓋	上階廻廊	既高12	赤褐色、泥質等砂質	直柱	褐褐色	内凹深溝。				228
24-2	SX119②合 蓋	上階廻廊	既高10	磁器板わざかに含む	良好	褐色	内面ナメ、底部外側み切り直す。				227
24-3	SX119②合 蓋	既走廊	口徑11.0、既高29	磁器板わざかに含む	良好	褐色	底部内外ナメ、底面外側へテ切り				228
24-4	SX119②合 蓋	既走廊	既高30、厚さ13				内凹ケズ直底す。				229
24-5	SX121①合 蓋	上階廻廊	口径9.6、既高10	露頂、磁器板若干含む	良好	白黄褐色	外底面直切り底を残す	1/4			240
24-6	SX121①合 蓋	上階廻廊	既高26	露頂、磁器板若干含む	良好	灰褐褐色	内凹深溝。		小片		241
24-7	SX121①合 蓋	上階廻廊	口径13.6、既高32	磁器板わざかに含む	良好	白褐褐色	内凹ナメ。	1/10			242
24-8	SX121①合 蓋	上階廻廊	口径13.4、既高29	輕目だが、露頂少量含む	良好	白黄褐色	内凹基準溝。				243
24-9	SX121①合 蓋	上階廻廊	既高42、既高41	直筒	良好	洪褐色	内凹ナメ仕上げ。	1/3			244
24-10	23	SX121②合 蓋	既走廊	口径30、既高30	3~5mm程の砂粒少し 含む	やや早い	黒褐色、内面 底部露頂を帶びる。		日付1/2種、 高台土間。		245
24-11	SX121②合 蓋	既走廊	既走廊、既高23	難良	良好	生黄褐色、 内面露褐色。		2/3			246

SX121 (図版 10、第 22 図)

1 区南東部平坦面の南東調査区境で検出した。壁に沿って東西に長く、現状で東西 8.0m を測り、南北は最大で 2.4m 程調査した。深さは最大で 0.65m 程である。底面は凹凸が顕著で、礫・岩等が露出する。礫等を多く含む褐色粘土が厚く堆積しており、人為的に埋め戻されたことは確かである。中央部の上面では 60cm 大の大形の岩が投棄されており、凹地等を整地するとともに、石を投棄した整地層と推測される。

SX121 出土土器・磁器 (第 24 図 5 ~ 11、第 11 表) 図示可能な出土遺物は多くない。5 は土師器皿、6 ~ 9 は土師器杯である。8 は丸味を

土した。本来、木棺墓であった可能性が高いが、床面付近まで掘下げる墓の存在に気がついたために、その輪郭は不明である。墓壙は主軸をほぼ南北に向けた長方形をなすと考えられ、上面で長さ1.65m、幅1.17m、下面で長さ1.32m、幅0.94mを測る。墓壙の南東隅にはSX66包含層中の大きな岩があつて、木棺があるとしても、床面の長さ1.32mよりもやや小さかったものと想定される。墓壙壁は現状では東側の遺存状況が良好で、高さ0.42mを測るのに対して、西側は輪郭に気づかずに入下げたために高さ0.05m程度しか遺存しない。なお、鉄器は第53図に示し、出土遺物の一部は「S66最下層」として取り上げたものがある。

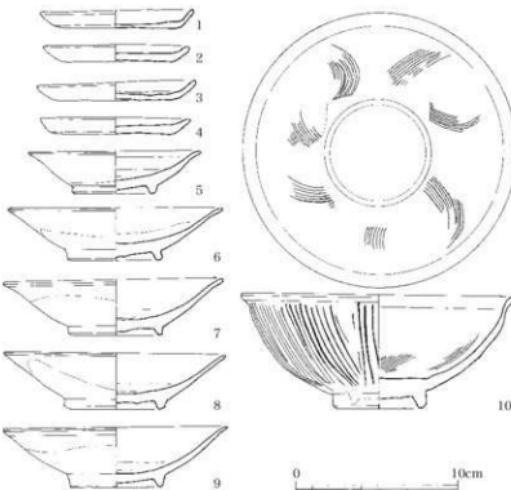
ST97出土土器・磁器（第26図、第12表） 1～4は土師器皿である。底部外面は糸切りの後、板圧痕が残る。5～9は白磁皿である。4はやや小形であるが、他の口径13.0cm、器高3.5cm前後とほぼ法量が揃っている。10は高台付の青磁碗である。

（6）その他の遺構出土土器・陶磁器

SD33出土土器（第27図1、第13表） 土師器皿である。

SP41出土土器（第27図2、第13表） 土師器皿である。

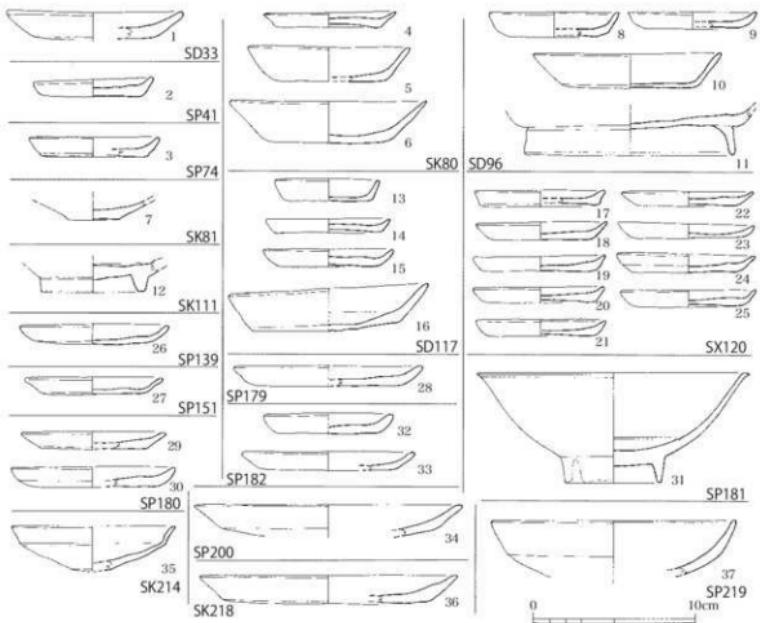
SP74出土土器（第27図3、第13表） 土師器皿である。



第26図 ST97出土土器・磁器実測図 (1/3)

第12表 ST97出土土器・磁器観察表

調査番号	国別番号	出土場所	断面	法量 (ml)	出土	焼成	色調	断面付近の特徴	残存率	参考	登録番号
26-1 23	ST97 No. 9	上層崩落	口徑9.5、底高1.5	断面糸切りなしむき	良好	白黄褐色	底面内面糸切り後、板圧痕を作り、	注目点	206		
26-2 23	ST97 No. 7	上層崩落	口徑9.6、底高1.0	赤褐色、露窓等繊細なやや多く剥げ	良好	褐色	底面内面糸切り工具によるナリ、底面外側は切り欠き、板圧痕を作り、	注目点	204		
26-3 23	ST97 No. 10	上層崩落	口徑9.6、底高1.2	赤褐色糸切り少しむき	良好	淡褐色	底面内面は糸切り後、板圧痕を作り、	注目点	207		
26-4 23	ST97 No. 8	上層崩落	口徑9.9、底高1.0	5.2～5.3mlの砂粒、露窓等、露窓を少しむき	良好	灰黄褐色	底面内面は工具によるナリ、底面外側は糸切りを残す。	注目点	205		
26-5 23	565底下層 No. 5	白磁盤	口徑10.4、底高1.5、高台径10.5	糸切り	良好	釉面褐色	内面底込み輪郭に板削ぎ、外蓋体下部一高台内側部。	注目点	131		
26-6 23	565底下層 No. 2	白磁盤	口徑10.4、底高1.5、高台径10.5	糸切り	良好	釉面褐色	内面底込み、外蓋体下部一高台内側部。	注目点	128		
26-7 23	565底下層 No. 1	白磁盤	口徑10.4、底高1.5、高台径10.5	糸切り	良好	釉面褐色	内面底込み輪郭に板削ぎ、外蓋体下部一高台内側部。	注目点	127		
26-8 23	565底下層 No. 6	白磁盤	口徑10.2、底高1.5、高台径11.0	糸切り	良好	釉面褐色	内面底込み輪郭に板削ぎ、外蓋体下部一高台内側部。	注目点	129		
26-9 23	565底下層 No. 4	白磁盤	口徑10.4、底高1.5、高台径10.5	糸切り	良好	釉面褐色	内面底込み輪郭に板削ぎ、外蓋体下部一高台内側部。	注目点	130		
26-10 23	565底下層 No. 3	青磁盤	口徑10.4、底高1.5、高台径10.5	糸切り	良好	釉面褐色	底台外一高台の内側部、底は黒褐色、第1本柱小瘤突文を内に施す。	注目点	129		



第27図 1区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図 (1/3)

SK80出土土器 (第27図4～6、第13表) 4は土師器皿、5・6は土師器杯である。

SK81出土土器 (第27図7、第13表) 白磁か青磁かの區別に悩む釉調の杯底部片である。

SD96出土土器 (第27図8～11、第13表) 8・9は土師器皿、10は土師器杯である。11は高く径の大きい高台をもつ土師器底部片で、高台付皿と考えられる。

SK111出土磁器 (第27図12、第13表) 白磁椀底部片である。

SP117出土土器 (第27図13～16、第13表) 13～15は土師器皿、16は土師器杯である。

SX120出土土器 (第27図17～25、第13表) SW14層の包含層であり、図示したものはいずれも土師器皿である。

SP139出土土器 (第27図26、第13表) 土師器皿である。

SP151出土土器 (第27図27、第13表) 土師器皿である。

SP179出土土器 (第27図28、第13表) 器形の大きい土師器皿で、底部外面糸切り痕を残す。

SP180出土土器 (第27図29・30、第13表) いずれも土師器皿で、30は底部外面に板圧痕を残す。

SP181出土磁器 (第27図31、第13表) 白磁椀であり、高台外面～体部外面～内面は施釉するが、疊付～高台内は露胎である。

SP182出土土器 (第27図32・33、第13表) いずれも土師器皿で、32底部外面には糸切り痕を残す。

SP200出土土器 (第27図34、第13表) 土師器杯である。

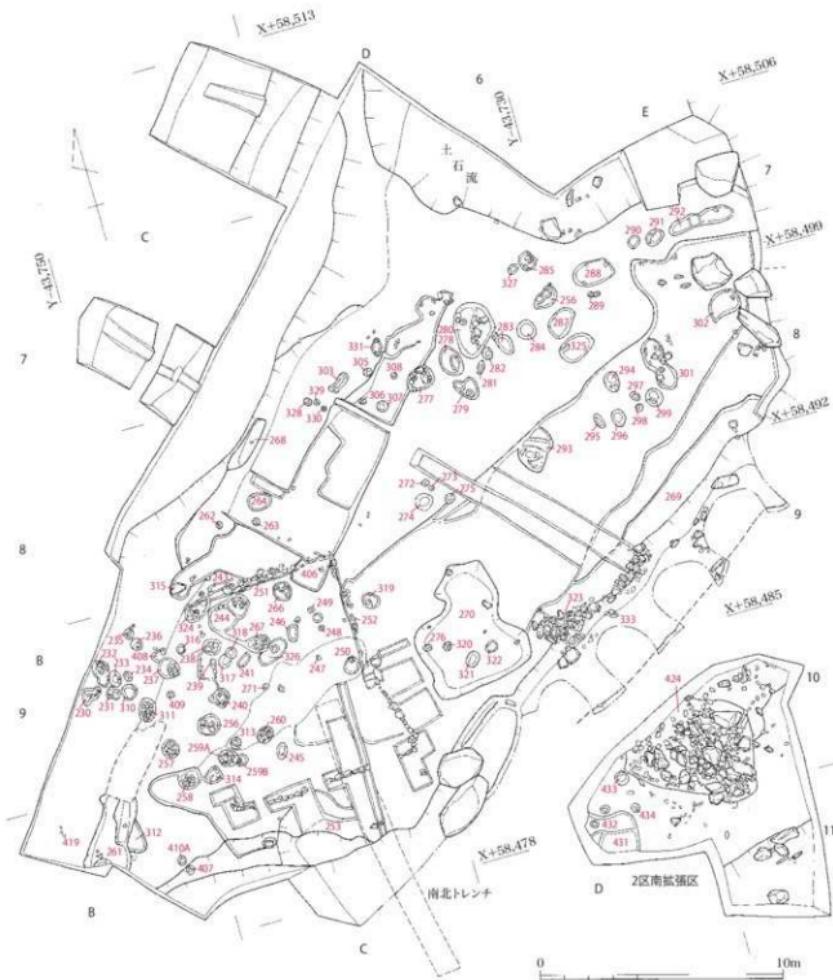
第13表 1区その他の構造出土土器・陶磁器観察表

調査番号	国宝 登録番号	出土 遺物番号	編號	法長 (cm)	出土	種成	色調	器形の役目と特徴	性比率	備考	登録番号
27-1	SP01	上部器皿	口径10、底高10	縫合だが、蓋厚少々重む	良好	白黃褐色	遺物外側にテラコットを残す。			90	
27-2	SP01	上部器皿	口径20、底高12	縫合部を少し含む	良好	灰黃褐色	底部内面には底面直前を残す。			91	
27-3	SP01	上部器皿	口径28、底高13	縫合部を少し含む	良好	灰黃褐色	内内の厚底が頗る。			161	
27-4	SP02	上部器皿	口径42、底高10	縫合部、蓋厚を少し含む	良好、内面 黒変換部あ り	灰黃褐色	内内の厚底が頗る。			192	
27-5	SP02	上部器皿	口径38、底高21	赤褐色系、蓋厚等縫合 部を少し含む	良好	褐褐色	内内の厚底が頗るが、底部外 面に底面直前を残す。			193	
27-6	SP02	上部器皿	口径18、底高28	縫合部、蓋厚を少し含 む	良好	褐褐色	内内の厚底が頗る。			194	
27-7	SP02	上部器皿	口径18、底高12	縫合	良好	白黃褐色	内内の厚底が頗るが、底部外 面に底面直前を残す。	1/2	物質的差異、表面の白 褐色が底部に偏る。	195	
27-8	SP06	上部器皿	口径18、底高10	縫合部を少し含む	良好	灰黃褐色	内内の厚底が頗る。			201	
27-9	SP06	上部器皿	口径18、底高10	縫合部を少し含む	良好	灰黃褐色	遺物外側に底面直前を残す。			202	
27-10	23	上部器皿	口径10、底高22	縫合部をやや多く含む	内面が黒度	灰黃褐色	内内の厚底が頗る。			199	
27-11	SP06	上部器皿 竹枝	高台12、高 底10、底高10	縫合部をやや多く含む	良好	灰黃褐色	底の大きさく長い方が特徴的。内面 黒度、底面内外ナゲ付。			202	
27-12	SP011	上部器皿	高台10、高 底9、底高9	縫合	良好	朱褐色(褐色) 輪状	見込み中央部等でその縫合部は輪状 に堆积する。高台の外側部。			220	
27-13	SP012	上部器皿	口径60、底高13	縫合部をひだりに含む	良好	白黃褐色	遺物外側を切り後、底直前。			221	
27-14	SP012	上部器皿	口径14、底高10	縫合部をひだりに含む やや厚い	白黃褐色一灰 褐色	内内外黒度				224	
27-15	SP012	上部器皿	口径18、底高11	赤褐色系、蓋厚をやや 多く含む	良好	明褐色	遺物外側を切り後、底直前。	1/3		228	
27-16	23	上部器皿	口径10、底高29	0.2~0.5mmの砂粒、赤 褐色系、蓋厚をやや多く含む	良好	灰黃褐色一灰 褐色	遺物外側を切り後、底直前。内面外 部黒度。			225	
27-17	SP029	上部器皿	口径78、底高11	縫合だが、縫合部を ひだりに含む	良好	内内外黒度		1/4		240	
27-18	SP029	上部器皿	口径78、底高10	縫合部をひだりに含む 少々厚い	白黃褐色	内内外黒度				237	
27-19	SP029	上部器皿	口径78、底高11	2~3mmの砂粒を少し 含む	良好	灰黃褐色	内内外黒度するが、底部外側部直前が 輪状。			238	
27-20	SP029	上部器皿	口径78、底高10	蓋厚、縫合部若干含む	良好	淡青黃褐色	内内外黒度。			239	
27-21	SP029	上部器皿	口径78、底高10	縫合	良好	灰黃褐色	内内外黒度。	1/3		240	
27-22	SP029	上部器皿	口径80、底高 0	1~2mmの砂粒を少 し含む	良好	灰黃褐色	内内外黒度するが、底部外側部直前が 輪状。	3/4		238	
27-23	SP029	上部器皿	口径80、底高10	縫合部、蓋厚を少し含 む	内面少し焦 黄褐色	内内外黒度するが、底部外側部直前が 輪状。				233	
27-24	SP029	上部器皿	口径82、底高12	縫合部、蓋厚を少し含 む	良好	灰黃褐色	底部外側部直前が輪状。			234	
27-25	SP029	上部器皿	口径82、底高10	1mmの砂粒を少し含 む	良好	灰黃褐色	内内外黒度。	1/2		239	
27-26	SP029	上部器皿	口径80、底高10	縫合部、赤褐色系、蓋 厚を少し含む	良好	灰褐色	遺物外側を切り後底直前が輪状。			236	
27-27	SP051	上部器皿	口径42、底高11	1~2mmの大砂、赤褐色 系、蓋厚多い	良好	白黃褐色	底部外側部直前を残す。			252	
27-28	SP059	上部器皿	口径112、底高12	縫合部、縫合部少し含む	良好	白黃褐色	底部外側にあり縫合を残す。	1/4		258	
27-29	SP060	上部器皿	口径60、底高10	縫合部、蓋厚を少し含 む	良好	白黃褐色	内面ナゲ、外面黒度が顯著。	1/4		259	
27-30	SP060	上部器皿	口径60、底高10	縫合部だが、蓋厚少々含 む	良好	白黃褐色	底部外側に底面直前を残す。	1/6		260	
27-31	SP061	上部器皿	口径10、底高10	縫合部、蓋厚少々含 む	良好	生青灰褐色、 釉灰黃褐色	蓋厚一内面内側は黒度、底は黒度、 高い場合が物質的。	1/2		261	
27-32	SP062	上部器皿	口径78、底高12	縫合だが、蓋厚や多 い。	良好	白黃褐色	底部外側にあり縫合を残す。			263	
27-33	SP062	上部器皿	口径104、底高11	縫合部がとんでも含 む	良好	油擦褐色	内内外黒度。			262	
27-34	SP060	上部器皿	口径100、底高19	縫合部の縫合部を少し 含む	良好	白黃褐色	内内外黒度。			320	
27-35	SP024	裏心臓部 26、底径24	口径96、底高 26、底径24	縫合部ほとんど含ま ず	良好	白灰褐色	内内外ナゲ付、小さな平底をな し、口縁部に絞ねて外混する。	1/3		369	
27-36	SP028	上部器皿	口径106、底高17	縫合部を少し含む	良好	白黃褐色	内内外黒度。	1/6		370	
27-37	SP029	上部器皿	口径116、底高33	縫合良好、縫合部ほとん ど含まざ	良好	灰褐色	内面一縫合部外側ナゲ、外葉下部厚 度。	1/6		371	

SK214 出土土器（第 27 図 35、第 13 表） 小さな平底で、口縁部が屈曲して外反する、須恵器杯で、類例の少ない器形である。

SK218 出土土器（第 27 図 36、第 13 表） 土師器杯としたが、皿との区別が難しい口径の大きい器形を呈す。

SP219 出土土器（第 27 図 37、第 13 表） 丸みをおびた体部の土師器杯である。



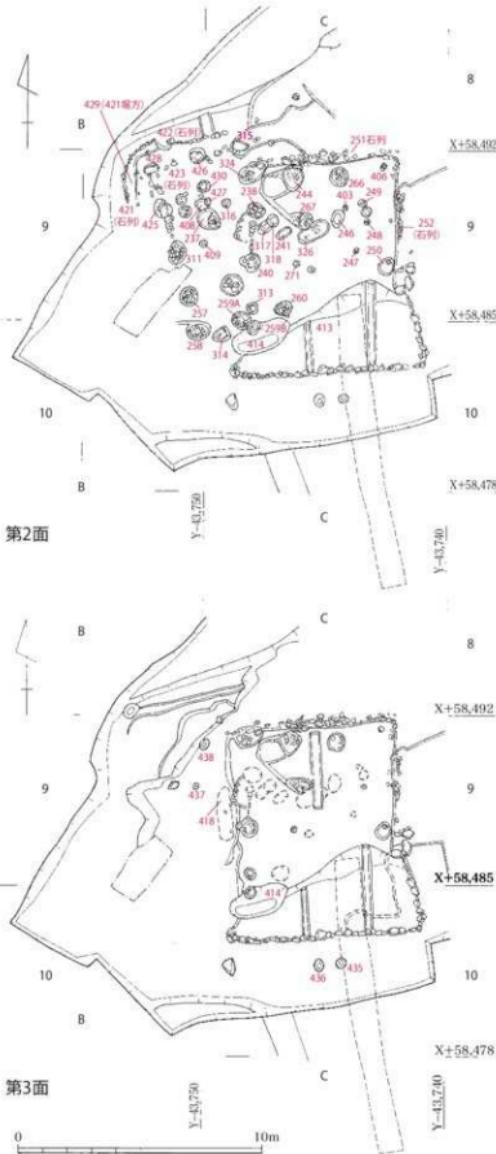
第 28 図 2 区第 1 面平面図 (1/200)

第3節 2区の調査

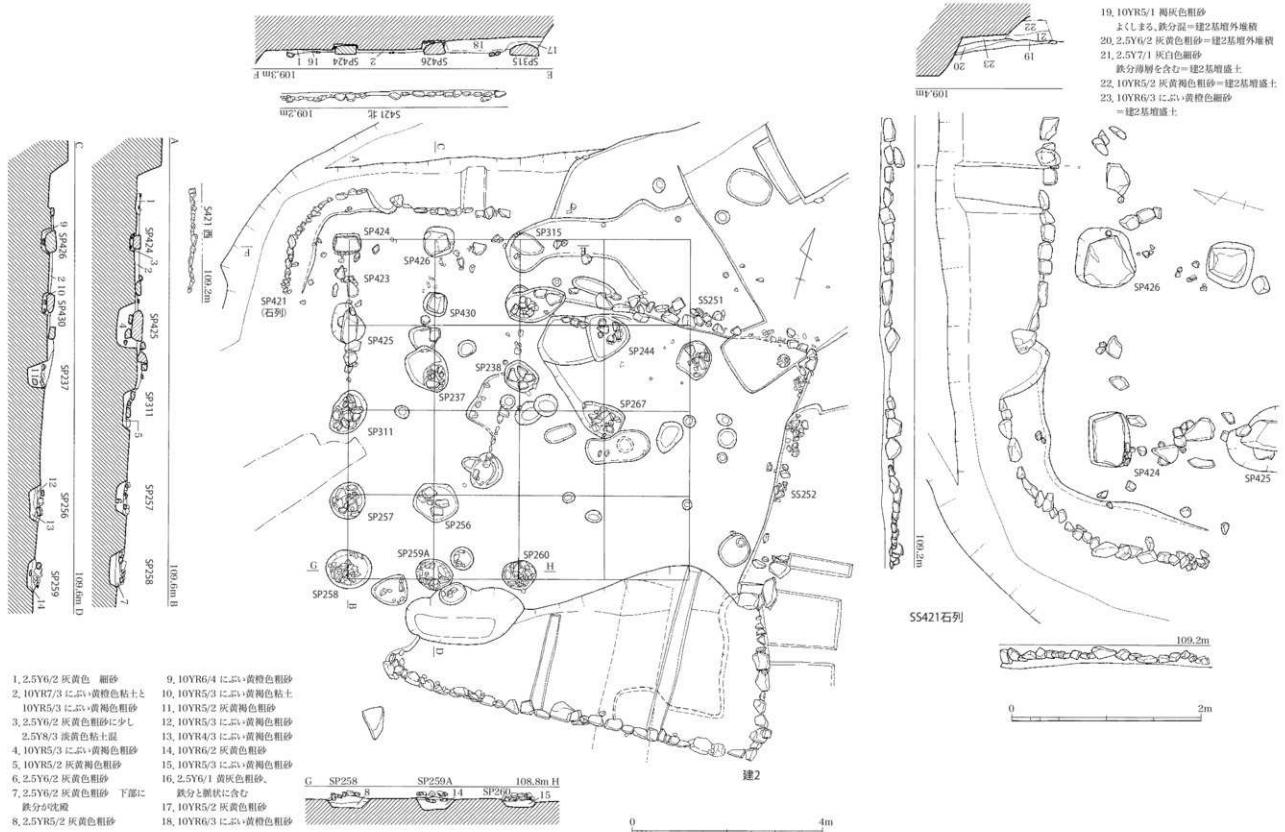
2区は原川西岸の畠地として利用されていた平坦面と板碑周辺を対象とした調査区である。遺構面までの深さ、内容を確認するための確認調査を実施していなかったため、1区調査完了後に重機を入れて表土・堆積層を除去し、遺構面を探しながら、調査範囲を広げ確定していくこととなった。遺構検出の結果、畠地として利用されていた平坦面の川側は土石流の堆積等によって遺構が分布しないと推測されたものの、ほぼ全域で遺構が検出された（図版11・12、第28図）。

第30図上段は2区の調査区西壁の土層を示したものである。表土及び耕作土＝1層、遺物をほとんど含まない堆積層＝2層、2.5Y5/1黄灰色粗砂を除去した、地表下1m弱で安定した土が検出され、遺構検出を進めた。その結果、調査区の西半分は寺院を構成する建物であったと推測される1・2号建物跡の礎石根石が集中的に検出された。また、調査区の東南部では中世の土師器・陶磁器を比較的多量に含む包含層、SX269の上面やピット等が検出されたので、そこを遺構面として調査することとした。

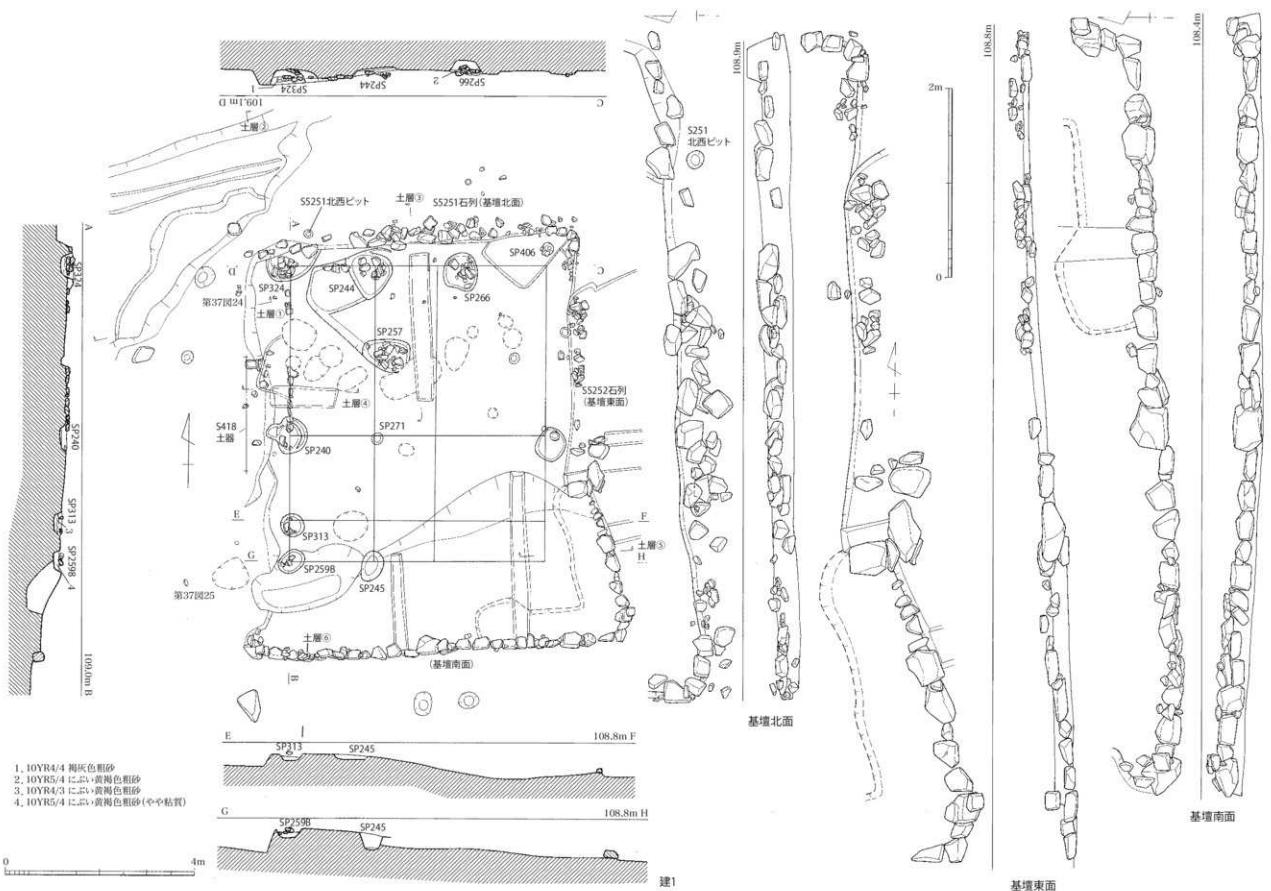
ただ、遺構検出と平行して、調査区西壁部分で遺構面下まで掘下げると、第30図西壁土層の下部、3～13層が人工的な盛土と判断された。そこで、調査区西部の建物跡は複数時期にわたり、整地も複数時期に及ぶものと考えられた。



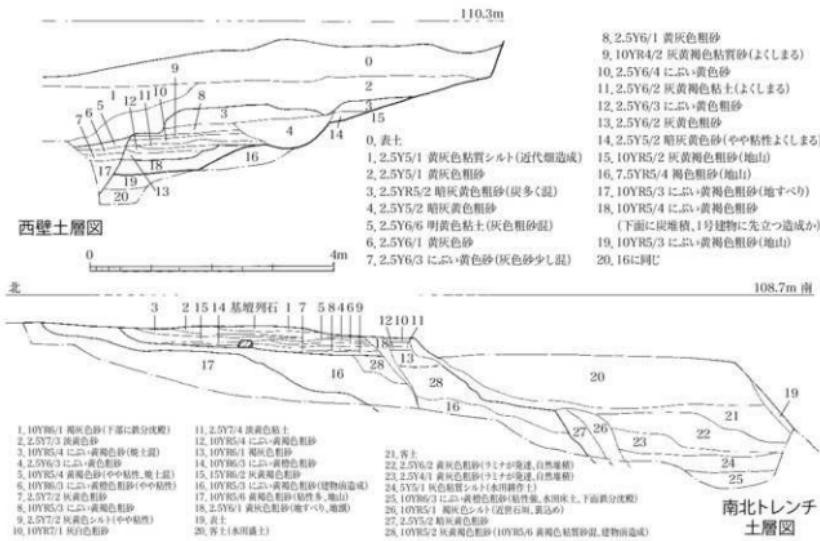
第29図 2区西部第2面・第3面平面図 (1/200)



第31図 2号建物跡・SS421石列実測図（建2は1／80、SS421は1／40）



第32図 1号建物跡及び基壇石列実測図 (建1は1/80、石列は1/40)



第30図 2区西部西壁・南北トレンチ土層実測図（1／80）

そのため、2区西部では、検出状態を第1面として記録し、掘下げながら、建物跡を面的に検出することとした。結果的に、上層の2号建物を第2面、下層の1号建物跡を第3面として調査することとなった（第29図）。

また、2区の中央やや西より、1・2号建物跡の下層を調べるために設定したのが、第30図下段に土層図を示した南北トレンチである。このうち1～13層は1・2号建物跡の基壇盛土及びその外部に堆積した堆積層、2号建物跡廃絶後の整地層である。この周辺は17層=10YR 5/6 黄褐色粗砂を基盤とし、17層と1～13層の間にある16・28層は1号建物建築に先立つ大規模な整地に伴うものと考えられた。

このトレンチ南端では近世以降の水田等の耕作層、整地層が検出され、1号建物建築に先立つ整地土まで除去されていると判断された。このトレンチ南端周辺は斜面地であるとともに、中世の遺構も遺存しないと判断されたので、一部工事にはかかるものの部分的な調査にとどめた。

なお、板碑の上部にも平坦面があるため、2個所にわたってやや広めのトレンチを設定し、確認調査を行った。調査の結果、遺構は検出されず、中世に遡る遺物も全く出土しなかつたため、部分的な調査にとどめることとした。

(1) 西部建物付近

建物跡

2号建物跡（図版14～16、第31図）

調査区の西部で確認された2棟の礎石建物跡の内、新しい時期のものである。調査の当初は建物

跡北西隅は2区の北西に位置する尾根線からの斜面の裾に位置し、自然地形と考えて検出していなかった。しかしながら、北西隅以外をほぼ完掘した後に、建物跡が広がる可能性に気が付き、当初自然地形と考えていた斜面裾を1m以上掘下げたところ、北西隅が検出された。そのため全体を撮影した良好な写真を残せなかつたことが後悔される。

2号建物跡の礎石・根石は北側では1号建物跡の礎石・根石を覆うように盛土し、その上層に位置しているが、大半が1号建物跡と同一面で検出された。第31図平面図は検出状況を示しているものであるが、2号建物跡を構成する礎石・礎石根石として確実なものにはSP424・SP425・SP311・SP257・SP258・SP426・SP256・SP259A・SP315がある。このうちSP424・SP425・SP311・SP257・SP258は一直線上に等間隔で並び、それぞれの間隔は1.80m、6尺となる。これらは軸線を座標北から16°西に向いている。また、SP424とSP425、SP425とSP311との間に直線上に石が残り、地覆石と考えられ、建物の西辺であったと考えられる。SP424とSP426との間、SP425とSP315の間にもやや乱れているが、石が検出されたので、地覆石の残存であろう。ただ、建物跡の東部は削平によって礎石はもちろん、根石も失われている。

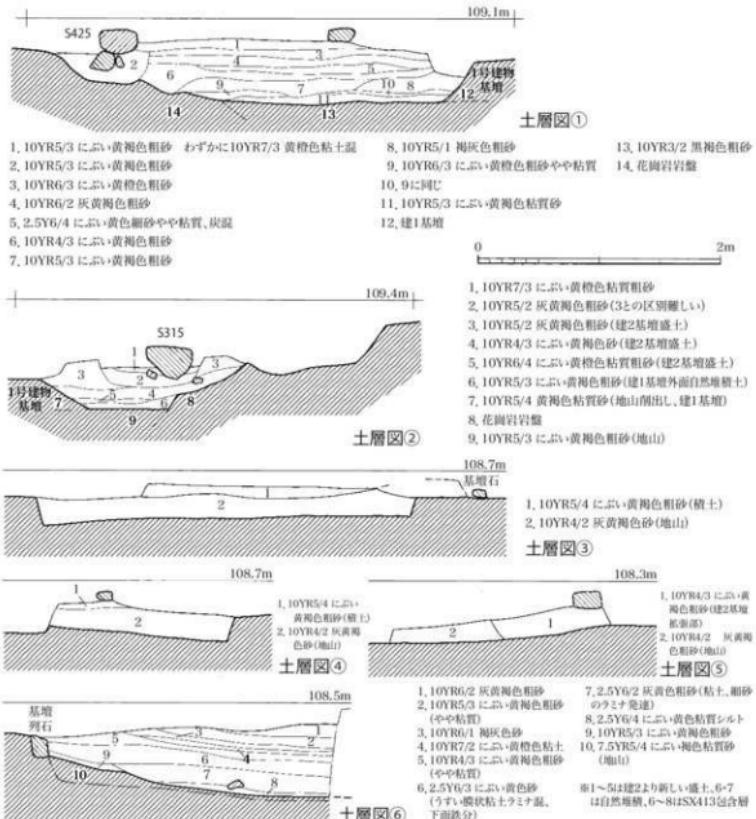
建物跡の北西部では外側に基壇外面を装飾した列石が検出され、SS421石列とした。列石は1段分を検出しているが、列石上面が礎石SP426、SP424、SP425の礎石上面より5cm程低いだけであり、本来からこの高さであったと考えられる。なお、列石は北側が壊っているのに対して、屈曲部へ西側は石が小振りで乱雑であるとともに、北辺よりも外側に並んでいたために改築が行われたと考えられる。

上述した礎石・礎石根石の周辺には略真北およびそれに直交する石列が検出されているが、大半は後述する1号建物跡の基壇外面の列石と考えられる。ただ、東の石列、SS252の石列南半は屈折していて、やや東に張り出す。その方向は2号建物跡西辺柱筋方向とほぼ一致している。したがって、2号建物跡基壇列石は、東辺南半では1号建物基壇を若干、拡張し、南辺ではそのまま再利用したものと考えられる。

この2号基壇列石南東隅、北東隅の範囲内に、6尺等間隔の柱間隔で建物跡を復元すると4×4間のほぼ正方形の建物が想定される。したがって、SP256・SP244・SP267も本建物跡の礎石根石となる。SP237、SP238は総柱とした場合の位置からずれているが、やはり本建物跡に伴うものであろう。

第33図に示した1号建物基壇周辺土層図のうち①、②は、2号建物建築に伴い1号建物跡基壇を覆って施工された整地盛土に相当すると解釈される。2号建物跡の北西隅では1号建物跡の基壇北側の石列SS251の上部に想定される柱筋が位置する。したがって、2号建物跡は南側の基壇は1号建物のものを再利用しながら、北半では1号建物跡基壇を覆うように盛土し、拡張して建築されたといえる。

また、第33図土層図⑥には1・2号建物によって共有された基壇南側列石の外の堆積を示した。これによると基壇築造後に自然堆積したやや厚い6・7層を覆うように、厚さ5cm前後の薄い1～5層がある。第30図に示した2区南北トレント土層図の1～6層もこれに相当する。これらは2号建物の廃絶後に、人工的に盛土した層と考えられる。第30図の2区西部西壁土層図の8～12層も人工的な耕土と考えられ、これが基壇南側まで連続していたのであろう。2号建物の廃絶後に、その基壇を埋め立てて上層に、建物を築造した可能性がある。ただ、そうであるとしても、礎石や柱穴は検出できなかつたので、耕作による削平等によって失われたと考えておきたい。



第33図 1号建物周辺土層剖面図 (1/40)

1号建物跡 (図版17・18、第32・33図)

2号建物の下層に位置する建物跡である。現況では基壇と礎石根石を残すが、削平のため、東半分は礎石及び礎石根石が失われている。現況で残る基壇はほとんどが地山を削り出しが、上面では薄く整地層と考えられる10YR5/4にふい黄褐色粗砂が残存していた。恐らく下半部は地山削り出しにより、略、礎石根石の上面より上は盛土で構築されていたと考えられる。

北・東・南側は基壇外面に石列を伴うが、基壇西側は石列がない。基壇西側は土が露出しているが、恐らく、2号建物の建築に伴う整地に際して、基壇石列が除去されたのではないかと考えられる。なお、基壇北側の石列をSS251、基壇南側の石列をSS252とした。

建物跡を構成する礎石根石は、SP324・SP240・SP313・SP259B・SP244・SP266があり、

SP324 と SP244 の間、SP324 と SP240 の間にはほぼ直線的に石列 SS423 がある。これらの石列は柱間に設置された地覆石と考えられ、建物は SP324 を角としたことが明らかである。SP324 - SP244、SP244 - SP266、SP240 - SP313 間はほぼ 1.80m でそろい、SP313 と SP259B 間は 0.90m とその 1/2 となり、建物は 6 尺等間を基準にしたものと推測される。建物の北辺柱列礎石根石は 3 個所しか残っていないが、SP266 の東に 1.80m 伸びると、基壇の北東隅のすぐ内側に合致する。そのため、建物はほぼ正南北に軸を向けた 3×3 間の身舎に、半間の軒ないしは縁が南にとりつく柱配置と考えられる。すると、SP271 及び SP245 は 1 号建物を構成する礎石根石下の掘り込みの可能性があり、2 号建物の礎石根石である SP257 の掘り方の西側の広がりは、1 号建物の礎石根石の抜き取り痕と推測される。

基壇外表面石列は北側、東側の北半では小振りの塊石が乱雜に検出されている。2 号建物の整地やその後の削平等による石の移動の影響を受けた可能性は皆無ではないが、石の形も揃っていないので、もともと基壇南側の石列に比べ、粗雑な積み方であったと考えておきたい。一方、前述のように、基壇の南東部は 2 号建物の建築に先立つ整地時に拡張されたと考えられるが、基壇南側の石列は、比較的長方形の整った石を用いている。基壇南側石列の上面標高は 108.0 ~ 108.2m 程であり、北側石列の上面標高 108.5 ~ 108.7m と比べ、0.5m 程低くなる。基壇上面が水平であったとすれば、南側は北側、東側よりも基壇高が大きかったと推測される。1 号建物跡北側礎石根石列の上面標高は 108.6 ~ 108.7m であり、その上に据えた礎石の高さが 0.2m 程とすると、少なくとも 1 号建物建築時の基壇上面標高は 108.9m 前後となり、南側は高さ 1m 程の石垣であったことになる。したがって、南側石列は、高く石垣を積むために丁寧に施工されたと考えておきたい。

建物の東北隅、基壇石列内側、柱列外側に小規模なビット SP406、建物の西北、SS252 石列外側に SS251 北西ビットが位置する。後述するように、それぞれ筒形土器、黄褐釉陶器が埋置された状態で検出された。2 号建物の築造時には本ビットは整地層の下となる位置にあり、いずれも 1 号建物及び基壇の北側コーナーを意識したものであろう。

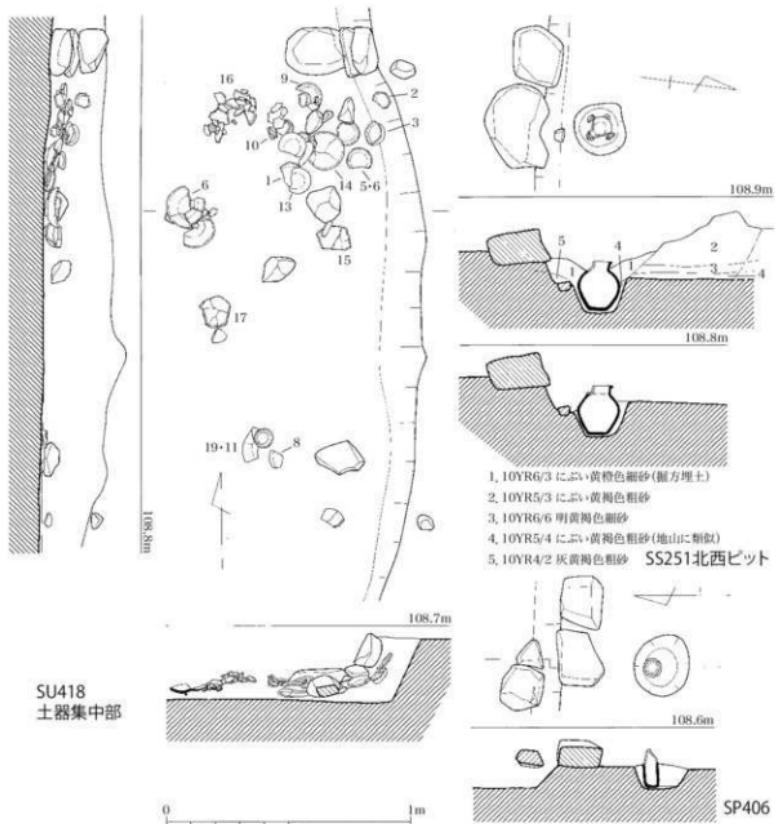
ビット

SS251 西端ビット（図版 19、第 34 図）

1 号建物跡基壇の北西隅外、基壇に接するような場所で検出したビットで、ほぼ完形の黄褐釉陶器壺を埋置していた。土層図に示したように、基壇北側の堆積層（2 ~ 4 層）から、壺の大きさとほぼ等しいビットを掘り込んで埋置している。ただ、1 号建物の北西隅を強く意識した位置にあり、上面を 2 号建物建築に先立つ整地層が覆っていた可能性が高いため、1 号建物に伴うものと考えられる。なお、壺内の胴部 1/3 程の高さまでは炭化物が堆積していて、壺内の埋土を精査したが、特に出土遺物はなかった。

SS251 西端ビット出土陶器（第 35 図 1、第 14 表） 口縁端部をわずかに欠損するがほぼ完形の壺である。褐釉陶器の四耳壺につながる器形と考えられるが、黄緑色に発色した釉を施すため黄褐釉とした。口縁部は短く、端部を急激に外反させて仕上げる。胴部は最大形がやや下部にあるどっしりした器形で、肩部に粘土紐を貼付した四耳がある。胴下部外面はケズリを残し、底部外面の調整は雑で、板圧痕を残す。外面胴下半部、底部外面は露胎であり、全体に釉薬は薄い。口径 96mm、頸径 78mm、胴部最大径 165mm、底径 82mm、器高 164mm、胴高 137mm を測る。

11 世紀代に中国でも南方で生産されたものと考えられる。



第34図 SU418・SP406・SS251 北西ピット実測図 (1/20)

SP406 (国版19、第34図) 1号建物跡、2号建物跡基壇の北東隅の内側に位置し、筒形土師器が出土した。位置から考えて、1号建物の建築に先立つ、地鎮のような目的があった可能性が高いものと思われる。ただ、内部の埋土からの出土品はない。ピットは直径20cm余りで筒形土師器よりはやや大きめであり、ピットの床に接するように、土師器は正置されていた。埋土は10YR 4/2灰黄褐色粗砂。

SP406出土土器 (第35図2、第14表) 口縁端部は一部しか遺存しないが、体部～底部はほぼ完存する筒形土器である。底部は大きく安定した平底で、口縁部に向ってすぼまる。胴部外面は縱ハケが遺存し、胴部内面に粘土紐巻き上げ痕を明瞭に残す。中世土師器としては類例が少ない器形である。

ただ、大きさは異なるものの、太宰府近辺出土の経筒の外容器中に、粘土紐を巻き上げた筒形土

器がある。出土状況の特異性から考えて、これらの経筒外容器の製作技法を取り入れたものと考えられる。口径 48mm、底径 76mm、器高 152mm を測る。

遺物集中部

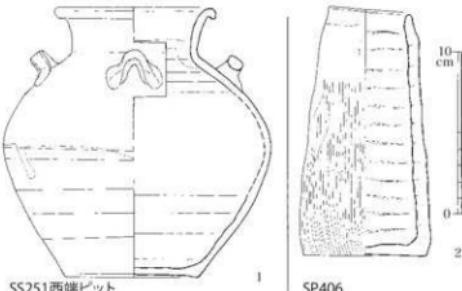
SU418 遺物集中部（図版 19、第 34 図）

1 号建物基壇の西側包含層を SX413 として遺物を取り上げたが、特に土器の集中する個所があつたので、別個に SU418 として遺構番号を付し、出土状況を記録した。出土状況を見ると、1 号建物跡基壇の西側に接し、基壇内側から流れ込むような状態で出土しており、さらにその上部は 2 号建物跡の整地層に覆われる。したがって、2 号建物の築造のための整地の直前の時期、すなわち 1 号建物の廃絶に限りなく近い時期に推測され、良好な一括性をもつものと考えられる。

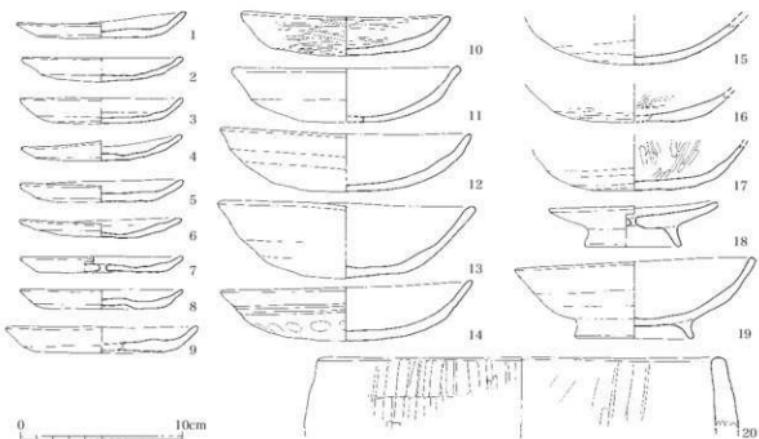
SU418 出土土器・石鍋（第 36 図、第 15 表） 1～9 は土師器皿である。外面に板圧痕を残すものが多く、糸切り痕を残すものは含まれない。10～17 是土師器杯である。10・16 は一応、土師器に含めているが、内外面黒色で、ミガキ仕上げであるため、黒色土器とするべきかも知れない。14 は外面の強いナデによる沈線、指頭圧痕が特徴的である。18 は高台付皿、19 は高台付杯で、いずれもやや高くしっかりと高台を貼付している。

20 は滑石製石鍋口縁部分。

これらの遺物は 11 世紀後半に位置づけられよう。



第 35 図 SS251 西端ビット・SP406 出土土器・陶器
実測図 (1/3)



第 36 図 SU418 出土器・石鍋実測図 (1/3)

建物基壇周辺の包含層出土土器

SS251 前面包含層出土土器（第37図1～4、第16表） 1号建物跡の基壇北側石列の前面（北側）の遺物包含層からの出土品である。2号建物築造時にはこの包含層を覆うように、盛土・整地されており、2号建物跡築造以前のものが多いと考えられる。1～4は土師器皿である。1は小形であるが、他は口径10cm近い比較的大形品であり、5の土師器碗も高台が高い。

SS252 前面包含層出土土器（第37図6～11、第16表） 1号建物跡・2号建物跡の基壇東側石列の前面（東側）の遺物包含層出土品。2号建物の築造時に、1号建物跡の基壇列石を改造したと考えられるので、2号建物築造後に堆積した包含層と考えられる。6は土師器皿。7・8は土師器杯で口径は小さく、器高の高い点が特徴的である。9は高台が低く、高台径の小さい土師器碗、10は高台径、高台高が大きい土師器碗底部片。11は褐釉陶器の底部近くの破片である。

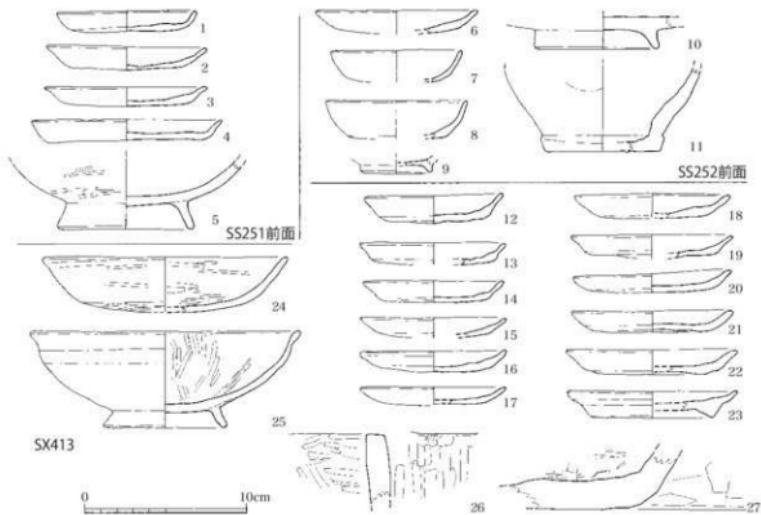
SX413 出土土器・石鍋（第37図12～27、第16表） 1号建物跡基壇の西側に堆積した包含層中

第14表 SS251 西端ピット・SP406 出土土器・陶器観察表

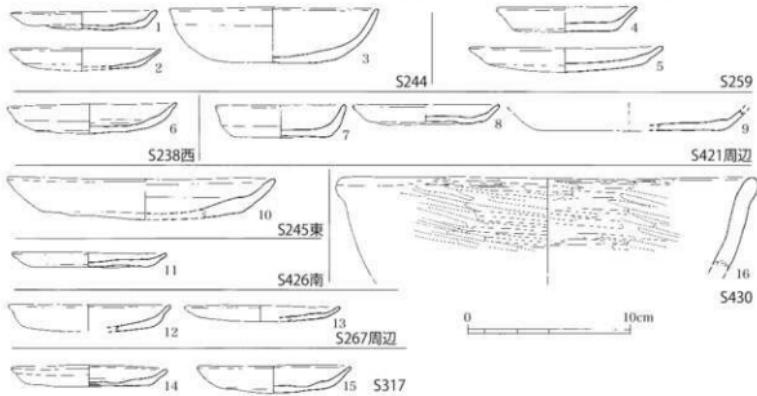
測量番号	測量番号	出土位置	面積	法量 [ml]	鉢上	底成	色調	断面や技術の特徴	残存率	備考	登録番号
36-1 23	SS251西端 ピット	黄褐色陶 器皿	口径40、深さ 18cm、底径16cm、 高さ30.4mm、傾斜13°	細砂を含む多く含む 良好	生灰陶黄色、 釉質無褐色	断面は上部厚手の青苔があり、下部 は細砂を含む。底面外側 の調整は薄く、板江底。	144				
36-2 23	SP406	上斜面 斜上部	口径45、底径 26、高さ35.2cm	細良	灰黃褐色	断面外壁厚ハック、断面内壁ナガで船 底形を有する。底面は土を含む。底面は 削した平底で、内壁部にひびきで土 が残る。	171				

第15表 SU418 出土土器・石鍋観察表

測量番号	測量番号	出土位置	面積	法量 [ml]	鉢上	底成	色調	断面や技術の特徴	残存率	備考	登録番号
36-1 30	SU418 No. 4	上斜面	口径100、底高18cm	細砂若干含む 良好	灰黃褐色	底部外壁直立。	161				
36-2	SU418 No. 12	上斜面	口径40、底高14cm	細砂を若干含む 良好	白黄色	壁底断面。	1/8	161			
36-3	SU418 No. 11	上斜面	口径30、底高15cm	白色、葉面少含む 良好	灰黃色	底部外壁直立。	162				
36-4	SU418	上斜面	口径30、底高16cm	細砂若干含む 良好	灰黃色	底部外壁直立。	163				
36-5	SU418 No. 9	上斜面	口径30、底高14cm	白色、赤色若干含 良好	灰黃色	底部外壁上端立ち上げ直、板江底 残る。	163				
36-6	SU418 No. 9	上斜面	口径30、底高13cm	白色、赤色若干含 良好	灰黃色	底部外壁へり切り直、板江底残る。	164				
36-7	SU418	上斜面	口径30、底高10cm	細良	灰黃色	直筒口先に穿孔の可能性あり。底部 外壁直立。	165				
36-8	SU418 No. 18	上斜面	口径30、底高12cm	葉面、細砂若干含む 良好	白灰褐色＝黒 褐色。内底墨 色。	底部外壁直立する。	1/4	166			
36-9	SU418 No. 14	上斜面	口径14、底高15cm	赤褐色、葉面等若干 良好	白灰褐色	底部内壁へり切り残る	1/2	169			
36-10	SU418 No. 2	上斜面 (馬糞上 置?) 斜 面	口径120、底高20cm	細良	黑色	内底にガタ付仕上。外底面直立帶 き上部を残す。	169				
36-11	SU418 No. 17	上斜面	口径100、底高35cm	細砂を多く含む 良好	白黄色	内外部断面直立。	1/2	164			
36-12	SU418 No. 6	上斜面	口径10、底高20cm	葉面、赤色、葉面 等細砂多く含む 良好	白黄色	内底断面直立。	166				
36-13	SU418 No. 5	上斜面	口径15.4、底高16cm	葉面、赤色、葉面 等細砂少し含む 良好	赤 褐色	内外部断面直立。	166				
36-14	SU418 No. 8	上斜面	口径15.2、底高20cm	細砂を多く含む 良好	灰褐色＝一様 褐色。	内底直立。外底の強いナガによ る沈没。削除直前が特徴的。	165				
36-15	SU418 No. 20	上斜面	径高20cm	細砂若干含む 良好	白灰褐色	内外部断面直立。	700				
36-16	SU418 No. 1	上斜面 (馬糞上 置?) 斜 面	径高18cm	細良であるが、葉面少 し含む	灰褐色	内底ミガタ。外底ナガ	166				
36-17	SU418 No. 15	上斜面	径高28cm	細砂若干含む 良好	白灰褐色。一 部内底墨色	内底ミガタ。外底ナガ	165				
36-18	SU418	上斜面 斜面	口径100、底高 28、高台径30、 高台高11cm	赤褐色、葉面等細砂 を含む	赤褐色	底部中央削除。外底面直立。	166				
36-19	SU418 No. 17	上斜面	口径14、底高 12cm	葉面有り、白色と赤褐色 を含む	灰黃褐色＝一様 褐色。	内底へり縁直立。葉面付近ナ グ。高台やや長い。	167				
36-20	SU418	青石製石 盤上斜面	口径20、底高14cm			内外部ケリ直立。	160				



第37図 1号・2号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋実測図（1／3）



第38図 1号・2号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器実測図（1／3）

の出土遺物である。包含層は2号建物築造時の整地層に覆われるため、1号建物の築造～廃絶までのものが主体となり、上述したSU418出土遺物もこの一部と言える。12～23は土師器小皿で、23は上げ底気味の底部が特徴的である。24は土師器杯、25は土師器高台付椀で、内外のミガキ仕上げが特徴的である。26・27は滑石製石鍋小片である。

1・2号建物礎石・礎石根石およびその周辺出土土器

ここでは1・2号建物跡礎石・礎石根石掘方及びその周辺の遺構面から出土した土器を報告する

ことにしたい。

SP244 出土土器（第38図1～3、第17表） 1・2は土師器皿である。3は土師器杯で外面に黒斑を残す。

SP259 出土土器（第38図4・5、第17表） いずれも西側の遺構面から出土した土師器皿で、4は底部外面に糸切り痕を残す。

SP238 出土土器（第38図6、第17表） 土師器皿で、底部外面には板圧痕を残す。

SS421 出土土器（第38図7～9、第17表） 周辺の包含層から出土したものである。7・8は土師器皿で、8は底部外面に糸切り痕を残す。9は土師器杯。

SP245 出土土器（第38図10、第17表） 東側の遺構面から出土した土師器杯である。

SP426 出土土器（第38図11、第17表） 南の遺構面から出土した土師器皿であり、底部外面に糸切り痕を残す。

第16表 1号・2号建物跡基壇周辺包含層出土土器・石鍋観察表

網目番号	国際番号	出土遺構	組織	直徑 (mm)	断土	焼成	色調	部形や底の特徴	現存率	参考	DBH番号
37-1	23	SS221Ⅰ組織 包含層	上部遺構	口径64、高さ13	砂粒ほとんど含まず	良好	白黄褐色	底部外壁压痕。			62
37-2		SS221Ⅱ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ13	砂粒と少量含む	良好	白灰黄色	底部へタマギ。			64
37-3		SS221Ⅲ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ13	1mm砂粒少々含む	良好	白黄褐色	底部外壁壓痕。	1/2		65
37-4	23	SS221Ⅳ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ13	砂粒ほとんど含まず	良好	褐褐色	底部外壁压痕有り。	口径2/3、底 部外壁。		66
37-5		SS221Ⅴ組織 包含層	上部遺構	底径94、高さ16	砂粒、赤褐色やわずか に含む	良好	白灰色(一部褐) 赤褐色のみ薄け、高さ高い、底部外壁 に含む。		3/4		67
37-6		SS222Ⅰ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ14		良好	灰黃褐色	底部外壁壓痕。	1/3		67
37-7		SS222Ⅱ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ19		良好	外側灰褐色一 白色。内側灰 褐色。	底部外壁壓痕。	1/3		67
37-8		SS222Ⅲ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ33	底部少々含む	良好	外側灰褐色、内 側灰褐色。	底部外壁壓痕。	1/3		68
37-9		SS222Ⅳ組織 包含層	上部遺構	底径50、高さ10		良好	白黄褐色	底部低い。	3/4		68
37-10		SS222Ⅴ組織 包含層	上部遺構	口径66、高さ 29		良好	白黄褐色	底部や高さ。			69
37-11		SS222Ⅵ組織 包含層	上部遺構	底径50、高さ32	砂粒少々含む	良好	褐褐色	底部外壁削り、内 面下部は黒。	1/8		69
37-12	53413組織下 層	上部遺構	口径4、高さ19	底部少々含む	良好			底部外壁削り有。			670
37-13	53413組織下 層	上部遺構	口径66、高さ13	砂粒少々含む	良好	白黄褐色	底部外壁削り。	1/4		670	
37-14	23	53413上 部	上部遺構	口径66、高さ13	砂粒少々含む	良好	白黄褐色	底部外壁削り有。	1/4		671
37-15	53413	上部遺構	口径66、高さ12			良好		底部外壁削り有。	1/2		670
37-16	53413	上部遺構	口径66、高さ13			良好	白黄褐色	底部外壁削り有。	1/2		670
37-17	53413	上部遺構	口径66、高さ11			良好	白黄褐色	底部外壁削り有。	1/4		670
37-18	53413	上部遺構	口径66、高さ14	砂粒少々含む	良好	白黄褐色	底部外壁削り有。全体的に削れ見 ゆ。				670
37-19	53413	上部遺構	口径66、高さ16	砂粒少々含む	良好	白黄褐色	底部外壁削り有。				670
37-20	53413	上部遺構	口径66、高さ16	砂粒、先端の砂粒少 量含む	良好	灰褐色	底部外壁削り有。	2/3	底部に削れ見 ゆ。		670
37-21	53413組織下 層-1, 2	上部遺構	口径66、高さ13	砂粒、先端に砂粒少 量含む	良好	灰褐色	底部外壁削り有。				670
37-22	53413	上部遺構	口径104、高さ60	砂粒ほとんど含まず	良好	白黄褐色	底部外壁削り有。				670
37-23	53413	上部遺構	口径104、高さ60	砂粒、赤褐色少々含 む有	良好	白黄褐色	底部外壁ナジ。	1/4			670
37-24	53413	上部遺構	口径148、高さ30	砂粒少々含む	良好	白黄褐色。内 側灰褐色一様 黒褐色。	内側へガリ				670
37-25	53413	上部遺構	口径161、高さ 72、底径108、高 さ161	砂粒少々含む	良好	白黄褐色	内側へガリ。外 壁削り有。				670
37-26	53413	漆石塗石 鏡口鏡片	高さ10、厚さ11				内側墨ケツミ痕				671
37-27	53413	漆石塗石 鏡口鏡片	高さ10、厚さ18				内側墨ケツミ痕				672

SP267 出土土器（第 38 図 12・13、第 17 表）周辺の遺構面から出土した土師器皿で、13 は底部外面に系切り痕を残す。

SP317 出土土器（第 38 図 14・15、第 17 表）いずれも土師器皿で、15 は北西側の遺構面から出土したものである。いずれも底部外面に板状痕を残す。

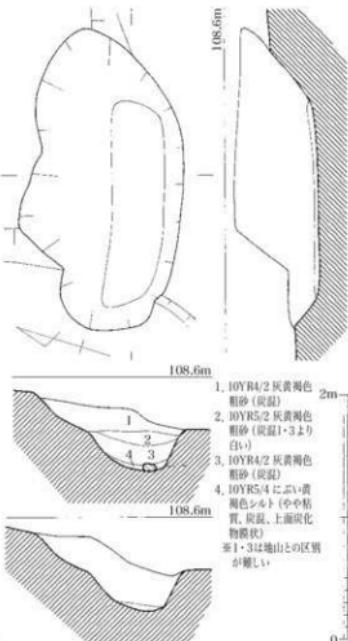
SP430 出土土器（第 38 図 16、第 17 表）土師器鉢としたが、灰黒色を呈し、内外粗いミガキ仕上げで瓦器にやや近いと言える。

これらの土器のうち、SS421 周辺、SP426・SP430 は、2 号建物関連遺構の中でも、確実に 1 号建物の上層に位置するものである。したがって、これらは 2 号建物築造後の土器として扱うことができよう。

土坑

SK414（第 39 図）

1 号建物跡基壇の南西部で検出された土坑である。ほぼ東西に主軸を向けた長さ 2.5m、幅 1.1m の平面椭円形を呈し、北側の深いところでは深さ 0.7m 程で



第 39 図 SK414 実測図 (1/40)

第 17 表 1 号・2 号建物跡礎石・礎石根石周辺出土土器観察表

網目 番号	測定 番号	出土 場所等	遺構	法量 (mm)	鉢土	模様	色調	断面や柱孔の特徴	発見半 年	参考	登録 番号
38-1	SP244	上階遺構	口径8、高さ12	鉢底かららぎ、赤褐色 模様を含む	良好	白黄褐色	内外部無縫合。	1/2		660	
38-2	SP244	上階遺構	口径8、高さ13	1~4mm砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	内外部無縫合。	3/4		658	
38-3	SP244	上階遺構	口径12、高さ20	砂粒を少し含む	良好	灰褐色	内外部無縫合。	1/2		659	
38-4	SP241[壁 裏面]	上階遺構	口径8、高さ12	砂粒を少し含む	良好	内表面灰褐色 外表面灰色	底部外表面に白色毛	1/8		662	
38-5	SP241[壁 裏面]	上階遺構	口径16、高さ10	鉢底かららぎに露 む	良好	褐色	底部外表面に板状痕を残す	1/3		663	
38-6	SP241[壁 裏面]	上階遺構	口径19、高さ11	砂粒を少し含む	良好	灰褐色	底部外表面に板状痕を残す。	定期	又無なし	664	
38-7	SP241[壁 裏面]	上階遺構	口径78、高さ20	砂粒、露目、赤褐色 模様を少し含む	良好	灰褐色	内外部無縫合。	1/4		702	
38-8	SP241[壁 裏面]	上階遺構	口径80、高さ13	砂粒、わざわざ赤褐色 模様を含む	良好	褐色	底部外表面に白色毛	1/4		703	
38-9	SP241[壁 裏面]	上階遺構	底径14、高さ13	砂粒、わざわざ赤褐色 模様を含む	良好	褐褐色	底部外表面に板状痕を残す。	1/2		704	
38-10	SP252[壁 裏面]	上階遺構	口径160、高さ25	砂粒、露目、赤褐色 模様を少し含む	良好	褐色	内表面無縫合。	1/4		705	
38-11	SP252[壁 裏面]A-1	上階遺構	口径80、高さ9	砂粒、露目を少し含 む	良好	褐褐色	底部外表面に白色毛	1/8		706	
38-12	SP252[壁 裏面]	上階遺構	口径80、高さ16	鉢底	良好	灰褐色	底部外表面に板状痕を残す。	1/4		707	
38-13	SP252[壁 裏面]	上階遺構	口径84、高さ9	鉢底	良好	灰褐色	底部外表面に白色毛	1/3		708	
38-14	SP252[壁 裏面]	上階遺構	口径80、高さ10	1~2mm砂粒を少し 含む	良好	灰褐色	底部外表面に板状痕を残す。	3/4		709	
38-15	SP251	上階遺構	口径82、高さ17	1mm大砂粒をやや多く 含む	良好	灰褐色	底部外表面に板状痕を残す。	1/3		710	
38-16	SP252[北西 面壁面]	上階部?	口径282、高さ38	砂粒、露目を少し含 む	良好	灰黑色	内表面に白色毛	1/10		709	

ある。上面に1・2号建物跡の礎石根石であるSP259A・Bが位置し、それに先行することは確実である。1号建物跡の基壇南西部との関係は不明であったが、礎石根石に先行することから、本土坑は基壇構築にも先行するものと考えておきたい。

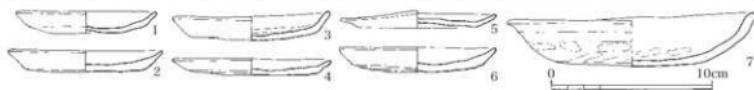
SK414出土土器（第40図、第18表） 1～6は土師器皿である。口径94～104mmを測り、底部外面に糸切り痕を残すものは含まれない。7はやや丸底に近い底部の土師器杯で、胴下部内外の指頭圧痕が特徴的である。

(2) 東部第1面

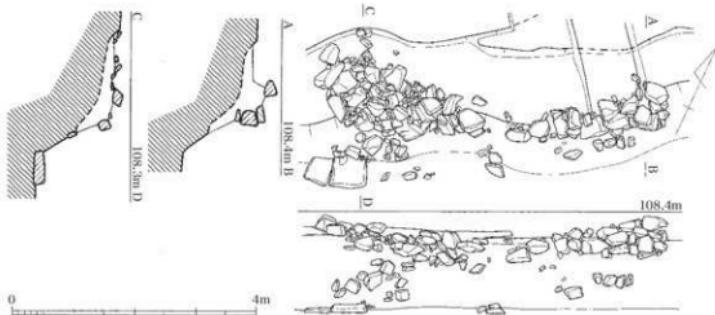
石垣

SW323（図版20、第41図）

2区平坦面の南東部にあり、掘方は包含層SX269を掘り込んでいる。遺存状況が悪く、北東～南西の4m程が残存するに過ぎない。石垣裾にある幅1m余りの細長い平坦面からの比高差が1mであったと推測されるが、南西部では石垣上部の裏込めを残すのみである。北東は遺存状況が良好であり、上部に高さ0.5m弱、本来の面を残す。掘方は幅1m程と狭く、裏込めの石も貧弱で



第40図 SK414出土土器実測図（1／3）



第41図 SW323実測図（1／80）

第18表 SK414出土土器観察表

時間 番号	固形 番号	出土 遺構等	面積	深度 [m]	地土	色調	器形や性質の特徴	発見率	参考	登録 番号
80-1	SK414	上部礎石	口径19.1、高さ1.0	良好	白黄色、一部黒褐色	内側や柱頭部。	1/4		676	
80-2	SK414	上部礎石	口径11.2、高さ1.0	良好だが、赤褐色が少しある	黄褐色	道端外側面江肩を残す。	1/2		676	
80-3	SK414	上部礎石	口径9.8、高さ1.7	礎石板を少し含む	良好	灰黃褐色	道端外側面江肩を残す。	2/3		677
80-4	SK414	上部礎石	口径9.4、高さ1.0	礎石板。	赤褐色板を少し含む	内側白化。	道端外側面江肩を残す。	1/2		677
80-5	SK414	上部礎石	口径9.4、高さ1.0	良好	灰黃褐色	道端外側面江肩を残す。	2/3		679	
80-6	SK414	上部礎石	口径9.4、高さ1.0	良好だが、葉緑、赤褐色板を含む	良好	洪黃褐色	道端外側面江肩を残す。	1/2		678
80-7	SK414	上部礎石	口径14.8、高さ0.3	礎石板。赤褐色板を少し含む	良好	洪黃褐色	内側ナギサリアで、床下面内外12枚 江肩を残す。	2/3残		674

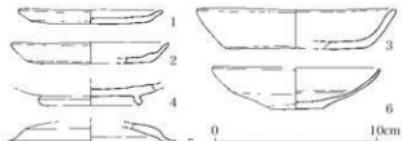
ある。裏込めの状況からは、1区の石垣よりは新しいのではないかという印象であったが、時期に関する確証はない。

SW323 出土土器・磁器実測図（第42図、第19表） いずれも裏込めから出土したもので、隣接するSX269 包含層を掘り込んでいるため、そこに本来、帰属するものも多いと推測される。1・2は土師器皿、3は土師器杯、4は土師器椀である。5は8世紀代の土師器蓋と推測される。6は青磁皿である。

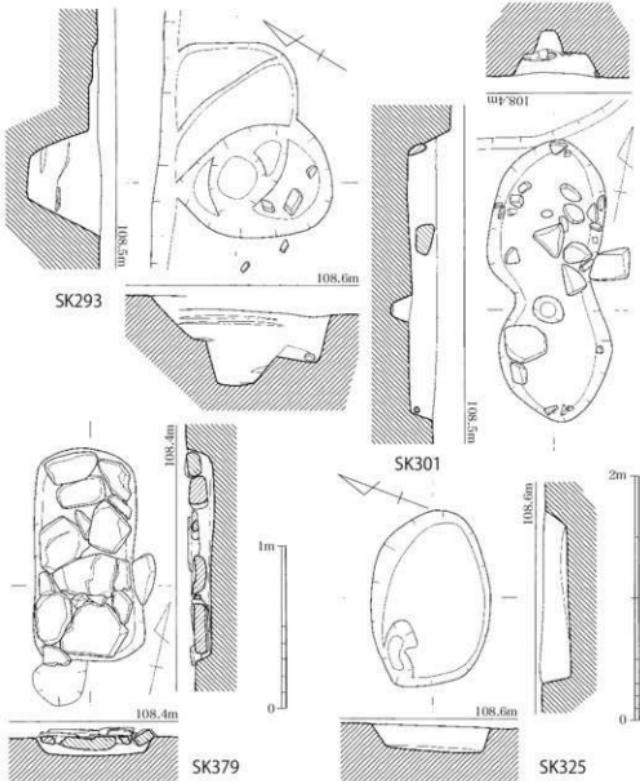
土坑

SK293（第43図）

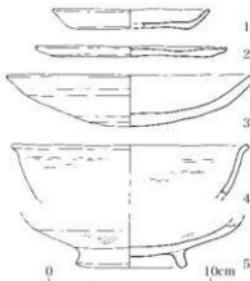
2区平坦面の東部、包含層 SX269 の下部で検出された土坑である。上面が不明瞭であったために北東側に広がっているが、本来



第42図 SW323 出土土器・磁器実測図（1／3）



第43図 SK293・SK301・SK325・SK379 実測図（SK379は1／30、他は1／40）



第44図 SK301出土土器
実測図(1/3)

は南西側の、北西-南東に主軸をおく梢円形の土坑として捉えるべきであろう。梢円形の土坑部分では長軸方向に長さ1.3m、幅0.95mを測り、深さは0.6m程度である。図示はできないが、中世土師器、平瓦小片が出土している。埋土は10YR 3/3暗褐色粗砂であった。

SK301(第43図)

2区平坦面の東部に位置する。ほぼ南北に主軸を向けた長梢円形を呈し、長さ2.3m、幅0.9m、深さ0.3m弱である。土坑内には石が投棄されるとともに、壁・床面には基盤土に含まれる岩が露出していた。埋土は10YR 4/2灰黄褐色粗砂で、上面に炭が多かった。

図示はできないが、石鍋の小片もいくつか出土した。

SK301出土土器(第44図、第20表) 1は土師器皿である。2は土師器皿として図示したが、器高が低いため蓋となる可能性も考慮しておきたい。底部外面は糸切り痕後板圧痕が付着する。3は丸底で底部外面にケズリ痕を残す土師器鉢。4・5は外面も一部黒変するが、内面が黒色でミガキ仕上げの黒色土器であり、同一個体の可能性が高い。

SK325(第43図)

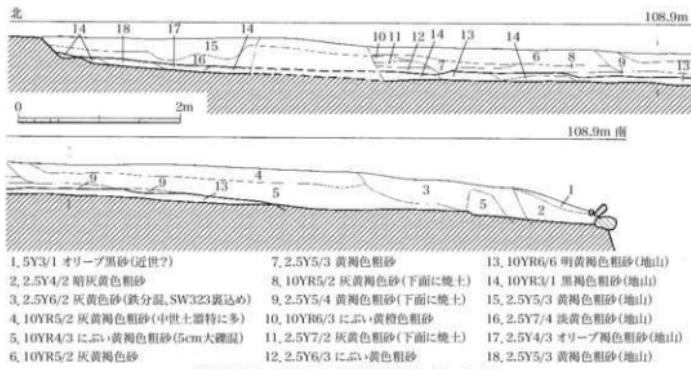
2区平坦面の東部に位置する。北東-南西に主軸を向けた梢円形を呈し、長さ1.4m、幅1.0mを測る。床面は検出面からの深さ0.2m余りで、平坦である。図示できる遺物は無いが、上層10YR 4/4褐色粗砂、下層10YR 5/4にぶい黄褐色粗砂を埋土とし、図示はできないが、石鍋片もいくつか出土している。

第19表 SW323出土土器・磁器観察表

網番	調査番号	出土遺跡等	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	器形や底面の特徴	埋土率	備考	資料番号
42-1	SK323	土師器皿	土師器皿	口径80、高さ9 cm	細緻、赤褐色調、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	糸切り痕後板圧痕を残す。	1/4		558
42-2	SK323	土師器皿	土師器皿	口径80、高さ11 cm	細緻、赤褐色調、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	内側ナギ仕上げ。	1/4		555
42-3	SK323	土師器皿	土師器皿	口径80、高さ21 cm	細緻、赤褐色調、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	底面の縫合部に粘土を残す。口縁外側 に内側ナギ仕上げ。	1/4		556
42-4	SK323	土師器皿	土師器皿	口径80、高さ21 cm	細緻、赤褐色調、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	内側ナギ仕上げ。		高麗全周	557
42-5	SK323	土師器皿	土師器皿	口径104、高さ15 cm	細緻、赤褐色調、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	内側ナギ仕上げ。	1/4		554
42-6	SK323	土師器皿	土師器皿	口径100、高さ20 cm	細緻	良好	生黄色調、輪 状灰斑	内側は直線で口縁部の複数よりやや 上から凹凸繼續、内面削除。	1/4		559

第20表 SK301出土土器観察表

網番 番号	調査 番号	出土 遺跡等	器種	法量(cm)	胎土	焼成	色調	器形や底面の特徴	埋土率	備考	資料 番号
44-1	SK301	土師器皿	土師器皿	口径40、高さ12 cm	細緻化、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	底面外側に粘土を残す。	1/2		550
44-2	SK301	土師器皿	土師器皿	口径110、高さ6 cm	細緻化、表面 を少し含む	良好	白黃褐色	底面が粗く、表面に凹凸する可能性も考え られる。底面外側に糸切り痕後 板圧痕を残す。	1/4		546
44-3 44	SK301	土師器皿	土師器皿	口径110、高さ32 cm	細緻化、赤褐色化 を少し含む	良好	灰褐色	丸底で、底面外側にケズリ痕を残す。	1/2		548
44-4	SK301	黑色土 器類	黑色土 器類	口径100、高さ20 cm	1~2mmの大粒の細粒粘土、 表面、赤褐色化を多く 含む	良好	内面黒色、外 面赤褐色及び 黒色	は縫合部を弱く屈曲させて内反させ る。内側ナギ仕上げが残る。	1/6		544
44-5	SK301	黑色土 器類	黑色土 器類	高台径70、厚さ 28、高台20 cm	表面、赤褐色化を多く 含む	良好	内面黒色、外 面赤褐色及び 黒色	高台は比較的高い。内側ナギ仕上げが 残る。		高台全周	547



第45図 SX269 土層実測図（1／60）

包含層

SX269（図版20、第45図）

2区南東部の法肩のラインに沿って、幅7m、長さ18m程の範囲に堆積していた包含層である。深さは0.3m程であるが、特にその上部、4層から土器・陶磁器等の遺物が多量に出土している。遺物の出土状況等から考えて、遺物の投棄等によって、形成された包含層と考えられる。

SX269出土土器・磁器・石鍋（第46・47図、第21・22表） 第46図には土師器・瓦器・磁器を示した。

1～13は土師器皿。14～26は土師器杯で、27・28は土師器杯の底部と考えられる。29・30は土師器大型杯で、丸底に近いものと思われる。31～34は土師器鉢。いずれも器壁が厚く、砂粒を多く含む粗い胎土が特徴的である。35は高い突帯を巡らした土師器胴部片で、羽釜の胴部かと考えられる。36・37は瓦器楕で、36はやや小形品で、低い高台を貼付する。38～48は白磁である。このうち43～46は、南の法面近くから一括で出土したほぼ完形の白磁で、43・44は皿、45・46は玉縁口縁の楕である。47・48は白磁皿であるが、47の釉はやや青く発色する。第47図は滑石製の石鍋片である。1は口縁端部片で、端部はやや外傾する面をなす。2は突帯部付近、3は底部付近の再加工品である。

（3）東部第2面

2区東部の第1面の遺構の掘下げにおいて、基盤となる淡黄色粗砂の下に黒褐色粗砂、黄褐色シルト土があり、これを掘り込んだ遺構の存在が確認された。そこで淡黄色粗砂を除去して調査を行ったのが、第2面である（第48図）。小規模なピットが多く、出土遺物も少ないが、石を敷いた長方形の土坑、SK379の存在が注目される。

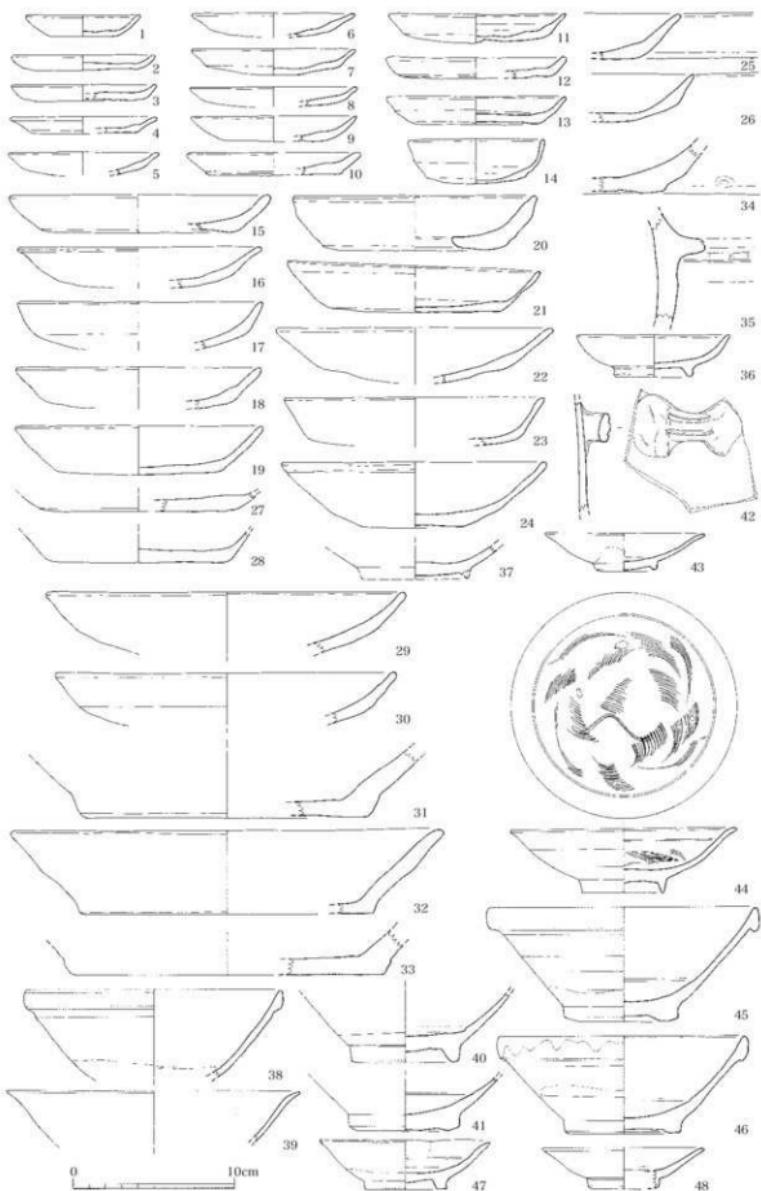
土坑

SK379（第43図）

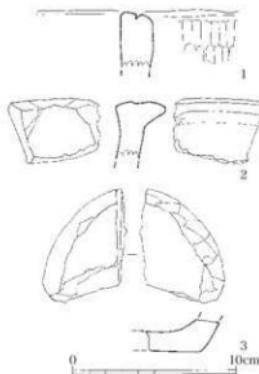
厚さ10cm前後の平たい石を敷き詰めた長方形の土坑で、上面及び石の間に多量の炭が堆積している点も注意を引いた。長さ1.3m、幅0.65mを測り、主軸をほぼ南北に向ける。

第21表 SX269出土土器・磁器・石鍋観察表(1)

調査番号	国別 番号	出土 遺物	断面	法高 (cm)	断土	構成	色調	断形の特徴	残存率	備考	登録 番号
46-1	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑68、高さ13		鋸歯状を少し含む	良好	灰褐色	外底面へ少しきず。			328
46-2	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑64、高さ9		鋸歯	良好	灰褐色	底部外底面にきずを残す。	1/3		691
46-3	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑66、高さ10	1mm大鋸歯状、露頂少 し含む		良好	褐色	外底面にきず複数箇所を残す。	1/4		508
46-4	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑68、高さ10	鋸歯状を少し含む		良好	灰褐色	内各ナリ仕上げ。	1/4		527
46-5	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑60、高さ10	1mm大鋸歯状、露頂少 し含む		良好、口縁 端部黒化	灰褐色	内各ナリ仕上げ。	1/4		503
46-6	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑68、高さ10		鋸歯	良好	白淡褐色	内各部底。	1/3		696
46-7	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑66、高さ13	1mm大鋸歯状少し含む		良好	灰褐色	内各部底。	1/2		529
46-8	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑69、高さ10	鋸歯状を少し含む		良好	灰褐色	内各部底。	1/4		518
46-9	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑62、高さ10		鋸歯	良好	灰褐色	内各部底。	1/4		684
46-10	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑101、高さ14	1mm大鋸歯状、露頂少 し含む		良好、内面 端部黒化	灰褐色	外底面にきずを残す。	1/4		505
46-11	46	上部断面 銀鏡裏	口徑106、高さ15	1~4mm大鋸歯少 し含む		良好	灰褐色	外底面にきずを残す。	注記充填		533
46-12	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑108、高さ13	鋸歯状を少し含む		良好	灰褐色	外底面にきずを残す。			483
46-13	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑107、高さ17	鋸歯状を少し含む		良好	灰褐色	内各ナリ仕上げ。 内底面黒化			492
46-14	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑107、高さ17	1~2mm鋸歯少 し含む		良好	黄褐色	内径内小く、鋸歯部をなす。外 底面黒化有り。			532
46-15	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑116、高さ23		鋸歯少 し含む	良好	黄褐色	内径に比較して、部が小さく、且 て内底面黒化。	1/4		499
46-16	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑140、高さ25		鋸歯	良好	白黃褐色	内各部底。	1/8		698
46-17	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑140、高さ26		鋸歯	良好	白黃褐色	内各部底。	1/7		502
46-18	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑140、高さ25	1~2mm鋸歯少 し含 む		良好	灰褐色	内各部底。	1/5		693
46-19	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑150、高さ25	1~3mm大鋸歯少 し含 む		良好	灰褐色	外底面にきずを残す。	3/4	注記の箇にある右組 の落込み出土と解釈 すべきか。	524
46-20	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑140、高さ25	1~3mm大鋸歯少 し含 む		良好	灰褐色	透底孔の可能性あり。 外底面黒化。			529
46-21	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑150、高さ31	1~3mm大鋸歯少 し含 む		良好	灰褐色	直底内底面にきずを残す。			419
46-22	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑166、高さ30	1mm大鋸歯少 し含 む		良好	灰褐色	丸底に凹い透底面をなす。内各部底。	1/4		504
46-23	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑158、高さ29	1mm大鋸歯状、露頂少 し含 む		良好	白黃褐色	直底外底面にきずを残す。	1/6		500
46-24	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑162、高さ26		鋸歯	良好	白黃褐色	直底外底面にきずを残す。	1/6		697
46-25	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑160、高さ31	1~2mm鋸歯少 し含 む		良好	灰褐色	直底外底面にきずを残す。	小片		501
46-26	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑170、高さ30		鋸歯	良好	白黃褐色	内各部底。	小片		695
46-27	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑172、高さ12		鋸歯	良好	灰褐色	直底外底面にきずを残す。	1/3		523
46-28	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑170、高さ20		鋸歯	良好	灰褐色	直底外底面にきずを残す。	3/4		526
46-29	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑170、高さ20	1mm大鋸歯少 し含 む		良好	白黃褐色	直底外底面にきずを残す。	1/5		531
46-30	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口徑170、高さ20	1~5mm大鋸歯多く含 む		良好	褐色	内各部底。	1/5		507
46-31	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口径172、高さ10	1~5mm大鋸歯多く含 む		良好	白黃褐色 内底面黒化	内各部底黒化。	1/8		698
46-32	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口径170、高さ10	1~5mm大鋸歯多く含 む		良好	白黃褐色 内底面黒化	内各ナリ仕上げ。	1/5		476
46-33	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口径170、高さ20	1~4mm大鋸歯、露頂 多く含む		良好	白黃褐色 内底面黒化	内各ナリ仕上げ。	1/8		690
46-34	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口径170、高さ10	鋸歯多く含む		良好	褐色	内各ナリ仕上げ。外蓋に擦傷压痕		内蓋使用のため小 切。	508
46-35	SX269合 金	上部断面 銀鏡裏	口径170、高さ10	鋸歯多く含む		良好	白黃褐色	外蓋に擦傷を残す。内蓋ナリ仕 上げ。場合、天端は不要である。	小片		520
46-36	SX269合 金	瓦形	山根型、底高 26、高台径46、 高台厚7		鋸歯状少 し含む	良好	灰色-白色	内各部底。			485
46-37	SX269合 金	瓦形	山根型、底高 26、高台径46、 高台厚7		鋸歯状少 し含む	良好	白黃褐色	内各部底。			421
46-38	SX269合 金	瓦形	口径159、高さ14		鋸歯	良好	白黃褐色	内底込みに沈殿物有。外下部黒化。			513
46-39	SX269合 金	瓦形	口径170、高さ20		鋸歯	良好	白黃褐色	内各部底。	1/6		542



第46図 SX269出土土器・磁器実測図（1／3）



第 47 図 SX269 出土石鍋実測図
(1/3)

図示できる遺物はない。

(4) 東部第3面

第2面のベースとなっていた 10YR 5/6 黄褐色シルト土に繩文土器が含まれているために掘下げ、第3面の有無を確認した。確認したところ、3基の黄褐色土を埋土とする不整形の落ち込み状遺構が検出されたので、掘削を行った(第48図)。掘削を行ったところ、底面も凹凸が顕著であり、しっかりした遺構とはならないため、恐らく風倒木痕跡のような遺構と考えられる。

(5) 2区南拡張部

2区の主体となる平坦面より、約3m程下に、調査前より平坦面のあることが確認されていた。そこに設定したのが本調査区である。平坦面の造成に伴い石を投棄した土坑 SK424 と、ピット等が検出された。

土坑

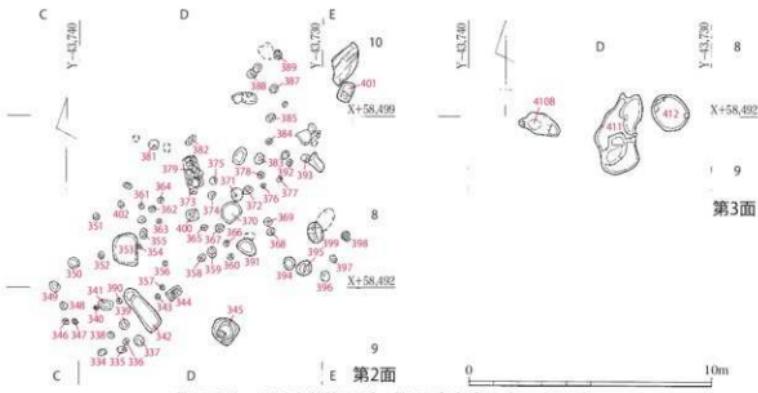
SK424 (図版 21、第 49 図)

2区南拡張部の北側に位置する。北側は調査区外に広がるが、長さ 5.5m、幅 4.0m を測るほぼ長方形の平面形を呈するものと考えられる。内部には 0.5 ~ 1m の巨石が多数投棄されており、造成に際して、石を片づけて投棄した土坑と考えられる。人力で石を除去することができず、底部までは完掘していない。図示できる遺物はないが中世土師器等が出土した。

(6) 2区その他の遺構出土土器・陶磁器

第 22 表 SX269 出土土器・磁器・石鍋観察表 (2)

調査 区分 番号	調査 区分 番号	出土 位置	面積	法面 (m)	鉢上	破成	色調	断面や技術的特徴	保存率	備考	登録 番号
III-40	33269E北 面標識	白縞模造 横井	高台壁6m、高台 底4m、残高4m	縦直	良好	輪灰黄色	外縁直よりやや上から高台内にか けて断続、且み輪状に輪削跡、 底4m、残高4m	全回	467		
III-41	33269E北 面標識	白縞模造 横井	高台壁6m、高台 底4m、残高4m	縦直	良好	輪灰黄色	外縁直並列窓、底4m、残高4m	全回	516		
III-42	33269E北 面標識	白縞模造 横井	高台壁6m、高台 底4m、残高4m	縦砂波少し含む	良好	輪灰黄色	底4mに斜柱を基点としてて、斜柱 底4m、残高4m	小片	輪削跡、黄褐色斜柱と 手づき2点	486	
III-43-28	33269E北 面標識 横井	白縞模造 横井	高台壁6m、 高台底4m、 残高4m	縦直	良好	生地灰褐色、 輪灰白色	高台一帯内にかけ断続、且み輪 底4m、残高4m	はげて断続	478		
III-44-28	33269E北 面標識 横井	白縞模造 横井	口壁3m、底高 4m、高台壁6m、 高台底4m	縦直	良好	生地灰褐色、 輪灰青緑色	内面横接ぎ窓、底4m一高台内に かけて断続	はげて断続	479		
III-45-28	33269E北 面標識 横井	白縞模造 横井	口壁3m、底高 4m、高台壁6m、 高台底4m	縦直	良好	生地灰褐色、 輪灰青緑色	外縁直よりやや上から高台内にか けて断続、且み輪状に輪削跡、是 底4m、残高4m	はげて断続	481		
III-46-28	33269E北 面標識 横井	白縞模造 横井	口壁3m、底高 4m、高台壁6m、 高台底4m	縦直	良好	生地灰褐色、 輪灰青緑色	はげて外縁直並列窓、外縁直より やや上から底4mにかけて断続、是 底4m、残高4m	はげて断続	480		
III-47-24	33269E北 面標識	口壁3m、 底高3m、 高台壁6m、 高台底4m	縦直	良好	生地灰褐色、 輪灰青緑色	外縁直よりやや上から高台内にか けて断続、且み輪状に輪削跡、是 底4m、残高4m	はげて外縁直並列窓、外縁直より やや上から底4mにかけて断続、是 底4m、残高4m	はげて外縁直並列窓、外縁直より やや上から底4mにかけて断続、是 底4m、残高4m	514		
III-48	33269E北 面標識	白縞模造 横井	口壁3m、 底高2.5m、 高台壁6m、 高台底4m	縦直	良好	輪灰死黃褐色	高台一帯内にかけ断続、且み輪状に 輪削跡		515		
47-1	33269E北 面標識	滑石製石 縫片	厚3.19				口縫合跡		508		
47-2	33269E北 面標識	滑石製石 縫片	厚3.14				表面剥離、口縫合中古色化する 事		510		
47-3	33269E北 面標識	滑石製石 縫片	厚3.15				底部の剥離		526		



第48図 2区東部第2面・第3面平面図 (1 / 200)

SD261 出土土器（第50図1、第23表）土師器杯で、底部外面には糸切り痕後、板圧痕が付着する。

SP263 出土土器（第50図2・3、第23表）2はやや灰色を帯びるが、土師器椀か。3は土師器鉢と推測される。

SK270 出土土器（第50図4～9、第23表）SX269 包含層に掘り込まれた土坑であり、本来、SX269に属するものが含まれる可能性も考えられる。4～6は土師器皿、7・8は瓦器椀である。9は多くの器形であるが、蓋と考えて図示した。口縁部内面に低い突出がある。

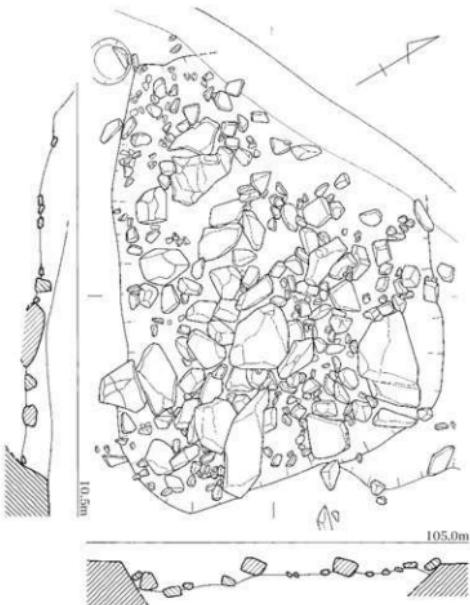
SP285 出土磁器（第50図10、第23表）ピット北側の遺構面から出土した白磁皿である。

SK288 出土土器（第50図11、第23表）灰褐色を呈する土師器で、鉢状の器形をなすか。

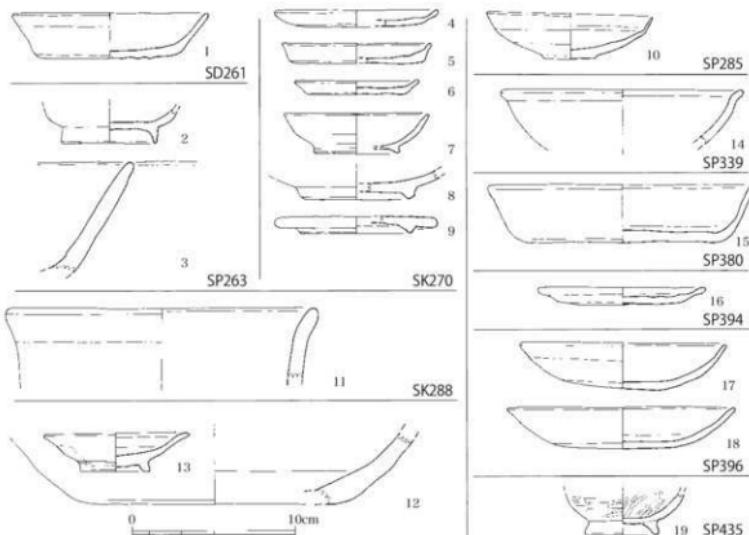
SP327 出土土器・磁器（第50図

12・13、第23表）12は粗製の土師器鉢で、底部内面にはコゲが付着する。13は青磁皿。

SP339 出土土器（第50図14、第23表）土師器杯で灰黄色を呈し、口縁部の外折が特徴的である。



第49図 SK424 実測図 (1 / 60)



第50図 2区その他の遺構出土土器・陶磁器実測図（1／3）

SP380 出土土器（第50図 15、第23表） 土師器器杯で、底部外面には糸切り痕を残す。

SP394 出土土器（第50図 16、第23表） 土師器皿である。

SP396 出土土器（第50図 17・18、第23表） 17・18は、いずれも土師器鉢である。

SP435 出土土器（第50図 19、第23表） 2区南拡張部のピットで、図示したのは瓦器椀底部片。

（7）板碑（図版21、第51図）

2区の北西、斜面裾に調査前から露出していた花崗岩製の板碑である。工事範囲にかかることが、ら調査の上、取り上げることとなった。

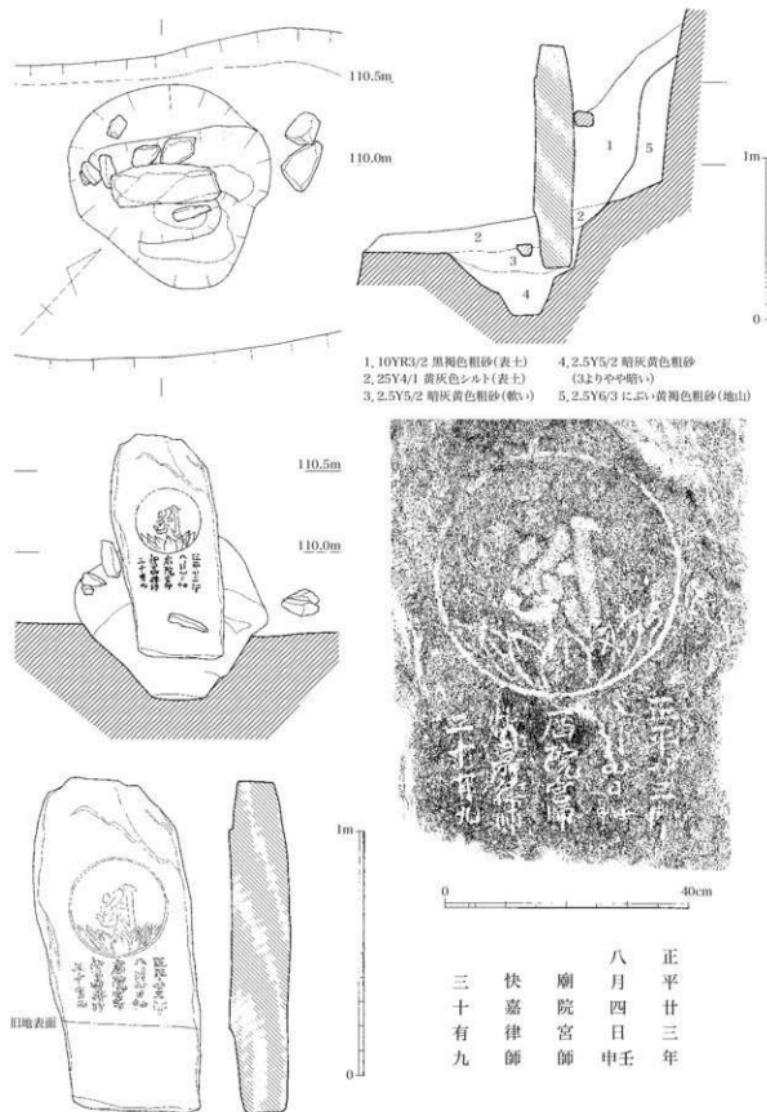
板碑は地表から高さ1.0m程露出していたが、下部は0.35m程、地中に埋め込まれていた。板碑本体は高さ1.35m、幅0.63m、厚さ0.23mを測る。

中央やや上部に直径0.4m程の円形区画を線刻し、円内中央に梵字を太く深い線で記し、円内下部にやや細い線刻により蓮弁文を描く。梵字の下には5行23字の銘文を線刻する。

板碑は円形の掘方内に設置されており、掘方にはしまりのない2.5Y5／2暗灰黄色粗砂が堆積していた。出土遺物がなく断定できないが、他の中世の遺構とは差があり、中世に遡るという印象は受けなかった。本来あった場所から移動して建て直された可能性が高いと考えておきたい。

太宰府市教育委員会山村信榮氏に銘文の釈読、拓本の採取について御協力をいただいた結果、銘文は「正平廿三年 八月四日壬申 廟院宮師 快嘉律師 三十有九」と読める。

2区の出土遺物には正平23年（南朝年号、1368年）前後の14世紀にまで下るようものはほとんど含まれない。上述したように1号建物の創建時期は11世紀後半にまで遡り、SX269包含層は12世紀を中心とするものと考えられる。したがって、この板碑と2区の遺構の中心時期には、懸



第51図 「正平廿三年」銘梵字板碑実測図（設置状況1／30、板碑1／20、拓本1／8）

隔があるものと言える。仮に板碑が建替えによる移動前から2区周辺に設置されていたとすれば、1・2号建物が廃絶した後も、水瓶山への信仰は継続し、その意識のもと、この場所が板碑樹立に際して選地されたということになろう。

第4節 鉄器・石器・縄文土器

第52図、図版24の2は鉄器である。1は鉄鎌、2・11は鉄小刀、13は棒状鉄器を折り曲げ環を作り出すもの、17は鉄刀子、15・21は刃部のない不明鉄片である。その他は鉄釘であり、いずれも11～13世紀を中心とする中世の遺物と考えられる。

このうち2～5はST97から出土したもので、2は土師器・磁器とともに出土した副葬品である。3～5は木棺の結合に用いた釘であるが、全長41mm、幅4mmと細く、木質の遺存から考えて、2・3は厚さ17mmの板に打ち付けられていたと推測される。この他、調査区各所から鉄釘が出土しているが、第52図には出土遺構が明らかで、なおかつ遺存状況の良好なものを掲載している。釘は9が頭部を太くするが、他は頭部を折り曲げて、打ち込むものであり、大形(12・18など)、中形(16・19など)、小形(3～5、8など)の3種に大きく分かれ。

第53図、図版24の3・4には石器、石製品、縄文土器を示した。

1～5は黒曜石打製石器で、1は石鎌、2は石鎌未製品である。3は下縁を使用したスクレーパー、4・5は側縁に使用痕の見られる剥片である。6は凝灰岩質の弥生時代石剣か。7は石鍋の転用品。8・9は2区から出土した縄文土器である。

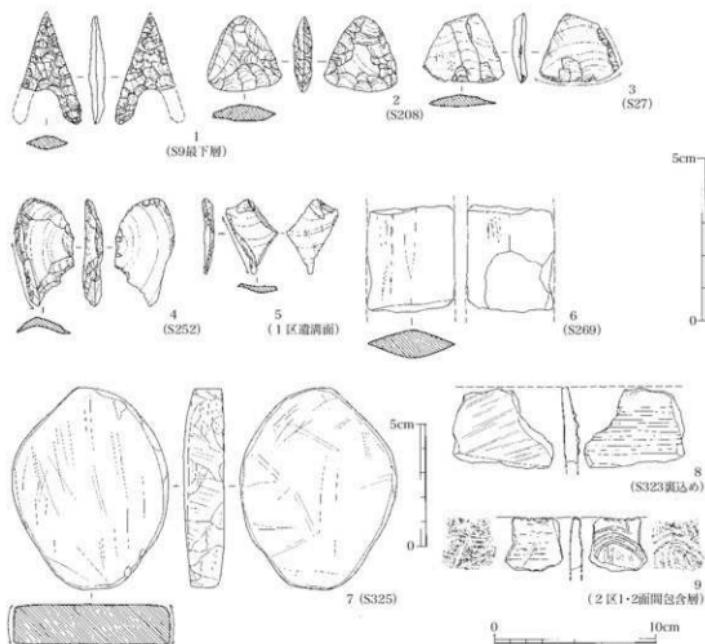
第23表 2区その他の遺構出土土器・陶磁器観察表

番号	番号	出土 遺構名	面積 (m ²)	性質	形状	色調	断面や底面の特徴	残存率	参考	登録 番号
50-1	24	ST97	土師漆器	口径18、高さ 28、底径18	漆碗和少し食む	良好	暗褐色	底面赤褐色で底面江底残す。	4/5	472
50-2		SP263	土師漆器	高径16、底径 22、高さ10	漆碗	良好	内面 底面	底面赤褐色、内面漆器底。	1/2	522
50-3		SP263	土師漆器	高径16、底径 22、高さ10	1～5mm大脚群で 食む	良好	内面 底面	内面漆器底。	小片	477
50-4		SP270	土師漆器	口径16、底径16	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/4	537
50-5		SP270	土師漆器	口径16、底径13	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/2	538
50-6		SP270	土師漆器	口径14、底径13	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/2	539
50-7		SP279	瓦陶柄	口径16、底径 14、高さ16	漆碗和 漆碗和少し 食む	良好	暗褐色	内面漆器底。	1/4	536
50-8		SP279	瓦陶柄	口径16、底径 17、高さ16	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/2	536
50-9		SP279	瓦陶柄	口径16、底径15	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/4	534
50-10	28	SP262	漆 漆瓶	口径12、高 さ25、底径12	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/4	541
50-11		SP288	土師漆器	口径16、底径14	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/8	542
50-12		SP227	土師漆器	高径14、底径10	1～2mm大脚群、 漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/2	561
50-13		SP227	青磁瓶	口径16、底径16、 高さ16.7	青瓶	良好	生地白糸地、 青磁瓶	内面青白糸地。	2/3	560
50-14		SP239	土師漆器	口径16、底径16	漆碗	良好	内面漆器底。	内面漆器底。	1/4	570
50-15		SP280	土師漆器	口径16.2、底径 15、高さ12	漆碗	良好	底面 底面	底面赤褐色で底面江底残す。 底面内面一部漆器底。	1/6	565
50-16		SP294	土師漆器	口径15.2、底径10	2～3mm大脚群、 漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/3	566
50-17	28	SP296	土師漆器	口径16.0、底径16.0	漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/2	569
50-18		SP296	土師漆器	口径16.0、底径16.0	2～3mm大脚群、 漆碗	良好	内面 底面	内面漆器底。	1/2	567
50-19		SP435	瓦陶柄	高径14.0、高さ 19.0、底径14.0	漆碗	良好	内面 底面	内面外内瓦キ、高台内外ナラ仕上げ。	高台全周	707

このうち8・9は2区の黄褐色土から出土しており、その形成が縄文前期に近いことを示す。1～2区から出土した黒耀石打製石器もこれら縄文時代に属するものであろう。



第52図 鉄器実測図 (1/2)



第53図 石器・縄文土器実測図 (7は1/2、8・9は1/3、他は2/3)

第4章 おわりに

今回の調査で、特筆されるのは2区において礎石立の1号・2号建物跡を検出したことであろう。2号建物は1号建物の北側の基壇列石の上に盛土して整地し、建築されているために1号建物、2号建物の順であることは確実である。

建物の年代を示す資料としては、2号建物の整地盛土下層より検出されたSU418遺物集中部の土器が最も重要である。これらの土器は一括りも高く、11世紀後半に比定することができる。1号建物跡に伴う基壇の列石は、SU418の位置する西側のみ失われている。これは2号建物の築造に先立ち、除去されたと考えられ、SU418は1号建物廃絶後、2号建物の建築前の、極めて短期間に形成された可能性が高い。したがって、1号建物跡は11世紀後半まで存続し、それに引き続い て2号建物が築造されたと考えられる。

1号建物基壇の北西隅を意識して埋納されたSS251西端ピット出土黄褐釉陶器壺も1号建物の存続期間内のものである。黄褐釉陶器壺については、時期はもちろんのこと製作地についても、意見が分かれるところであろう。上述したように、報告では、11世紀代に中国南方で製作されたとする立場をとった。すると、SU418出土土器とも合致してくる。したがって、1号建物は11世紀中頃には築造されていたと考えておきたい。

一方、2号建物の下限、存続時間幅を示す資料は少ない。ただ、2号建物の礎石周辺からの出土土器は13世紀に下るものはないと考えられる。したがって、2号建物跡の存続時期の下限を12世紀と比定しておくことにしたい。

1号建物と2号建物はほぼ同位置に、建替えという形で建築されたと考えられるが、両者の建物には大きな違いもある。ひとつは規模の違いであり、1号建物が3×3間であるのに対して、2号建物になると拡張して4×4間になる。これは、寺院の繁栄等により、規模を拡大して荘厳化が図られたためと解釈しておきたい。

次に、同一地点の建替えの関係にありながら、主軸方位にずれがあることも注目される。2号建物は主軸を北からやや西に振っているのに対して、1号建物はほぼ正南北を向く。大宰府関係の古代官衙建物は正南北方向に主軸を向けることが多いので、1号建物は古代的な造営規制が残存している時期に築造されたと考えておきたい。2号建物は建替えに際して、周辺の地形・等高線と主軸を合わせたものであろう。

これらの建物は、大宰府に関係する経塚埋納の対象となった水瓶山から稜線を降りてきて、最初の平坦地に位置している。1号建物の築造された11世紀は経塚埋納の最盛期にあたり、1号建物はまさに水瓶山の入口を意識して築造された経塚埋納に係わる建物と考えられるであろう。原山無量寺の古図には本建物は記録されていないが、寺の造営・拡張の経緯を考えると、重要な位置を占めるものと評価される。

また、2区には「正平廿三年（1368）」銘梵字板碑も樹立されていた。現在の位置は、建立当初の位置から建替えられたものと推測されたが、大きく位置を移動していないと推測される。2区は全体として12世紀の遺構を中心であり、板碑の年代まで下る確実な遺構は存在しない。水瓶山での経塚埋納は衰退し、かわって雨乞い祈願の対象となっていたと推定されるが、14世紀においても2区の地点が水瓶山に接した特殊な場所として、意識され、板碑が建立されたと考えられよう。銘文からは、板碑は「院宮師 快嘉律師」なる人物が「三十有九」歳の時に建立したことがわか

る。「廟院宮師 快嘉律師」は同一人物であり、原山無量寺に関係すると推測され、原山無量寺での宗教活動を物語る貴重な文字資料と言える。

一方、1区では、明確な建物遺構が見つからなかったが、石垣や整地に伴って石を投棄する土坑等が検出された。したがって、削平等により失われたが、寺域として建物が築造されていたことはほぼ間違いない。整地に係わる遺構等の出土遺物から判断すれば、12世紀を中心とするものと考えられ、2区よりやや新しい時期に中心がある。

原山無量寺、原遺跡は、江戸時代以来農地として利用され、近年は宅地化が進んでいる。寺院の建物跡があったとしても、削平等により失われたりして、把握することが困難と予想されるが、石垣や平坦地の造成に伴う遺構に注目すれば、寺域の範囲、その時間的変遷も調査の蓄積によって、次第に復元できるのではないかと考えられる。

今回の調査で縄文時代早期の縄式土器が出土したことも特筆される。良好な包含層を捉えられなかつたため断片的な遺物にとどまるが、これらの縄文土器は本来、2区の黄褐色土の中に含まれていたい可能性が高い。同様の土壤は1区の最高所の狭い平坦面でも一部確認することができた。したがって、中世寺院の造成による地形の改変が著しいものの、原遺跡の中では場所によっては良好な状態で縄文時代の遺構が残されていることを期待しても良いであろう。

今回の調査は、砂防ダム建設に先立つ時間的に限られたものであり、報告書も短時間で作成せざるを得なかつた。また、筆者の不勉強のため、調査成果を十分に咀嚼した上での報告書となっていないことも認めざるを得ない。多くの不備があると思われるので、御批判をいただければ幸いである。

今後も原遺跡、原山無量寺については太宰府市教育委員会において、報告書の作成が予定されている。今回の調査成果についても、調査の進展を見て、機会があれば再度、検討してみたい。



板碑採拓状況（1）

第24表 1区遺構一覧表(1)

遺構 記号	遺構番号	I. / 200m四方	埋土等	出土遺物	固版	種別	説明・留意事項等	備考
SK	1上塙	J 8	灰褐色粗砂	古墳底瓦、近世 陶器類			輪郭や不明瞭	
SK	2上塙	J 8	黒褐色粗砂	瓦類、土師 器類			小形の上塙、木の痕跡かも	
SK	3上塙	J 8	灰褐色粗砂	中世土師器類小片			11.整った長楕円形の上塙。浅い。	
SP	4ピット	J 8	暗褐色粗砂	中世土師器類小片			浅い、不整形のくぼみ状	
SP	5ピット	J 8	暗褐色粗砂	中世土師器類小片			浅い、底の削り落しあり。	
SP	6ピット	J 8	暗褐色粗砂。炭や多く混 入	中世土師器類小片			小ピット。	
SK	7上塙	J 8 + K 8	褐色粗砂。5cm間隔多く 混入	白磁口縁小片、 古墳底瓦			小形の長楕円形。輪郭はやや不明瞭 であった。	
文番	8							
SK	9包含柄	J 7 + K 7	土層剥離あり	土層剥離小片	20		「1区東北斜面含括」として遺物 20を引き上げたもの。この遺構に含 まれる。	
SK	10上塙	J 9	褐色粗砂、軽質土ブロック、灰泥。下部は暗褐色粘 質土	近世土器出土			上面では輪郭が不明瞭であったが、 掘り下げるにつれかして立候とな る。	
SP	11ピット	J 9 + J 10	暗褐色細砂	中世土師器類小片	4 + 5		表面的に浅いが直角のピット状に 深くならぬ小さな穴の輪郭を確認 したおそれもあり。	
SK	12上塙	J 10	灰褐色砂	中世土師器類小片			浅い輪郭はやや不安。南部がピット 状に深くなる。	
文番	13							
SK	14右垣	J 10 + J 11 + K 10 + K 11	土層剥離	中世土師器・陶 器類、瓦等			石棺を覆う土上には近世陶器類あ り。右垣を大きく表土網も「S14上 面」として取り上げ。	
SP	15ピット	J 10	暗褐色粗砂。粘性を含み崩 れやすい。	中世土師器類小片			しっかりした深いピット。	
SP	16ピット	J 9	褐色粗砂	中世土師器類小片			木の板の模様か?	
SP	17ピット	J 9	褐色粗質土	中世土師器類小片				
SP	18ピット	J 9	褐色粗質土	中世土師器類。近 世陶器				
SK	19上塙	K 9	土褐色灰質土。下部粘 性のある灰褐色砂で崩し易 い。	中世土師器。中 世陶器等			近世の上塙	
SK	20上塙	J 10 + K 10	褐色粘土、砂礫多く混 入	中世土師器。中 世陶器等多い			護S02に切られるように表示する が、北東側のピットの輪郭を広くと らえた可能性が高い。	
SP	21ピット	J 9 + K 9	褐色粘質土	中世土師器類小片			浅い。はっきりとしないピット。上 面は空凹と述べる。	
SP	22ピット	J 9 + K 9	褐色粗質土	中世土師器類小片			浅い。はっきりとしないピット	
SP	23ピット	K 9	褐色粗質土				浅い。はっきりとしないピット	
SP	24ピット	K 9	褐色粗質土				浅い。はっきりとしないピット	
SP	25ピット	K 9	褐色粗質土。崩少し見 出				ピット。	
SP	26ピット	K 9	褐色粗質土				浅い。	
SP	27廣	J 10 + K 10	土層剥離		17		化S3K10、南にS04の裏込め含括 があるため、輪郭は不安	
SP	28ピット	K 10	土層剥離	中世土師器類小片			威力は方形で整う。柱痕あり。	
SK	29上塙	I 7	土層剥離	出土遺物なし	8		11浅い。施上修理工事を行 なった。	
SP	30ピット	I 7	黒褐色粘質土。底多く混 入				多く切した塊丸めめられ等とす る。	
文番	31						浅く。はっきりしないピット。	
SP	32ピット	I 7	灰褐色細砂。やや粘性有り					
SP	33廣	K 10	暗褐色砂。やや粘性有り	白磁口縁小片、 中世土師器類小片			浅い不整形な横床。床面でP75を検 出。	
SK	34上塙	K 10	暗褐色砂。やや粘性有り	中世土師器。上 部は小片			浅く落ち込み状で、出土遺物も少 ない。	
SP	35ピット	K 10	暗褐色細砂。やや粘性有り	中世土師器類小片			小さいピット。	
SP	36ピット	K 8	灰褐色細砂。多く混 入	中世土師器類小片			長楕円形のピット。SX77を切る。	
SP	37ピット	K 8 + K 9	灰褐色細砂。多く混 入	中世土師器類小片			小ピット。SX76 + SX77を切る。	
SP	38ピット	K 9	灰褐色粗砂	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	39ピット	K 10	暗褐色細砂	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	40ピット	K 10	暗褐色細砂	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	41ピット	K 10	暗褐色細砂。やや粘性。 崩少し見	上面で中世土師 器類			小ピット。	
SP	42ピット	K 9 + K 10	暗褐色粘土	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	43ピット	K 9 + K 10	灰褐色細砂	中世土師器類小片			S062を切る考えて掘り下げたが。浅 く。はっきりしないピット。	
SP	44ピット	K 10	暗褐色細砂。やや粘性。 崩少し見	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	45ピット	K 9	灰褐色細砂。やや粘性有り	中世土師器類小片			小ピット。	
文番	46							
SK	47上塙	K 9	土層剥離	中世土師器・陶 器類小片	8	11	多く切したが浅いくぼみで乱舞せず 人形で洗い相内形土机で、S063を切 る。	
SP	48ピット	K 9	灰褐色細砂。	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	49ピット	K 10	暗褐色粘土	中世土師器類小片			小ピット。	
SP	50ピット	K 9	褐色粗砂。やや粘性。				浅く、繊毛とすこに系盤に含まれ るなど地山。	
SP	51ピット	K 9 + K 10	褐色粘質土				小ピット。SP49を切るとしたが、輪 郭は登場していない。	
SP	52ピット	K 9	暗褐色粗砂					
SP	53廣	K 9	7.8m×3褐色粘質土	中世土師器類小片	17		礎石は廣で、SK47に切られる。	
SP	54ピット	K 9	10m×4褐色粘質土	中世土師器類小片			調査区外へと続いている。 が、主結構丸形と推測される。	

第25表 1区構造一覧表(2)

遺構 番号	遺構 名	I. / 200m四方 理上等	出土遺物	固版	種別	説明・留意事項等	備考
SP 55	ビット	K 9	10953-1褐色粘土質土	中世土器類小片	不整形の小ビット。		
SP 56	ビット	K 9	10933-2褐色粘土質土に斑状に 7, 5704-3褐色粗砂質	中世土器類小片	粗砂形の浅いビット。		
SP 57	ビット	K 9	10933-2褐色粘土質土に斑状に 7, 5704-3褐色粗砂質	中世土器類小片	小ビット。		
SP 58	ビット	K 9	10933-2褐色粘土質土に斑状に 7, 5704-3褐色粗砂質	中世土器類小片	小ビット。		
SP 59	ビット	K 9	10933-2褐色粘土質土に斑状に 7, 5704-3褐色粗砂質	中世土器類小片	小ビット。		
SK 60	上土塁	K 9	上樹洞参照	中世土器類小片	※ 11. 大形で浅い楕円形土塁。		
SK 61	ビット	K 9 (未記録)		西側形の小ビット。			
SK 62	上土塁	K 9	10934-2灰褐色粗砂質	中世土器類小片	長方形の所。S471を切ると考え方變る上部が、算出され得られる。		
SK 63	石垣	I 9 + I 10 J 9 + J 10	上樹洞参照	画面を複数の直土 等から中土 器・陶器器等出 現	5 + 6	S53W14の西に位置する直立する石垣	
SK 64	包含層	I 7 + I 8	10934-3に示す黄褐色粗砂	中世土器等。道 筋付少。	S309 + S301上層の薄い包含層。		
SK 65	包含層	H 8 + H 9	10935-3に示す黄褐色色。同 質。	中世土器等。道 筋付は少ない。	S306 + S307上層を複数の薄い包含層		
SK 66	包含層	G 8 + H 8	上樹洞参照	画面を複数の直土 等から中土 器・陶器器等出 現	10	斜面を造成し、平坦化した際の盛り 上か。	春日打した跡いくばくで記録せず 算出した知り、浅い溝。S308を切 る。
次番	67						
SK 68	廣	K 10	10934-1褐色粘土	中世土器類小片			
SK 69	上土塁	K 9 + K 10	I 9, 1094-1褐色粗砂質 (即・砂疊付)、 S30905-1褐色粘土質土	中世土器類。瓦 器底部等	12	北側0.6m、南S69Mに分かれる。北側 では輪郭が不明瞭。	
SK 70	上土塁	K 9 + K 10	10934-1褐色粘土質土に斑状に 7, 5705-4に示す褐色粘土質土	中世土器類小片		浅く、S602に切られたと考えたが、 輪郭不明瞭なため、後削除やや不 定。	
SK 71	上土塁	K 9	10934-2灰褐色粗砂質	中世土器類小片		西側が深くなる	
SK 72	ビット	K 9	2, 5705-1褐色粘土質土	中世土器類小片		S376を切る。	
SK 73	ビット	K 9	2, 5705-2褐色粘土質土	中世土器類小片		S376を切る。	
SK 74	ビット	K 9	10934-1褐色粘土質土	中世土器類小片		S376を切る。	
SK 75	ビット	S 10	10933-1褐色粘土質土。絆縫維	中世土器類小片		S303裏床面の小ビット	
SK 76	包含層	K 8 + K 9	上樹洞参照	中世土器。土 器底多	10	S21. 輪郭状の盛り、白灰層	
SK 77	上土塁	S 8 - T 8	上樹洞参照	中世土器。土 器底多	12	上層を土鋪めを一部移用。大きな石 を移用したが、浅く削りで記録せず 算出したが、浅くぼんやりとした	S304上層のビット
次番	78						
SP 79	ビット	T 8	10934-3に示す黄褐色粗砂 10934-3に示す黄褐色粗砂	遺物無し			
SK 80	上土塁	T 8	シントト付。床面ビットは 10934-2灰褐色粘土質土。	中世土器類等 粗砂	S364下層にある浅い土塁状の凹み		
SK 81	上土塁	T 8	10934-3に示す黄褐色粗砂		S364の下層にある浅い土塁状の凹み		
次番	82						
SK 83	上土塁	T 8	2, 5705-2灰褐色粗砂。灰 1. 壁。しまりあり	白磁口縫部小片	S365裏床面で 遺物無し		
SK 84	上土塁	T 8 + T 8	2, 5705-2灰褐色粗砂	中世土器類小片			
SD 85	廣	T 8 + H 9	10934-2灰褐色粘土質土	中世土器類小片	5306包含層下層の一部を。本道橋し て豊多を付した。	S366とあわせて説明	
SP 86	ビット	T 8	10934-3に示す黄褐色粗砂	中世土器類小片			
SK 87	ビット	T 8	10934-2灰褐色粗砂	中世土器類小片			
SK 88	上土塁	T 8	10934-2灰褐色粘土質土。壁 山ブリック多	中世土器類小片	浅い土塁。		
SK 89	上土塁	T 8	2, 5705-2灰褐色粘土質土	遺物無少	S365裏床面で剥出されたビット		
SP 90	上土塁	T 8	10934-1褐色粘土質土				
SP 91	ビット	T 8	10934-1褐色粘土質土				
SP 92	ビット	T 8	10934-2灰褐色粗砂質				
SP 93	ビット	T 8	10934-2灰褐色粗砂質。継多				
SP 94	ビット	T 8	10934-2灰褐色粗砂				
SD 95	廣	T 8	1樹洞参照		20-306の東に位置する溝。包含層との潤 合部。	S366とあわせて説明	
SK 96	廣	T 8	10935-2灰褐色粗砂質	中世土器類多	20-306の北側に位置する溝。包含層との潤 合部は土鋪め不明瞭。		
ST 97	墓		2, 5704-2灰褐色粘土質土。壁 多く。	壁部・上鋪面一 般として出上。	11	SD66は土鋪め不明瞭。	
SP 98	ビット	T 8	10934-2灰褐色粗砂。少々 灰白色。	10934-1褐色粘土質土。灰 少々。		壁部・上鋪面。鉄釘が一括して 出上(「S966下層」)として取り上げ	
SP 99	ビット	T 8	2, 5705-1褐色粘土質土。				
SP 100	ビット	T 8	2, 5705-2灰褐色粗砂質。				
SP 101	ビット	T 8	7, 5704-2灰褐色粘土質土。灰 少々。				
SP 102	ビット	T 8	灰少々。上鋪面前に覆り上 げ。				
SP 103	ビット	T 8	10934-1褐色粘土質土。灰少々 少々。				
SP 104	ビット	T 8	10934-1褐色粘土質土。灰少々。				
SP 105	ビット	T 8	2, 5705-1褐色粘土質土。灰少々。				
SP 106	ビット	T 8	2, 5705-2灰褐色粗砂質。				
SD 107	廣	T 8 + T 9	1樹洞参照		19. I 区西北部平田地の段に立った廣		
SK 108	整地柵	T 9	1樹洞参照		20. 石柱S963の資込で統べて取 り上げ		
SP 109	ビット	T 8	10934-1褐色粗砂質				
SP 110	ビット	T 9	10934-2灰褐色粗砂質。				
SK 111	上土塁?	T 8 + T 9	10935-2灰褐色粗砂質				
SP 112	ビット	T 9	浅い。理上鋪面前に覆り上 げ。				
SP 113	ビット	T 9	10935-2灰褐色粗砂質				

第26表 1区遺構一覧表(3)

遺構 番号	遺構 名	遺構埋明	1/2000Km ² 面積	理上等	出土遺物	回取	種別	説明・留意事項等	備考
SP 114 ピット	109	10985/2K 黄褐色粗砂						輪郭不明瞭であるが、稍円形、西側に石。	
SP 115 ピット	109	10985/2K 黄褐色粗砂、やや粘性						輪郭不明瞭。	
SP 116 ピット	109	10984/2K 黄褐色粗砂。灰層		土師器底瓦出土					
SP 117 ピット	109	10983/2 黑褐色粗砂		同安室青磁碗 片・土師器・土 器脚杯				上層等が一括して出土	
矢番	118								
SK 119 破壊例	109+110			上層頂部				浅い、記録せず	
SK 120 破壊例	111+111	(109)3/2 黑褐色粗砂						表面を埋められた整地土。	
SK 121 破壊例	112+112			上層頂部				SW14標の位置	
SK 122 石組	111+112+							10	114標東部含む地層
SP 123 ピット	112	10984/2K 黄褐色粗砂							
SP 124 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂						6+7	8+1区南東部、南西部間の石垣
SK 125 上層	112	2, 5, 10, 12 黑褐色粗砂		中層上層少し				浅い	
SK 126 上層	111+112			上層頂部					
SP 127 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 128 ピット	112	10985/2K 黑褐色粗砂							
SP 129 ピット	112	10984/2K 黄褐色粗砂							
SP 130 ピット	112	2, 5, 10, 12 黑褐色粗砂						浅い、中層上層少。	
SP 131 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂						浅い、中層上層少。	
SP 132 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂、やや粘性							
SP 133 ピット	112	2 黃褐色粗砂、やや粘性						中層上層少し	
SP 134 ピット	112	10983/2 黑褐色粗砂、やや粘性						遺物無し	
SP 135 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 136 ピット	112	10985/2K 黑褐色粗砂							
SP 137 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂、灰土、灰少。							
SP 138 ピット	112	2, 5, 10, 12 黑褐色粗砂							
SP 139 ピット	112	10984/2K 黄褐色粗砂							
SP 140 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 141 ピット	112	10985/2K 黑褐色粗砂							
SP 142 ピット	112	10985/3(1)~(3) 黑褐色粗砂						浅い	
塊丸	143			近畿～近代瓦出上					
SD 144 壁	112	10984/2K 黄褐色粗砂、細土							
SP 145 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 146 ピット	112	10982/2K 黄褐色粗砂						やや大型のピット	
SP 147 ピット	112	10983/2K 黑褐色粗砂、灰・鐵						稍円形、途中で段有り	
SP 148 ピット	112	10984/1 黑褐色粗砂							
矢番	149							浅い凹み、記録せず	
SP 150 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 151 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 152 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂、7.5mm 角石點上層・灰土層							
SP 153 ピット	812	10985/3(1)~(3) 黄褐色粗砂							
SP 154 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 155 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 156 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 157 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂、やや粘性							
SP 158 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂						施上履況	
SP 159 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂、灰少し。							
SP 160 ピット	112	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 161 ピット	111	10985/2K 黄褐色粗砂						中層上層少ない。	
SK 162 上層	111+112	1, 10, 10985/2K 黄褐色粗砂、 1, 10985/3(1)~(3) 黄褐色粗砂		中世陶器少量 骨等				稍円形、埋土中有石多く含む	
SK 163 土塗	301+302	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 164 ピット	812	10986/2K 黄褐色粗砂						円形	
SP 165 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂						稍円形、途中で段有り	
SD 166 壁	812	10985/1 黑褐色粗砂、やや粘性						礁S166の棘き	
SP 167 ピット	812	10985/1 黑褐色粗砂						礁S166の棘き	
SP 168 ピット	812	10984/1 黑褐色粗砂						礁S166の棘き	
SD 169 壁	301+302	10985/1 黑褐色粗砂						礁S166の棘き	
SD 170 壁	301+302	10984/1 黑褐色粗砂						礁S166の棘き	
SP 171 ピット	812+812	10984/1 黑褐色粗砂						礁S166と礁S169と同様か 礁S166中には礁、礁分少し露	
SP 172 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 173 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 174 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 175 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂						浅いピット。	
SP 176 ピット	812	10984/1 黑褐色粗砂						礁S166の棘き	
SP 177 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 178 ピット	812	10985/2K 黄褐色粗砂							
SP 179 ピット	812	10984/2K 黄褐色粗砂、やや粘性							
SP 180 ピット	301	10985/2K 黄褐色粗砂						上層面ややまとまとて出土	
SP 181 ピット	301	10985/3(1)~(3) 黄褐色粗砂						白灰底部出土	
SP 182 ピット	301	10983/2 黑褐色粗砂							
SK 183 上層	301	10983/1 黑褐色粗砂						やや上層多い。	
SK 184 上層	302	10983/1 黑褐色粗砂						やや上層少。	
SK 185 上層	302	10984/1 黑褐色粗砂						上層少ない。	
SK 186 上層	301+302	10985/2K 黄褐色粗砂						上層少。	
SK 187 上層	302	10985/2K 黄褐色粗砂						14標上には人頭の複数。 塊丸、近世に隕。	
SK 188 上層	302	10984/2K 黄褐色粗砂、雜 多。							
SD 189 壁	312	10984/1 黑褐色粗砂						南北に長い溝状。	
SP 190 ピット	312+312	10984/2K 黄褐色粗砂上							

第27表 1区遺構一覧表(4)

遺構 部位置 番号	遺構種別	1./200cm両 壁上等	出土遺物	回数	種別	説明・留意事項等	備考
SP 191	ピット	H12	10984/1灰褐色粘土 10984/2灰褐色粘土。炭少し 瓦				
SP 192	ピット	H11					
SP 193	ピット		記録せざる			浅く、壁上に残りず	
SP 194	上塙	H11	上塙灰褐色、洗い 瓦	中世土器類2種 中世土器類、近 世塙	9	14塊上、中世土器多。	
SK 195	上塙	H11	10984/1灰褐色粗砂	白磁陶底瓦		壁上には手へ人頭大の罐多。	
SK 196	上塙	H10・H11	記録せざる			瓦、瓦片、無地瓦 瓦片は多く角罐多。	
SK 197	上塙	H11	10984/2灰褐色粗砂			上塙は1986と一体、人頭大の角罐 多。	
SK 198A	上塙	H11	10984/2灰褐色粗砂			人頭大の角罐多。	
SK 198B	上塙	H11	10984/2灰褐色粗砂				
SK 199	上塙	H11	10986/2灰褐色粗砂、灰斑 10985/1灰褐色粗砂上塙	上塙灰陶杯他	14		
SP 200	ピット	H11				中世土器類少	
SP 201	ピット	H11	上塙2.5kg/2灰褐色粗砂、下 層10kg/2灰褐色粗砂や小粒 瓦			中世土器少	
SP 202	ピット	H10	10985/2灰褐色粗砂	中世土器少			
SP 203	ピット	H11	10984/1灰褐色粗砂	中世土器少			
SP 204	ピット	H11	10984/1.5kg/2灰褐色粗砂	中世土器少			
SP 205	ピット	H11	10984/2灰褐色粗砂	中世土器少			
SP 206						箱内形	
SK 207	包含層	H10	10984/2灰褐色粗砂	中世土器類少		SK194花の遺構面を覆う厚さ10cm程の 石片層	
SK 208	石垣		青込めは土解参考		7	石片層の整理跡も「S208裏塙」等 の記で取り上げ。整地層は下塙か ら上塙、陶器器の大型破片が多 い。	
SP 209	ピット	H11	2.5kg/2灰褐色粗砂			浅いピット	
SK 210	上塙	H11	10987/2/5kg/1灰褐色粗砂	中世土器類		他の坑、S207/10984/1灰褐色粗砂 等、上塙器多。	
SP 211	ピット	H11	10984/2灰褐色粗砂	中世土器類少片 のみ			
SP 212	ピット	H11	10984/2灰褐色粗砂				
SK 213A	上塙	H11	10984/1灰褐色粗砂			中世土器類少片	
SK 214	上塙	H11	10984/1灰褐色粗砂、炭多 瓦			中世土器類少片	
SK 215	上塙	H11	10984/2kg/2灰褐色粗砂			中世土器類少片	
SP 216	ピット	H11	10983/1灰褐色粗砂				
SK 217	上塙	H11	10985/2kg/2灰褐色粗砂				
SK 218	上塙	H10	10984/2kg/2灰褐色粗砂			中世土器類等	
SP 219	ピット	H10	10984/1灰褐色粗砂			中世土器類少片	
SP 220	ピット	H10	10983/1灰褐色粗砂				
SP 221	ピット	H10・H11	10983/1灰褐色粗砂				
SP 222	ピット	H10	10984/2kg/2灰褐色粗砂				
SP 223	ピット	H11	10983/1灰褐色粗砂			中世土器類少片	
SD 224	裏	H10	10984/1灰褐色粗砂	中世土器類、瓦 等	19		
SP 225	ピット	H10・H11	10985/1灰褐色粗砂				
SP 226	ピット	H10	10984/2kg/2灰褐色粗砂				
SP 227	ピット	H10	10984/2kg/2灰褐色粗砂				
SP 228	ピット	H10	10985/3kg/3灰褐色粗砂				
SK 229	上塙	H11	10985/3kg/3灰褐色粗砂				



板碑採掘状況(2)

第28表 2区遺構一覧表(1)

遺構 部類 部号	遺構番号	I./200cm西 理上等	古物遺物	回転 種別	説明・留意事項等	備考
SP	230ビット	89	10936.1灰褐色粗砂		ビット内に石	
SP	231ビット	89	10936.1灰褐色粗砂		ビット内に石	
SP	232ビット	89	10936.1灰褐色粗砂		ビット内に石	
SP	233ビット	89	10937.1灰白色粗砂	中世土師器・須 虫器種小片	ビット内に石	
SP	234ビット	89	10936.1灰褐色粗砂		ビット内に石	
SP	235ビット	89	10936.1灰褐色粗砂		ビット内に石	
SP	236ビット	89	10936.2灰褐色粗砂質			
SP	237ビット	89+C9	10936.2灰褐色粗砂質	瓦刻。中世土師 器	板石あり。建物2柱穴 壁上は土解因参照	
SP	238ビット	C9	10936.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 壁上は土解因参照	
SP	239ビット	C9	10936.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 壁上は土解因参照	
SP	240ビット	C9	10936.2灰褐色粗砂		建物1柱穴、板石あり 柱穴無し、偏平不安	
大番	241ビット	C9	10936.3に5-6.灰褐色粗砂	中世土師器小片		
大番	242ビット	C9	10936.3に5-6.灰褐色粗砂		板円形、板溝不安	
SP	243ビット	C9	10936.3に5-6.灰褐色粗砂	中世土師器小片		
SP	244ビット	C9	10935.3に5-6.灰褐色粗砂	中世土師器3点 (上面から出 る)	建物1柱穴、板石あり 壁上は土解因参照	
SP	245ビット	C9	10936.3に5-6.灰褐色粗砂	中世土師器小 片。瓦	板石、板瓦。柱痕等なし。建物1 柱穴瓦。	
SP	246ビット	C9	10935.3に5-6.灰褐色粗砂		板石、板瓦等なし。建物1 柱穴瓦。	
SP	247ビット	C9	10935.3に5-6.灰褐色粗砂		小シット、柱痕等なし。建物2 柱穴瓦。	
SP	248ビット	C9	10935.2灰褐色粗砂		柱穴無し。小ビット	
SP	249ビット	C9	10935.2灰褐色粗砂			
SP	250ビット	C9	10935.2灰褐色粗砂(無 力)、10935.4に5-6.灰褐色 砂		建物跡は大きな格円形ビット。柱痕 あり	
SS	251石列	C8+C9				北の包合層を「S251北側包合 層」として取り上げ
SS	252石列	C9				東の包合層を「S252東側包合 層」として取り上げ
SK	253包合層	C10	上輪岡参照	中世土師器。秩 跡等	建物1基座南外の包合層	
大番	254					S253の一部
大番	255					S253の一部
SP	256ビット	C9	10934.2灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 板石あり。建物2柱穴、輪郭不安。 西側の壁面とその毛干不規則	壁上は土解因参照
SP	257ビット	89	10934.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 板石あり。建物2柱穴、輪郭不安。 西側の壁面とその毛干不規則	壁上は土解因参照
SP	258ビット	B10	10934.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 西側の壁面とその毛干不規則 内凹の隙地との毛干不規則	壁上は土解因参照
SP	259Aビット	C9+C10	10935.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 板石あり。建物2柱穴	壁上は土解因参照
SP	259Bビット	C10	10935.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物1柱穴 板石あり。建物1柱穴	壁上は土解因参照
SP	260ビット	C9	10935.3に5-6.灰褐色粗砂		板石あり。建物2柱穴 板石あり。建物2柱穴	壁上は土解因参照
SD	261瓦	B10	10935.2灰褐色粗砂	上輪廻(附 壁)、瓦		瓦状。整地層の一部かも
SP	262ビット	88	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			
SP	263ビット	88	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			
SP	264ビット	C8	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			
大番	265					浅い。地山の赤色した部分かも 浅く好みで、記録せず
SP	266ビット	C9	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			
SP	267ビット	C9	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			
SP	268記録層	C8	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			
SK	269包合層	C8-C9+89-109	上輪岡参照	中世土師器・陶 器器多	20 45 21北側の包合層	
SK	270上輪	89	灰褐色の粘土質上 面	近壁		S269Cに開りこまれた土坑。石を投 入する
SP	271ビット	C9	10934.1に5-6.灰褐色粗砂			建物1柱穴
SP	272ビット	88	10934.2灰褐色粗砂	中世土師器小片		
SP	273ビット	88	10934.2灰褐色粗砂			
SP	274ビット	88	10934.2灰褐色粗砂	中世土師器小片		
SP	275ビット	88	10935.3に5-6.灰褐色粗砂	中世土師器小片		
SP	276ビット	89	10935.3に5-6.灰褐色粗砂			塊丸?。浅く埋土確認辺に削り上げ
SK	277上輪	88	10934.1に5-6.灰褐色粗砂			
SP	278ビット	88	10934.2灰褐色粗砂。底多く 底多く			上曲面では広くとらえすぎる
SP	279上輪	88	10935.2灰褐色粗砂。底多く 底多く			
SK	280上輪	87+C8	10934.2灰褐色粗砂。底多く 底多く			
SP	281上輪	88	10934.2灰褐色粗砂。底多く 底多く			
SP	282上輪	88	10934.2灰褐色粗砂。底多く 底多く			
SP	283上輪	88	10934.2灰褐色粗砂。やや粗 性。向少し左			
SP	284上輪	88	10935.3に5-6.灰褐色粗砂	中世土師器小片		
SP	285ビット	87		輪郭に沿って底多く		
SP	286ビット	87	記録せず		浅い	北西30cmの過橋面から出土し た1点の土器品を「S269北側 過橋面」として取り上げ→ 後に併記
SP	287ビット	87	10934.2灰褐色粗砂			
SK	288上輪	87	10934.3に5-6.灰褐色粗砂			
SK	289上輪	87	10934.3に5-6.灰褐色粗砂 西、10934.2灰褐色粗砂。西、 10934.3に5-6.灰褐色粗砂		2馬のビット	
SP	290ビット	87	記録せず			
SP	291上輪	87	10934.2灰褐色粗砂			
SK	292上輪	87	10934.2灰褐色粗砂			
SK	293上輪	88	10933.3灰褐色粗砂	中世土師器。平 板	43	
SP	294ビット	88	10934.2灰褐色粗砂。底少 量			
SP	295ビット	88+C8	10934.2灰褐色粗砂			
SP	296ビット	88	10934.2灰褐色粗砂			
SP	297上輪	88	記録せず		浅い、すぐに縁が剥出	
SP	298ビット	88	10933.2黑褐色砂。底多	中世土師器小片		

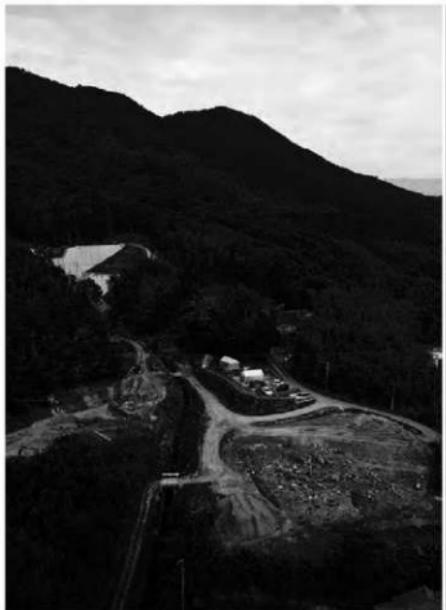
第29表 2区構造一覧表(2)

遺構 番号	遺構種別	1/200倍(両 壁上等)	出土遺物	固版	神岡 説明・留意事項等	備考
SP 299 ピット	E8	10984/2H黄褐色粗砂、灰白色 瓦器	工具器物、瓦器 機器			
久留 300					浅い、記録せず欠番とする	
SK 301 上板	E8	10984/2H黄褐色粗砂、上面 に凹凸多	中世土師器、石 器やや多	43		
SK 302 上板	E8	2,3,4/2H灰褐色粗砂	中世土師器小片			
SP 303 ピット	OB+DB	10985/3に付、黄褐色粗砂	中世土師器小片		東S30A、西S30B、理上はいずれも 同じ、記録せず欠番とする	
久留 304						
SP 305 ピット	D8	2,3,5/3H黄褐色粗砂			浅い、記録せず欠番とする	
SP 306 ピット	D8	10985/3に付、黄褐色粗砂			上面で奉入の荷難立点出す	
SP 307 ピット	D8	10984/3に付、黄褐色粗砂	中世土師器小片			
SP 308 ピット	D8	10984/3に付、黄褐色粗砂				
小畠 309						
SP 310 ピット	D9	10984/3に付、黄褐色粗砂			浅い、記録せず欠番する 石を含むが地石とは確定できず	
SP 311 ピット	D9	10985/3に付、黄褐色粗砂			現れあり、建物2社穴	
SP 312 ピット	B10				浅い	
SP 313 ピット	C9	10984/3に付、黄褐色粗砂			現れあり、建物1社穴	
SP 314 ピット	C10	10984/3に付、黄褐色粗砂			石を含むが地石とは確定せず	
SP 315 ピット	C8	10985/3に付、黄褐色粗砂			現れ、建物2社	
SP 316 ピット	C9	2,4,5/3H黄褐色粗砂 白磁水口把手			白磁水口把手出土	
SP 317 ピット	C9	10985/3に付、黄褐色粗砂	土師器瓦形		建物2社穴と考えられるが地石な い。	ピット北西の構造面から出土した 土師器等を「S317・238 固造構造」構造面として取り 扱う
SP 318 ピット	C9	10985/2H黄褐色粗砂	中世土師器小片			
SP 319 ピット	C9	10984/3に付、黄褐色粗砂 砂、柱頭1095/3に付、黃褐色 色砂	中世土師器小片		建物1基発掘	
SP 320 ピット	C9	10985/3に付、黄褐色粗砂			S20下層で植田	
SP 321 ピット	D9	10985/3に付、黄褐色粗砂			S270下層で植田	
SP 322 ピット	D9	10985/3に付、黄褐色粗砂			S270上層で植田	
SP 323 ピット	D9	10985/3に付、黄褐色粗砂			現れあり、建物1社穴	
SP 324 ピット	C9	10984/2H黄褐色粗砂			石を含むが地石とは確定せず	
SK 325 上板	OB+EB	1,3,4/4H黄褐色粗砂、下層 10984/4H黄褐色粗砂、漆石製 品等	土師器、漆石製 品等		43荷形	
SP 326 ピット	C9	10985/3に付、黄褐色粗砂			荷形、浅い、周辺の盛土との区別 が現れ、小石ならばに出土	
SP 327 ピット	D9	10984/3に付、黄褐色粗砂	鉢形小片			
SP 328 ピット	C8	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 329 ピット	C8	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 330 ピット	C8	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 331 ピット	D9	10985/4に付、黄褐色粗砂 砂、柱頭1095/3に付、黃褐色 色砂				
SK 332 上板	D10					
SK 333 台形	99+D10+EB				近景の台形、段状になる。 2段下段の台形	
SP 334 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 335 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 336 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 337 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂			甲上に10cm大荷難	
SP 338 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 339 ピット	2Bm9	10984/3に付、黄褐色粗砂				
SP 340 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 341 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂 砂、柱頭1095/6H黄褐色粗砂 質等				
SK 342 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂 砂、柱頭1094/3Lに付 黄褐色粗砂	中世土師器小片 鉢少量		編削はやや不明瞭	
SP 343 ピット	2Bm9	10985/2H灰褐色粗砂(底少 量)				
SP 344 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 345 ピット	2Bm9	10984/2H灰褐色粗砂(底少 量)			底面中央の小ピットは掘りすぎ	
SP 346 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂 砂			浅い。しっかりした穴ではない。	
SP 347 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂 砂				
SP 348 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 349 ピット	2Bm9+CD	10986/4に付、黄褐色粗砂				
SP 350 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 351 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 352 ピット	2Bm9	10985/2H灰褐色粗砂				
SP 353 ピット	2Bm9	10985/2H灰褐色粗砂				
SK 354 上板	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 355 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 356 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 357 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 358 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 359 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 360 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂 (底少)			遺物少ない。	
SP 361 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 362 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 363 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 364 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 365 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 366 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 367 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 368 ピット	2Bm9	10984/2H灰褐色粗砂	中世土師器小片 鉢少量			
SP 369 ピット	2Bm9	10984/3に付、黄褐色粗砂	黑色土器口縁部 鉢少量			
SK 370 上板	2Bm9	10984/3に付、黄褐色粗砂			方形の土坑状。浅く、遺物少ない。	
SP 371 ピット	2Bm9	10985/4に付、黄褐色粗砂				
SP 372 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂				
SP 373 ピット	2Bm9	10985/3に付、黄褐色粗砂 (底少)				
SP 374 ピット	2Bm9	10984/6に付、黄褐色粗砂 (底少)				
SP 375 ピット	2Bm9	10984/2H灰褐色粗砂(底 少)				

第30表 2区遺構一覧表(3)

遺構 番号	遺構種別	1./200m(西) 標高等	出土遺物	回数	種別	説明・留意事項等	備考
SP 376 ピット	2 m08	10934.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 377 ピット	2 m08	10934.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 378 ピット	2 m08	10934.78±5.5 黄褐色粗砂 (灰 斑)					
SK 379 土坑	2 m08	炭が一面に発達		43		長方形の土坑状で、底面には石を敷	
SP 380 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 381 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 382 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰 斑)					
SP 383 ピット	2 m08	10934.28±5.5 黄褐色粗砂 (灰 斑)					
SP 384 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 385 ピット	2 m08 ±8	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
大畠							
SP 387 ピット	2 m07	記録せず				浅い、記録せずを差しする。	
SP 388 ピット	2 m07	記録せず				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 389 ピット	2 m07	記録せず				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 390 ピット	2 m09	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 391 ピット	2 m09	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 392 ピット	2 m09	10934.28±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 393 ピット	2 m09	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 394 ピット	2 m09	記録せず				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
SP 395 ピット	2 m09 ±8	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)				浅い、理上等記録せずにして振り上げ	
大畠41							
SK 406 井戸	2 m08 - ES	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)	土師器杯 大形破 片				
SP 407 ピット	2 m08	10935.41±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 408 ピット	2 m08	10934.28±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 409 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 410 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 411 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 412 ピット	2 m08	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SK 413 井戸合附	B10 + C10	10935.6 黄褐色シルト	遺物無し				
SK 414 土坑	2 m07 ±10	10935.6 黄褐色シルト	遺文上部 小片				
SK 415 土坑	2 m07 ±10	10935.6 黄褐色シルト	遺物無し				
SK 416 土坑	2 m07 ±10	10935.6 黄褐色シルト	遺物無し				
SK 417 土坑	2 m07 ±10	10935.6 黄褐色シルト	遺物無し				
SK 418 土坑	2 m07 ±10	10935.6 黄褐色シルト	遺物無し				
SK 419 土坑	2 m07 ±10	10935.6 黄褐色シルト	遺物無し				
大畠42							
SS 421 石列	B8 + B9	土刷回参照		19	34	1号建物跡系東西の遺物集中部	
SS 422 石列	B8 + C8	土刷回参照				調査区の西側にある見廻の石列か。 S421石列の上部、見廻に石が堆積し ていて、S422石列の下部に見廻がある。	
SS 423 石列	B8 + C8	土刷回参照				建物2基礎石列北側、S413西端。 S418?下層にあたる。	
SS 424 石列(塊石)	B10	土刷回参照				建物2基礎石列北側、土刷回有り	
大畠43							
SE 418 遺物集中部	2 m09	土刷回参照		19	34	1号建物跡系東西の遺物集中部	
SS 419 石列	B10	土刷回参照				調査区の西側にある見廻の石列か。 S421石列の上部、見廻に石が堆積し ていて、S422石列の下部に見廻がある。	
久畠							
SS 421 石列	B8 + B9	土刷回参照		21	39	1号建物跡系東北の大型の石を投棄した 跡。	
SS 422 石列	B8 + C8	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SS 423 石列(塊石)	B10	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SK 424 土坑	B10 + E10	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 425 ピット	B9	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 426 ピット	B9	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 427 ピット	C9	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SK 428 ピット	B9	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 429 ピット	B9	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 430 ピット	B9	土刷回参照				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SK 431 口含網	B11	記録せず				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 432 ピット	B10	記録せず				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 433 ピット	B10	記録せず				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 434 ピット	B10	記録せず				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 435 ピット	B10	記録せず				建物2柱穴、礎石・根石あり。	
SP 436 ピット	2 m09 ±10	10935.41±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)	瓦脚陶底片				
SP 437 ピット	2 m09 ±10	10935.41±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					
SP 438 ピット	2 m09 ±10	10935.31±5.5 黄褐色粗砂 (灰斑)					

図 版



1. 原遺跡 18 次調査区全景 (南上空から)



2. 原遺跡 18 次調査区全景 (南上空から)



3. I 区北半全景 (南上空から)

図版2



1. 1区北半全景（北上空から）



2. 1区北東部平坦面完掘状況（北上空から）



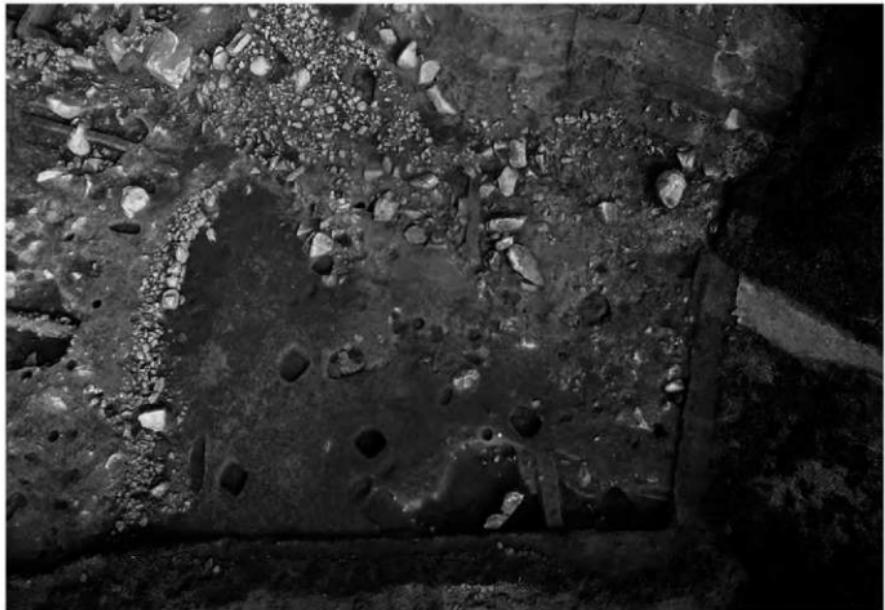
3. 1区北東部平坦面完掘状況（上空から）



1. 1区北半全景（上空から）



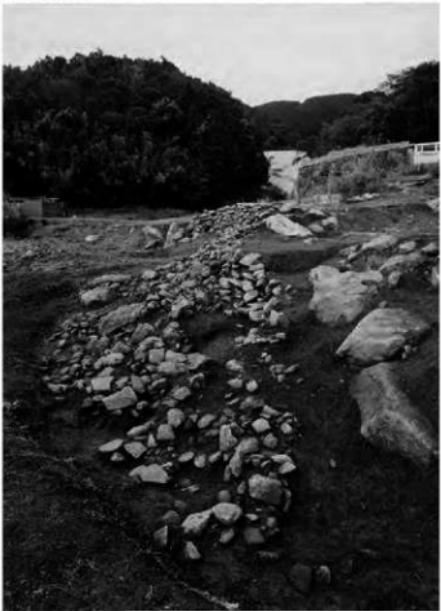
2. 1区南半全景（上空から）



1. 1区南東部平坦面完掘状況（上空から）



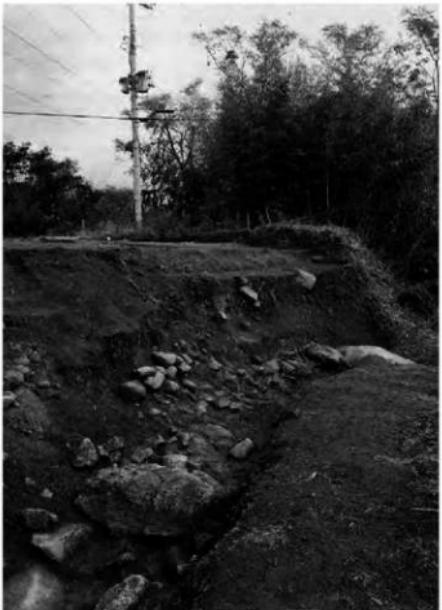
2. 1区南西部平坦面完掘状況（上空から）



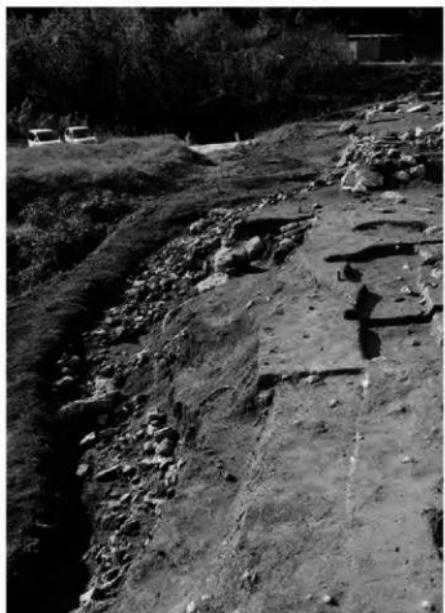
3. SW14 石垣（東から）



1. SW14 全景（南西から）



2. SW14 東半部（南西から）



3. SW14 (東から)



4. SW63 (西から)



1. SW63 (南から)



2. SW14 断面 (南東から)



3. SW122 断面 (南東から)



1. SW122 (東から)



2. SW208 (南西から)



3. SW208 背後の整地層 (西から)

図版 8



1. SK3 (南から)



2. SK29 (北から)



3. SK47 (南から)



4. SK60 (南から)



1. SK77 (南から)



2. SK77 北西部上面遺物出土状況 (北西から)



3. SK126 (北から)



4. SK194 (北東から)

図版10



1. SX66 (南東から)



2. SX76 南部 (東から)



3. SX108 (北西から)



4. SX121 (北西から)



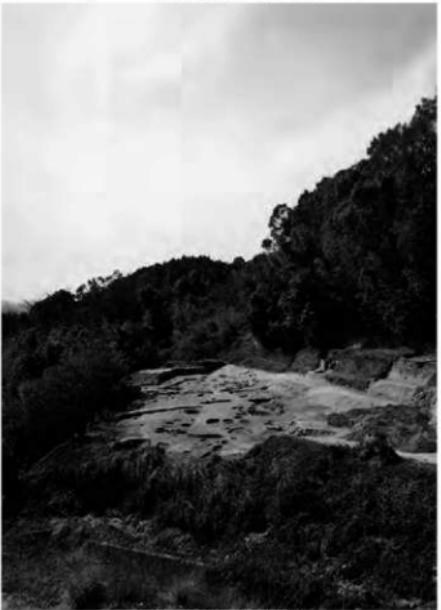
1. ST97（北から）



2. ST97 北側遺物出土状況（南から）



3. 2区第1面完掘（東から）



4. 2区第1面完掘（北東から）



1. 2区第1面完掘状況（上空から）



2. 2区第1面完掘（東から）



1. 2区第2面完掘状況（東から）



2. 2区第2面完掘状況（東北から）



3. 1・2号建物跡検出状況（上空から）



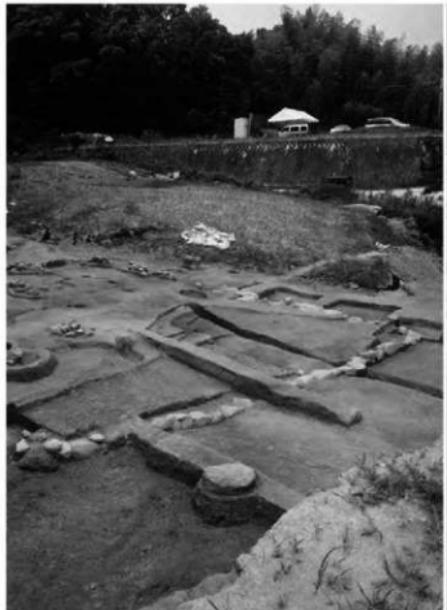
4. 2区南西壁土層



1. 2号建物跡（北から）



2. 2号建物跡（西から）



1. 2号建物跡基壇南石列（南西から）



2. 2号建物跡北西隅上層（北から）



3. 2号建物跡北西隅（北東から）



1. 2号建物跡北西隅（西から）



2. 2号建物跡基壇列石北西隅（北東から）



3. 2号建物跡基壇南前面埋土堆積状況（北西から）



1. 1号建物跡基壇北外土層（東から）



2. 1号建物跡基壇西外土層（南から）

3. 1号建物跡（北から）



4. 1号建物跡（北から）



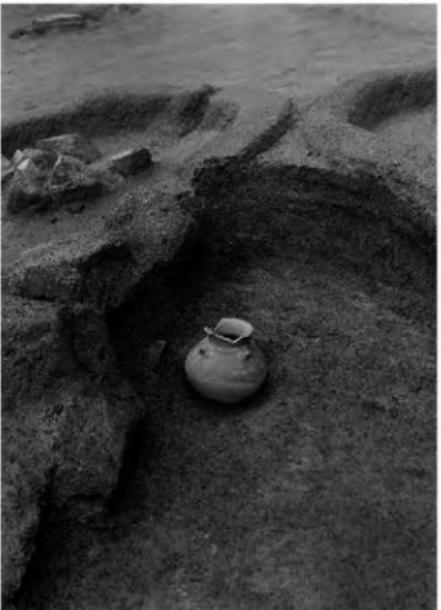
1. 1号建物跡（北東から）



2. 1号建物跡（西から）



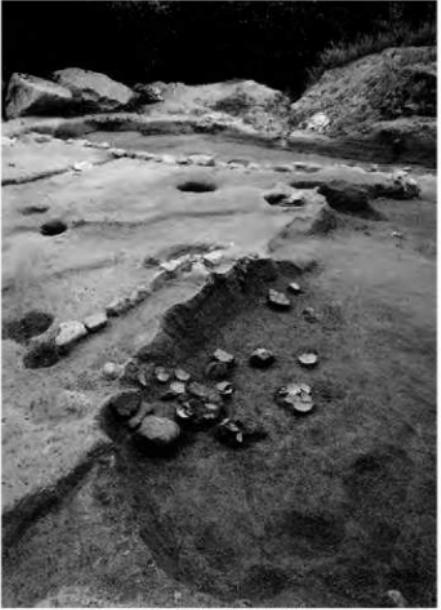
1. SS251 西端ピット土層（東から）



2. SS251 西端ピット壺出土状況（東から）



3. SP406 土器出土状況（西から）



4. SU418 土器出土状況（北から）



1. SW323 (南西から)



2. SX269 土層北半 (南西から)



3. SX269 土層南半 (南西から)



1. 2区板碑（南から）



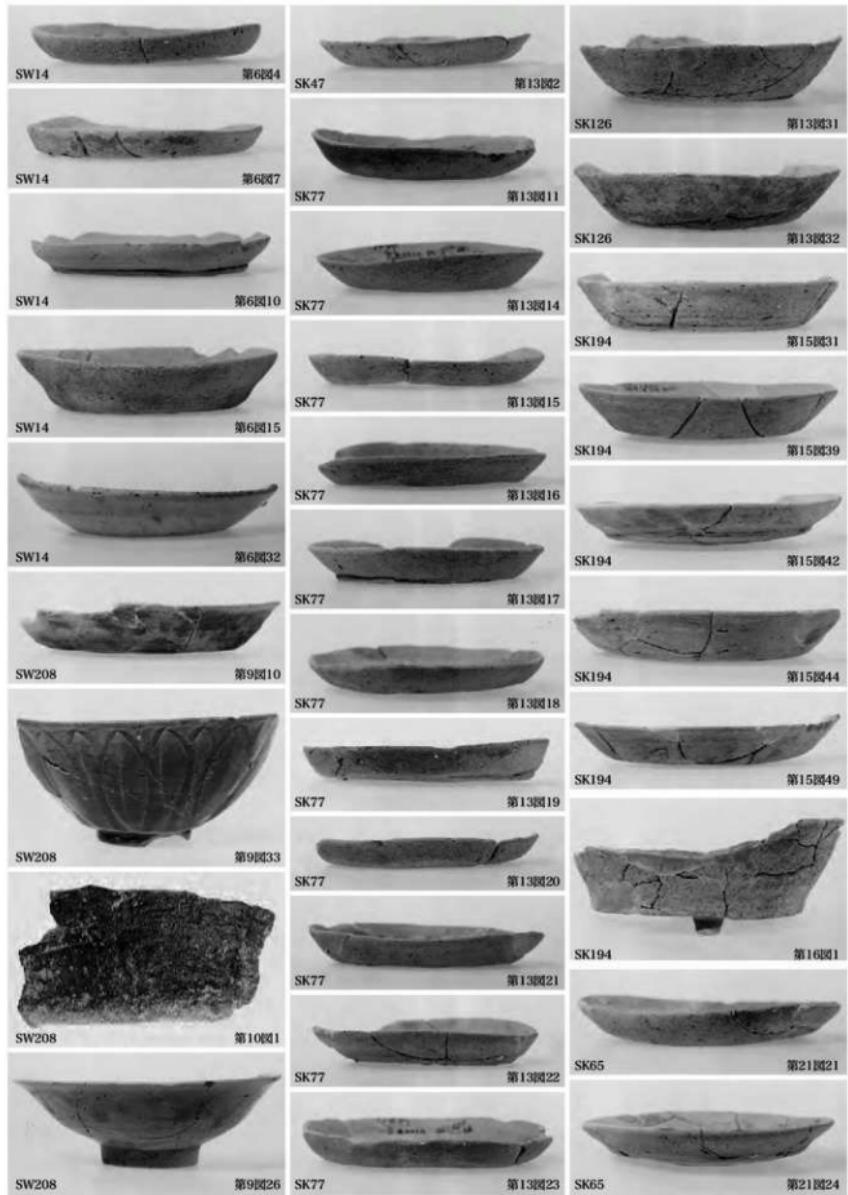
2. 2区板碑（南東から）



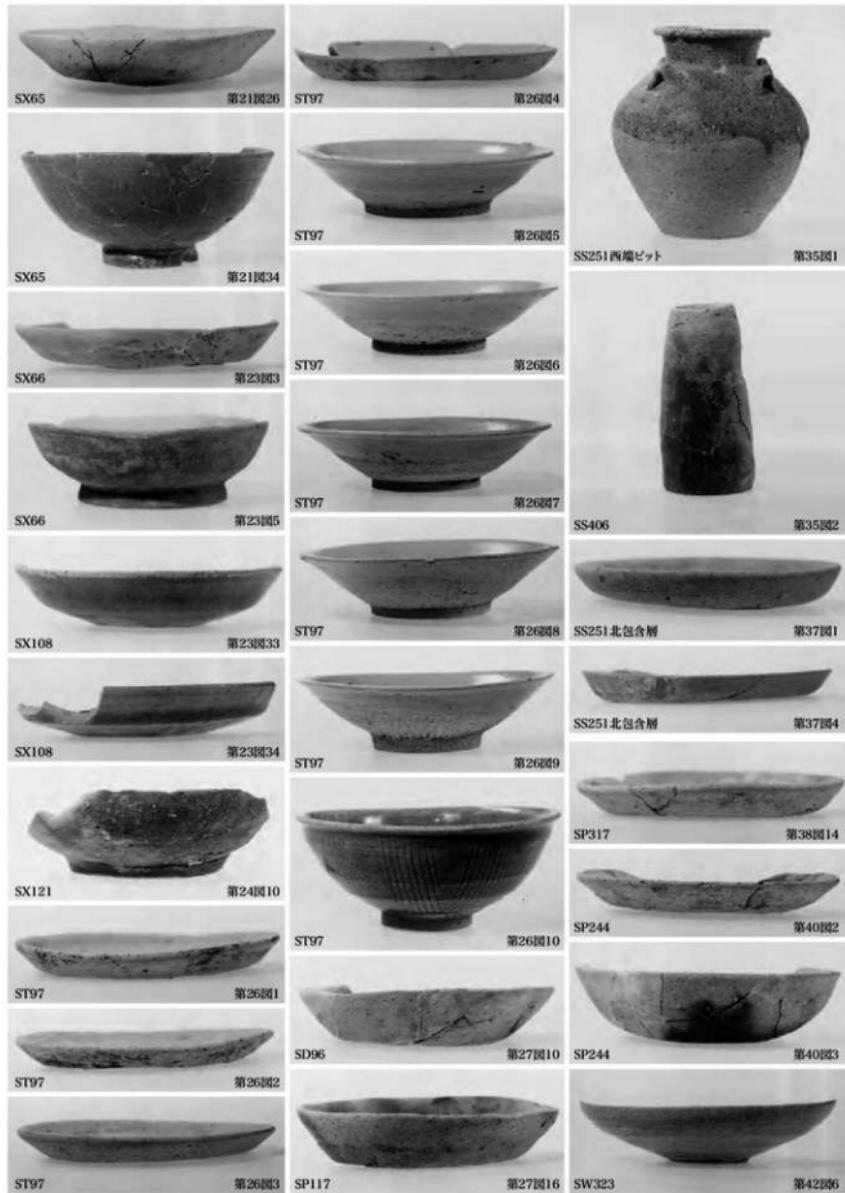
3. 2区板碑掘下げ（南東から）



4. SX424（西から）

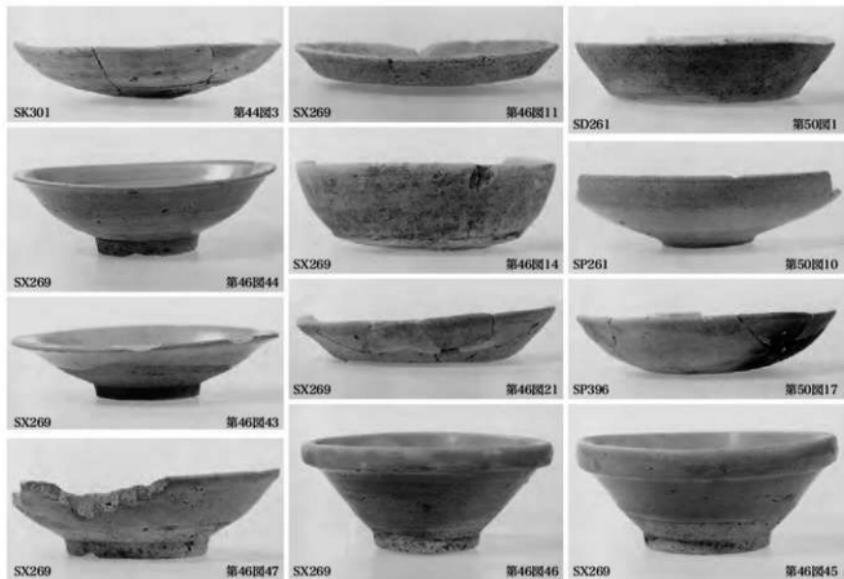


出土土器・陶磁器（1）

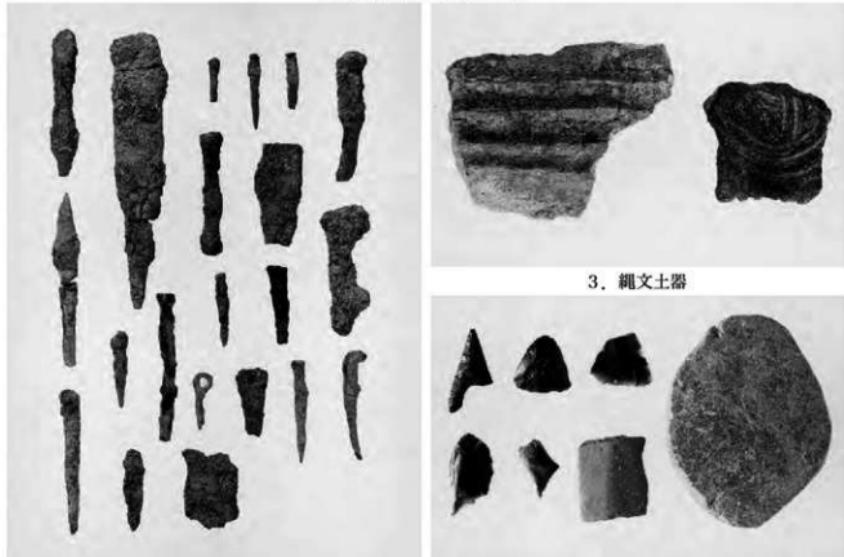


出土土器・陶磁器（2）

図版24



1. 出土土器・陶磁器（3）



2. 鉄器

4. 石器

報告書抄録

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2 1 3 3 0 5 1
登録年度 1 9	登録番号 1 1

原 遺 跡 18 次

福岡県文化財調査報告書第219集

平成20年3月31日

発行 福岡県教育委員会

福岡県福岡市博多区東公園7番7号

印刷 文化印刷株式会社

福岡県北九州市小倉北区井堀3丁目18-16